

# 我が国の科学技術人材の流動性調査

2009年1月

文部科学省 科学技術政策研究所  
第1調査研究グループ

中務 貴之  
治部 眞里  
角田 英之

文部科学省 科学技術・学術政策局  
調査調整課

Survey on Mobility of Science and Technology Researchers in Japan

January 2009

Takayuki Nakatsukasa, Mari Jibu and Hideyuki Tsunoda  
1<sup>st</sup> Policy-Oriented Research Group  
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)  
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

In cooperation with

Research and Coordination Division  
Science and Technology Policy Bureau

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)  
JAPAN

本調査報告書は、文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課と連携して、科学技術政策研究所が作成したものです。

本報告書の複製、転載、引用等には科学技術政策研究所の承認手続きが必要です。

# 「我が国の科学技術人材の流動性調査」

## 目 次

「我が国の科学技術人材の流動性調査」 .....	i
0. はじめに .....	1
1. 調査の目的・方法等 .....	2
1-1 調査の目的 .....	2
1-2 調査対象と実施方法 .....	2
1-3 調査期間等 .....	2
2. 調査結果 .....	3
2-1 研究者プロフィール .....	3
2-1-1 回収率 .....	3
2-1-2 性別・年齢・国籍など .....	3
2-1-3 職業・勤務地、年収など .....	5
2-1-4 学歴・博士号取得状況 .....	10
2-2 研究者の流動状況 .....	20
2-2-1 キャリア異動回数、海外での研究経験 .....	20
2-2-2 国内外のセクター間キャリア異動状況 .....	32
2-3 研究者の流動等に関する意識 .....	34
2-3-1 研究者選択理由、海外での研究実施理由 .....	34
2-3-2 今後の海外での研究予定 .....	36
2-3-3 日本人研究者の流動性 .....	37
2-3-4 日本に来る外国人研究者の状況 .....	46
3. まとめ .....	49
謝辞 .....	51

参考資料	52
参考資料 1. 調査集計結果	53
参考資料 2. 調査票手引き	75
参考資料 3. 調査票	88

## 図 表 一 覧

表 1	調査票配布数・回答数（回収率） .....	3
表 2	平均年収（勤務形態・セクター別） .....	10
表 3	修士号・博士号を取得した国 .....	12
表 4	回答者の博士号取得分野（内訳）（複数回答あり） .....	14
表 5	博士号取得者の勤務担当分野（内訳）（複数回答あり） .....	15
表 6	博士号取得者の博士号取得分野と勤務担当分野の関係 .....	16
表 7	回答者の博士号取得時の年齢（男女別、分野別） .....	17
表 8	回答者のセクター間異動状況（国内外異動別） .....	33

図 1	回答者の性別内訳 .....	3
図 2	回答者の男女別年齢構成 .....	4
図 3	回答者の国籍構成 .....	4
図 4	回答者の子供の有無 .....	5
図 5	回答者の勤務先国 .....	5
図 6	回答者の勤務先セクター .....	6
図 7	回答者の年齢構成別、勤務先セクター .....	6
図 8	回答者の勤務年数 .....	7
図 9	回答者の勤務担当分野 .....	7
図 10	回答者の勤務担当分野（セクター別） .....	8
(参考) 図 11	日本における研究者の勤務担当分野（セクター別） .....	8
図 12	回答者の任期（性別） .....	9
図 13	回答者の任期（セクター別） .....	9
図 14	回答者の勤務形態 .....	9
図 15	回答者の学位取得状況（男女別） .....	10
図 16	回答者の学位取得状況（セクター別） .....	11
図 17	回答者のポスドク経験 .....	11
図 18	博士号取得者の勤務セクター別内訳 .....	12
図 19	博士号取得者以外の勤務セクター別内訳 .....	12
図 20	博士号取得者の博士号取得分野 .....	13
図 21	博士号取得者の勤務担当分野 .....	13
図 22	博士号取得時における経済的支援（課程博士） .....	18
図 23	博士号取得時における経済的支援（論文博士） .....	18
図 24	回答者の教育経験と教育経験年数 .....	19
図 25	回答者のキャリア異動回数（割合） .....	20

図 26	異動経験の有無（経年変化）	20
図 27	回答者のキャリア異動回数（男女別人数）	21
図 28	回答者のキャリア異動回数（年齢別①）	21
図 29	回答者のキャリア異動回数（年齢別②）	22
図 30	回答者のこれまでのキャリアにおける異動回数（博士号取得別、ポスドク経験別）	23
図 31	回答者のキャリア異動経験の有無（セクター別）	24
(参考) 図 32	回答者のキャリア異動経験の有無（セクター別）：経年変化	24
図 33	回答者のキャリア異動回数（セクター別）	25
図 34	回答者の異動前後における給与（平均年収）の変化	26
図 35	回答者の直近 2 年間に投稿した論文数（異動経験別、セクター別）	27
図 36	回答者の直近 2 年間に申請した特許数（異動経験別、セクター別）	28
図 37	回答者の直近 2 年間に投稿した論文数（年齢別）	28
図 38	回答者の直近 2 年間に申請した特許数（年齢別）	29
図 39	回答者の直近 2 年間に投稿した論文数（分野別）	29
図 40	回答者の直近 2 年間に申請した特許数（分野別）	29
図 41	回答者の海外勤務経験の有無（男女別人数）	30
図 42	海外勤務経験者のセクター別内訳	30
図 43	回答者の海外勤務地域別内訳	31
図 44	回答者の国内外キャリア異動回数（のべ回数）	32
図 45	研究者という職業を選択した理由	34
図 46	海外で研究活動を行った理由	35
図 47	海外での研究活動をやめ帰国した理由	35
図 48	近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定と滞在期間	36
図 49	近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う理由	36
図 50	5 段階評価による回答方法の例	37

図 51	5年前と比較した日本人研究者の流動状況.....	37
図 52	日本における流動性と他先進諸国との比較.....	38
図 53	国内機関間の流動性が先進諸国に比べ低い理由.....	38
図 54	国内から海外への流動性が先進諸国に比べ低い理由.....	39
図 55	海外から国内への流動性が先進諸国に比べ低い理由.....	40
図 56	日本において研究者の流動性が増加した際のメリット.....	41
図 57	日本において研究者の流動性が増加した際のデメリット.....	42
図 58	5年前と比較した日本人研究者の海外への転出状況.....	43
図 59	日本人研究者が外国の大学や研究機関に転出する理由.....	44
図 60	頭脳流出 <sup>注)</sup> した日本人研究者が帰国を希望しない理由.....	45
図 61	5年前と比較した日本に滞在する外国人研究者の状況.....	46
図 62	外国人研究者が日本の大学や研究機関を選んで在籍し研究を実施している理由..	47
図 63	日本の大学や研究機関で研究を実施していた外国人研究者が日本を去る理由.....	48



# 我が国の科学技術人材の流動性調査

## 調査結果の概要

本調査では、我が国の大学・公的機関・民間企業等で現在研究活動を行っている 2,000 名の研究者に対して、現在の所属機関や学位取得状況、職業経歴、流動に対する意識面などを調査項目として調査を実施しました。有効回答者数は 1,036 名（民間企業 509 名、大学等 311 名、公的機関 180 名、非営利団体・その他 36 名）であり、有効回答率は 51.8% でした。この調査により以下のことが明らかとなりました。

### 【流動状況について】

- ① これまでのキャリアにおいて異動を経験したものは 66.1%を占め、年々増加している。過去同様の調査方法で実施した調査<sup>\*</sup>では、異動を経験したものの割合は、38.1%（2000 年度）、47.5%（2002 年度）、49.0%（2004 年度）であった。  
※文部科学省「平成 16 年度 我が国の研究活動に関する調査報告」、この調査は本調査と同様の方法で抽出した 2000 名の研究者に対して、研究環境等の意識について調査を行ったものであり、質問項目の一つにキャリアにおける異動経験の有無がある。
- ② 異動経験割合を勤務先セクター別に比較すると、大学等に所属するものは異動経験割合が 83.3%と高いが、民間企業に所属するものは 53.0%と低い。
- ③ 回答者全体の異動回数平均は 1.32 回であり、そのうち博士号取得者（回答者全体の 55.7%）の異動回数平均は 1.53 回、博士号未取得者の異動回数平均 1.07 回である。またポストドク経験者（回答者全体の 12.0%）に着目すると異動平均回数は 2.65 回と更に多く、博士号取得者特にポストドク経験者が研究者の流動性を担っている。
- ④ 異動全体で不明を除く回答（回答者の異動延べ総数 1,371 回：うち不明が 357 回）のうちでは、国内機関間の異動は 88.2%と大半を占め、国内機関から海外機関への異動が 5.3%、海外機関から国内機関への異動が 6.0%、海外機関間の異動が 0.5%と少ない。
- ⑤ 異動に伴う処遇の変化について、異動前後の給与（平均年収）を比較してみると、異動全体の 78.2%において給料が増加しており、変化なしもしくは給与が減少したのは全体の 21.4%を占める。研究者の異動に伴い給与（平均年収）が上昇していることがわかる。

- ⑥ 近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定のものは 2.0%と非常に少なく、予定をしていないものが 96.1%と大半を占める。日本において研究活動を行う研究者で海外に行こうと考える研究者が現状では少ない。

【流動に関する意識について】

- ⑦ 日本人研究者の流動状況について 5 年前と比較すると、やや増加したという回答が多い。しかしながら他先進諸国との流動性を比較すると国内機関間及び国内から海外、海外から国内の流動とも低いという回答が多く、特に国内から海外への流動性がより低いという回答が多い。
- ⑧ 国内から海外への流動が低い理由として、“海外へ移籍した後に日本に帰ってくるポストがあるか不安”、“海外機関へ移籍するためのコネクションがない”という回答が多い。
- ⑨ 日本全体の流動性増加に伴うメリットについて、新しい研究領域の開拓や新しい文化の取り入れのように研究機関及び研究者個人双方ともに様々な回答がある。一方、流動性増加に伴うデメリットとしては、研究機関は人材、ノウハウの流出だけでなく、長期研究計画の設定・実施の困難が挙げられるものの全体としてメリットのほうが高めの回答になっている。研究者の給与に関しては流動性の増加にあまり左右されないと感じている研究者が多いことが伺える。

## 1. 流動状況

### ①これまでのキャリアにおける異動経験

回答者のこれまでのキャリアにおいて異動を経験したものの割合は 66.1%を占める。2000、2002、2004 年度に実施された文部科学省調査<sup>(※)</sup>での研究者異動経験有無を調査した結果と比較して、異動経験者の割合は増加している。

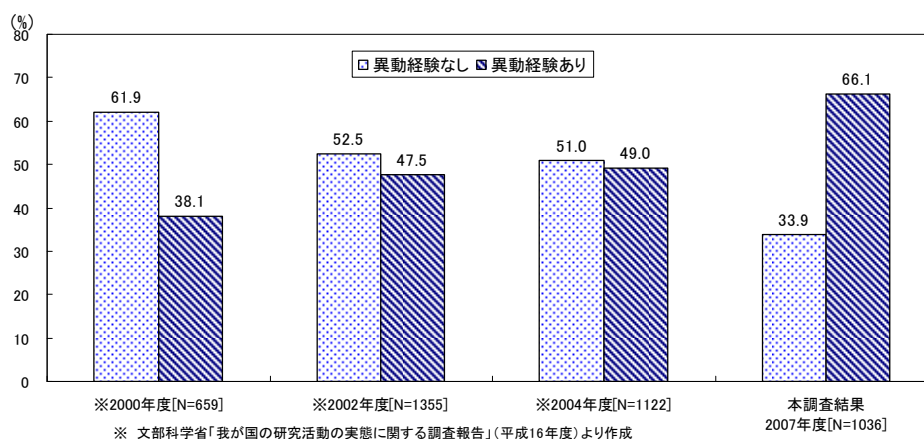


図 1. これまでのキャリアにおける異動経験有無の割合 (経年変化)

異動経験割合を勤務先セクター別に比較すると、民間企業に所属するもので異動経験のある研究者は 53.0%と他のセクター (大学等[83.3%]、公的研究機関[71.1%]、非営利団体・その他[82.4%]) と比較して非常に少ない。

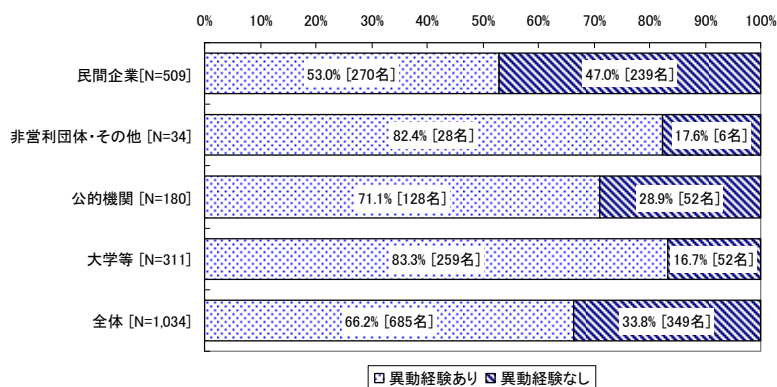


図 2. これまでのキャリアにおける異動経験有無の割合 (セクター別)

### ②これまでのキャリアにおける異動回数

回答者全体の異動回数平均は 1.32 回であり、そのうち博士号を取得した研究者 (回答者全体の 55.7%) に着目してキャリア異動回数を比較してみると、博士号取得者のキャリア異動平均回数は 1.53 回であり、博士号を取得していない研究者のキャリア異動平均回数 1.07 回と比べると、博士号取得者の異動回数は多い。

また、博士号取得者のうちでポスドク経験者（回答者全体の 12.0%）と未経験者のキャリア異動回数を比較すると、ポスドク経験者のほうが平均異動回数（2.65 回）は多い。博士号取得者特にポスドク経験者が研究者の流動性を担っているといえる。

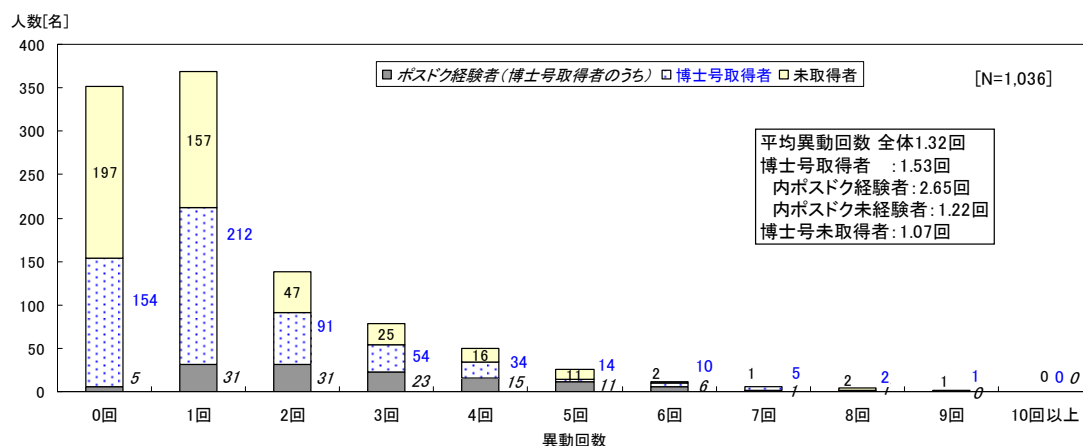


図 3. これまでのキャリアにおける異動回数（博士号取得別、ポスドク経験別）

### ③国内外のキャリア異動状況

これまでの国内及び海外を含むキャリア異動状況を整理すると、国内機関間の異動は全体の 88.2%を占め、国内機関から海外機関への異動は 5.3%、海外機関から国内機関への異動は 6.0%、海外機関間の異動は 0.5%である。国内海外間の流動は少ない。

表 1. 国内外のキャリア異動回数（延べ数）

[N=1,014] ※不明を除く		異動先	
		国内機関	海外機関
異動元	国内機関	894 回 88.2%	54 回 5.3%
	海外機関	61 回 6.0%	5 回 0.5%
不明もしくは無記入		357 回	

### ④異動に伴う処遇の変化

異動前後の給与（平均年収）を比較してみると、異動全体の 78.2%において給料が増加しており、変化なしもしくは給与が減少したのは全体の 21.4%を占める。研究者の異動に伴って給与（平均年収）が上昇していることがわかる。

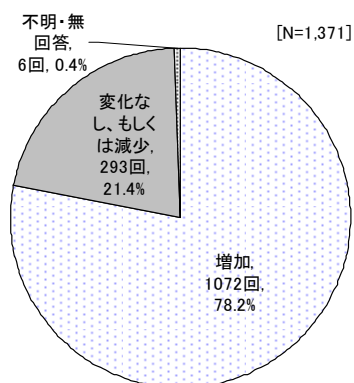


図 4. キャリア異動前後における給与（平均年収）の変化

⑤近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定

回答者に近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定について質問したところ、予定していると回答したものが 2.0%と少なく、予定していないと回答したものが 96.1%を占める。日本で活動する研究者で海外にて研究活動を行おう考えるものは少ないという状況が見てとれる。

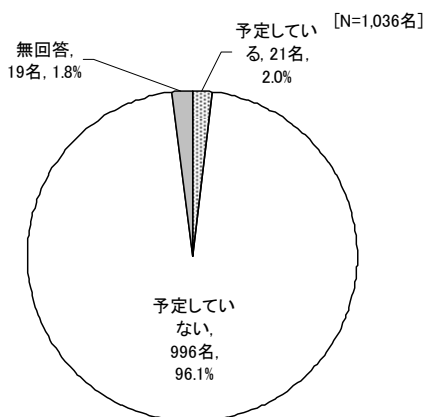


図 5. 近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定

2. 流動に関する意識

①日本人研究者の流動状況

日本人研究者の流動状況について 5 年前と比較すると、やや増加したという回答が多い。しかしながら他先進諸国との流動性を比較すると国内機関間及び国内から海外、海外から国内の流動とも低いという回答が多く、特に国内から海外への流動性がより低いという回答が多い。

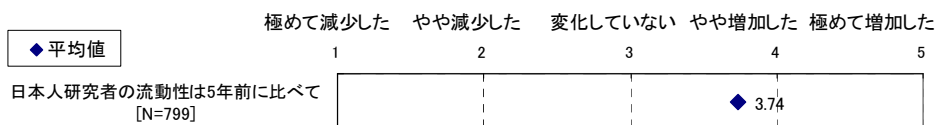


図 6. 5 年前と比較した日本人研究者の流動状況

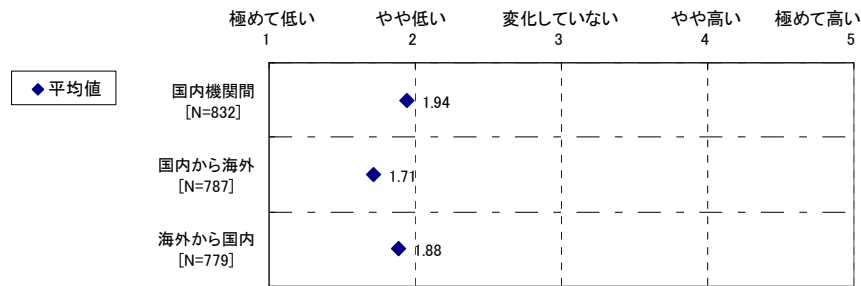


図 7. 日本における流動性と他先進諸国との比較

②国内から海外への流動性が低い理由

国内機関から海外機関への流動性が他の先進諸国と比較して低い理由として、“海外へ移籍した後、日本に帰ってくるポストがあるか不安”という帰国後のポストの不安や“海外の研究機関に移籍するためのコネクションがない”というコネクションの問題が強く意識されている。また“日本の方が生活環境がよい”や“他の先進諸国と距離的に離れている”という生活環境や地理的な問題の意識も強い。

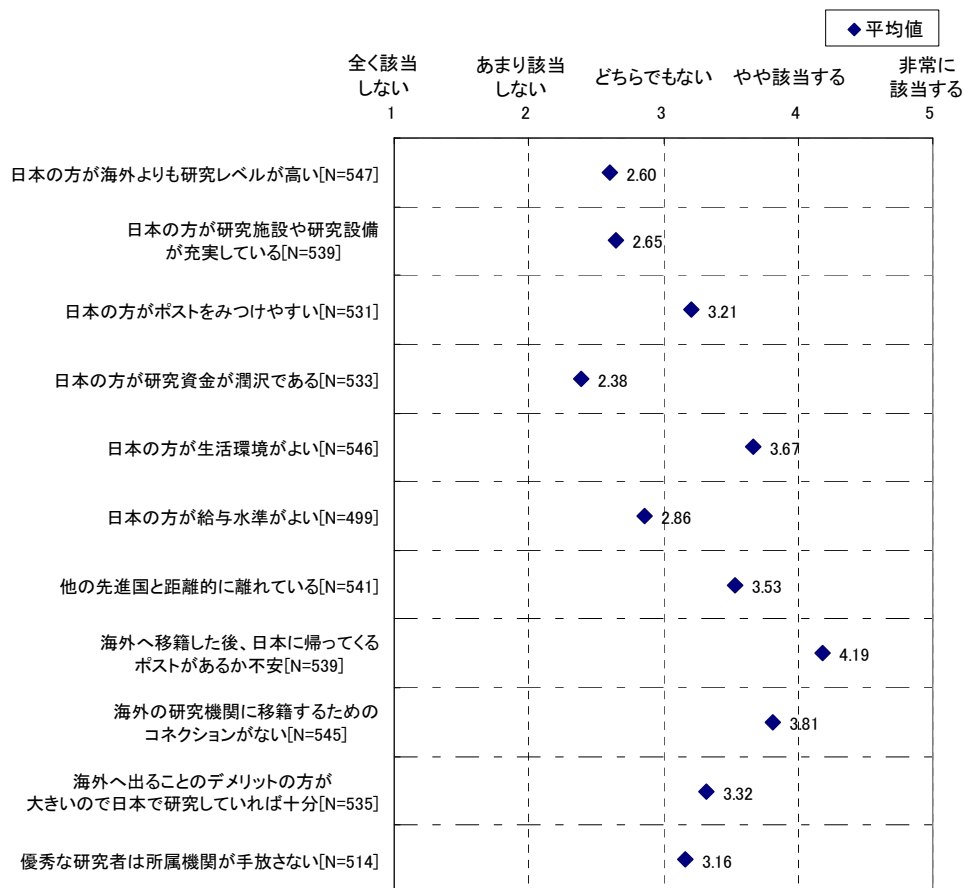


図 8. 国内から海外への流動性が先進諸国に比べ低い理由

③日本において研究者の流動性が増加した際のメリット・デメリット

日本において研究者の流動性が増加した際のメリットについて、“所属機関は新しい研究領域を開拓できる”、“所属機関は新しい文化を取り入れられる”といった所属機関の研究・文化の発展に関する項目の意識が強く、研究者個人にとっても“研究者が異分野との研究者と交流できる”という研究者交流の発展に関する項目の意識が強い。全体的には、所属機関にとっても研究者個人にとっても様々なメリットがあることがわかる。

次に、日本において研究者の流動性が増加した際のデメリットとしては、“所属機関のノウハウが流出しやすくなる”、“長期の研究計画の設定が困難になる”や“所属機関は優れた人材を失いやすくなる”といった人材、ノウハウの流出だけでなく、長期研究計画の設定・実施が困難であるという意識が強い。研究者の給与に関しては、流動性の増加にあまり左右されないという意識が伺える。

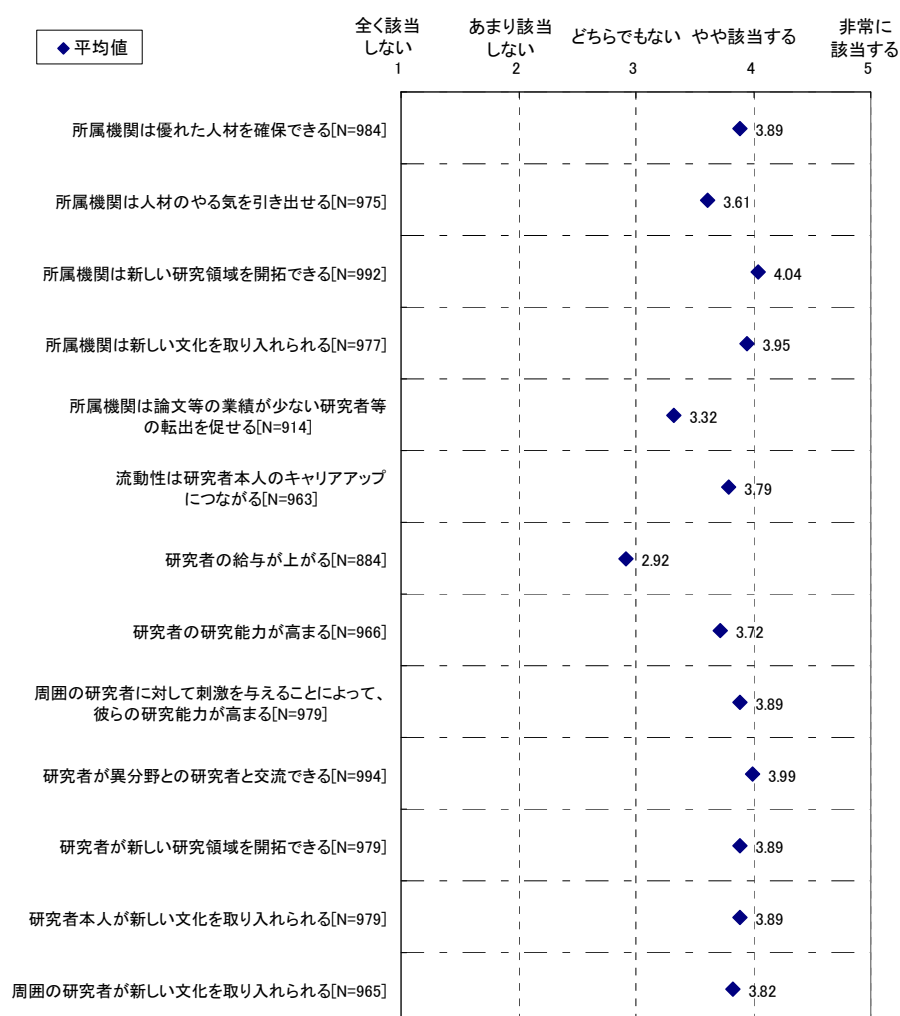


図 9. 日本において研究者の流動性が増加した際のメリット

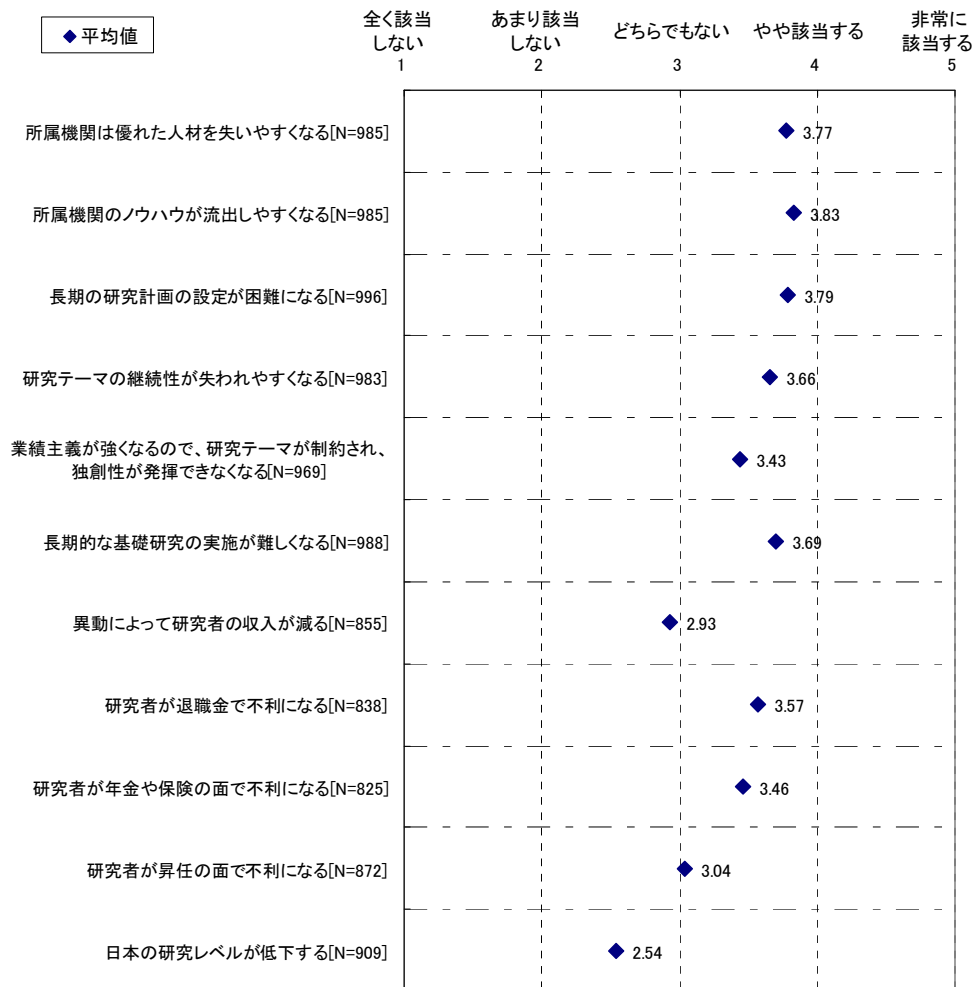


図 10. 日本において研究者の流動性が増加した際のデメリット



## 0. はじめに

我が国は他の先進諸国に先駆けて少子高齢化がますます進展し、労働人口は今後大幅に減少していくことが推測される。一方で、知識基盤社会が発展していくに伴い、科学技術研究人材の重要性はより高まっていくものと考えられる。

2006年3月に策定された第3期科学技術基本計画においては、「研究者の流動性を向上し活力ある研究環境を形成する」ことや、任期制などの拡大に当たって「民間も含めた研究者全体として流動性が高まっていくことが必要である」など、国全体としての科学技術研究人材の流動性の向上が必要であるとされている。

一方、世界的にみても研究人材の国際的な流動性に大きく関心がもたれており、2005年には OECD・EUROSTAT・UNESCO が「博士号取得後のキャリアパス Careers of Doctorate Holders (CDH)」プロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトには、米国・日本・ヨーロッパ等 OECD 加盟国がメンバーとなり、第一回専門家会合が、2005年3月に開催された。米国、英国、北欧諸国など多数の国で本 CDH 調査に対するアウトプットが提出されているものの、日本からはこれまで提出はされていなかった。

以上のように、人材の流動性については、科学技術人材政策において国内外共に高い関心がもたれている。しかし、我が国については、こうした動向に対応したデータが非常に不足しているのが現状である。

これらの状況を鑑み、本調査は文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課と科学技術政策研究所第一調査研究グループが連携して、現在科学技術に関する研究活動を実施している研究者 2,000 名を抽出し、研究者個人へ現在の所属機関や学位取得状況、職業経歴、流動に対する意識面などを調査項目として調査を実施した。

## 1. 調査の目的・方法等

### 1-1 調査の目的

我が国における科学技術の将来は、その担い手である科学技術人材の知的研究活動に大きく関わっている。2006年3月に策定された第3期科学技術基本計画においても、世界の科学技術をリードし、研究活動を一層活性化するためには、人材の流動性を高めることが重要であると認識されている。この点において、流動的な研究環境を創出させるために、研究者に対して任期を付して採用すること等の施策を行なっている。

また、国際的にも研究者の国際流動等について高い関心もたれており、OECD/CSTP(科学技術政策委員会)/NESTI(科学技術専門家会合)が、UNESCO、EUROSTATとの合同プロジェクトとして、国際流動性の定量的な実体把握等を目的とする「博士号取得後のキャリアに関する調査(以下CDH調査)」の検討が行われている。しかしながら、現在我が国については、国内外におけるこうした動向に対応した研究者に関するデータは不足しているのが現状である。

これらのことから、本調査研究は我が国の研究者の個人的属性、教育歴、職業経験といった流動に関する定量データ及び流動に対する意識等の実態を把握することを目的として実施した。

### 1-2 調査対象と実施方法

調査対象者は、現在日本で研究活動を行っている2,000名の研究者とした。具体的には、2005年度中にJSTPlusファイル<sup>(※)</sup>に登録された論文(約83万件)から無作為に抽出した論文の第1著者もしくは第2著者を、現在研究活動を行っている研究者とみなして、それらの中から2,000名を民間企業50%、大学等30%、公的研究機関等15%、その他機関5%の割合となるよう層化無作為抽出を行った。

調査は、郵送法により実施した。調査対象研究者に対して調査票を郵送し、記入、返送していただき、回収、集計をおこなった。既に所属機関から転籍している研究者についても出来る限り追跡を依頼して、調査票を届けることとした。

(※) 科学技術振興機構(JST)が提供するJOIS(JST Online Information Systems)に含まれている、科学技術全分野(医学を含む)に関する文献情報データベースファイルの名称。

### 1-3 調査期間等

調査票発送日：2008年2月

調査票締切日：2008年3月

## 2. 調査結果

### 2-1 研究者プロフィール

#### 2-1-1 回収率

調査対象者 2,000 名のうち、1,036 名の有効回答を得ることができた。回収率は 51.8%である。セクターごとの回収率は、大学等 51.7%、公的研究機関 59.4%、民間企業 51.2%、非営利団体・その他 36.0%である。(表 1)

表 1 調査票配布数・回答数 (回収率)

	配布数 [名]	回答数 [名]	回収率 [%]
民間企業	995	509	51.2
非営利団体 ・その他	100	36	36.0
公的研究機関	303	180	59.4
大学等	602	311	51.7
全体	2,000	1,036	51.8

#### 2-1-2 性別・年齢・国籍など

##### <性別>

有効回答 1,036 名のうち、男性は 947 名 (91.1%)、女性は 89 名 (8.6%) である。(図 1)

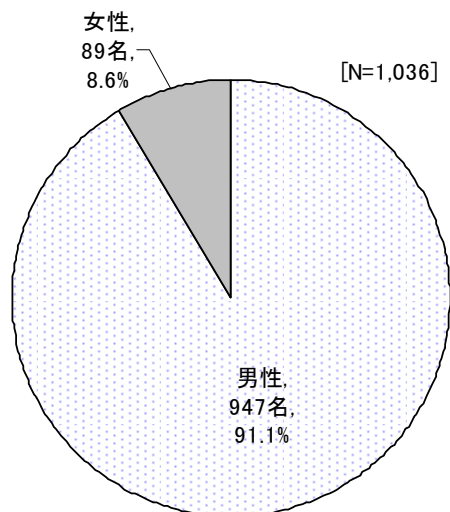


図 1 回答者の性別内訳

##### <年齢構成>

回答者全体では、24 歳以下が全体の 0.1%、25 歳～34 歳が 10.3%、35 歳～44 歳が 28.5%、45 歳～54 歳が 34.7%、55 歳～64 歳が 22.2%、65 歳以上が 4.1%である。(図 2)

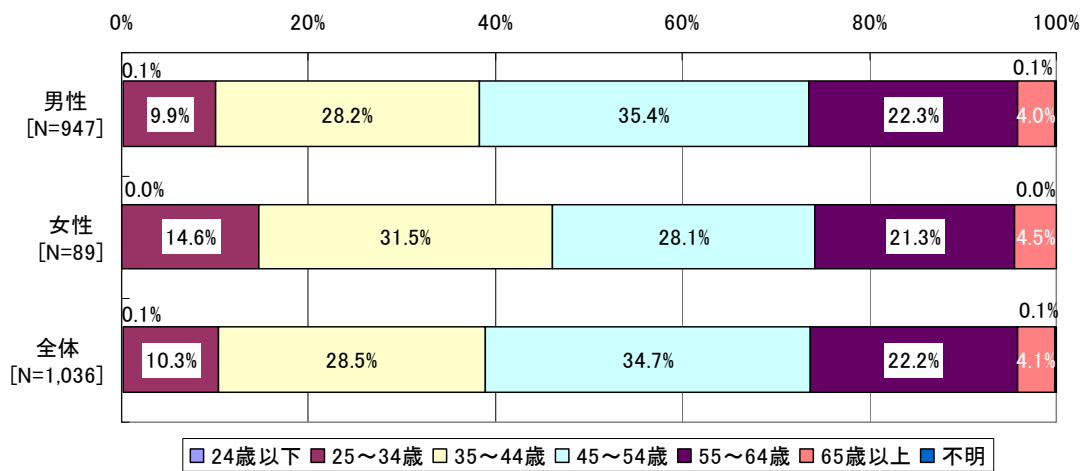


図 2 回答者の男女別年齢構成

<国籍構成>

調査対象者を1・2節に示す方法で抽出しているため、日本国籍のものが大半（98.3%）を占める結果となっている。日本国籍以外のものとしては、韓国（朝鮮）国籍が2名、中国国籍が2名である。

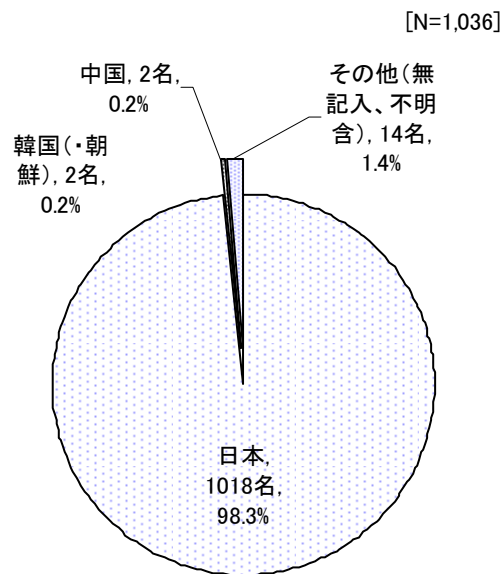


図 3 回答者の国籍構成

<子供の有無>

回答者のうちで子供を有するものの割合は76.1%である。

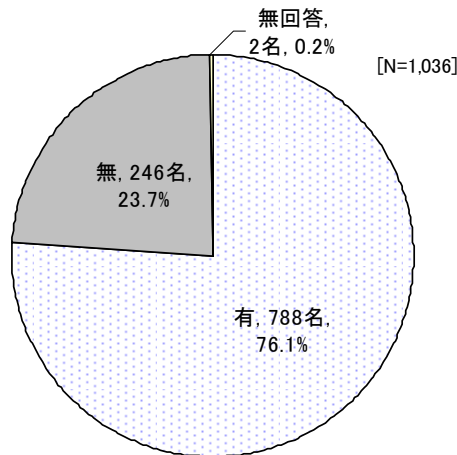


図 4 回答者の子供の有無

2-1-3 職業・勤務地、年収など

回答者の現勤務先国、勤務先セクター別、男女別の勤務年数、担当分野、勤務における任期の有無、勤務形態、セクター別・勤務形態別の年収について、図 5～図 14および表 2 にそれぞれ列挙する。

<勤務先国>

回答者の現在の勤務先国は、1031名（99.5%）が日本国内であり、現在海外に勤務しているものが2名（0.2%）である。（図 5）

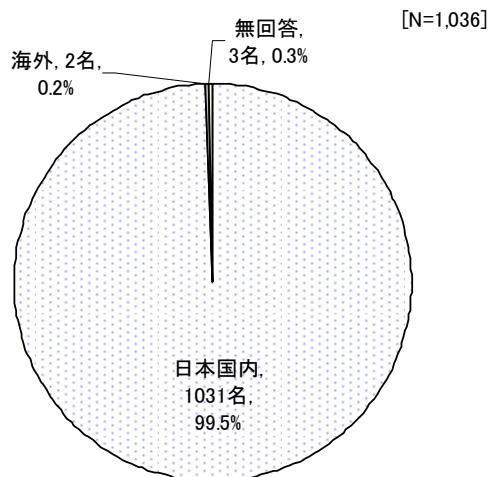


図 5 回答者の勤務先国

<勤務先セクター>

回答者の現在勤めている勤務先内訳は、男女全体では民間企業が 509 名（49.2%）、大学等が 311 名（30.1%）、公的研究機関が 180 名（17.4%）、非営利団体・その他が 34 名（3.3%）である。（図 6）

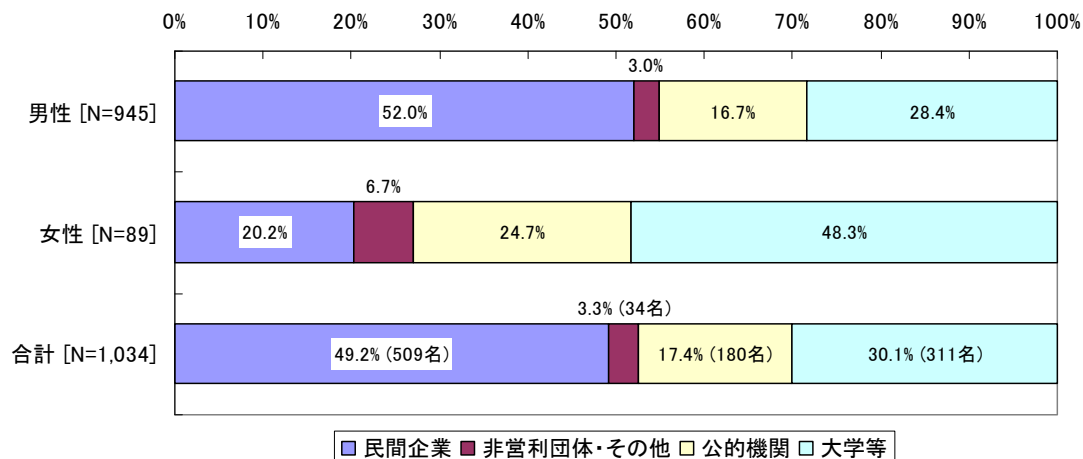


図 6 回答者の勤務先セクター

年齢構成別に見ると、55 歳以上 64 歳以下の回答者においては大学等に勤務するものの割合が 41.0%と多く、35 歳以上 44 歳以下の回答者においては民間企業に勤務するものの割合が 58.0%と多く、大学等に勤務するものの割合が 23.1%と少ない。また、65 歳以上の回答者においては民間企業に勤務するものの割合が 35.7%と少なく、非営利団体・その他に勤務するものの割合が 19.0%と多くなっている。これは定年制の影響によるものと考えられる。（図 7）

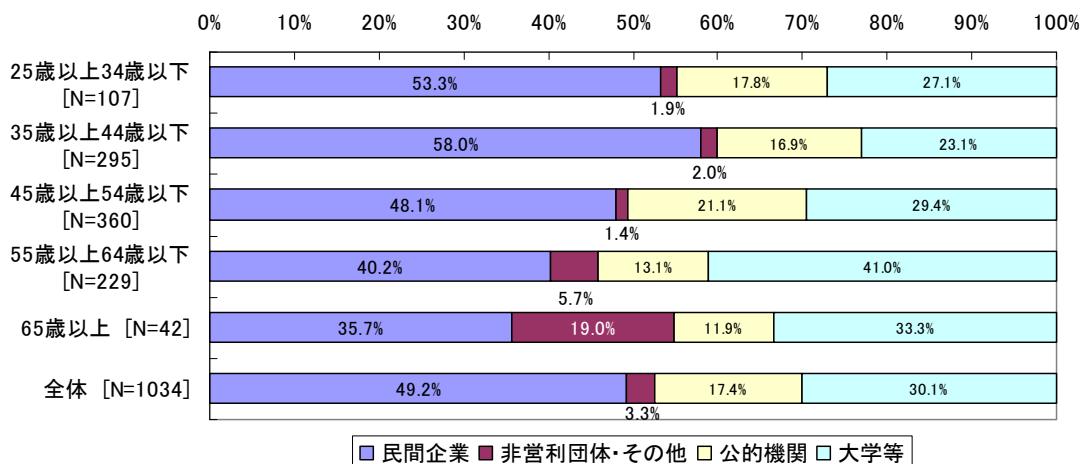


図 7 回答者の年齢構成別、勤務先セクター

<勤務年数>

回答者の現在勤めている勤務先における勤務年数内訳は、10年以上のものが572名(57.3%)を占め、5年以上10年未満のものが220名(22.0%)、3年以上5年未満のものが103名(10.3%)、1年以上3年未満のものが93名(9.3%)、1年未満のものが10名(1.0%)である。(図8)

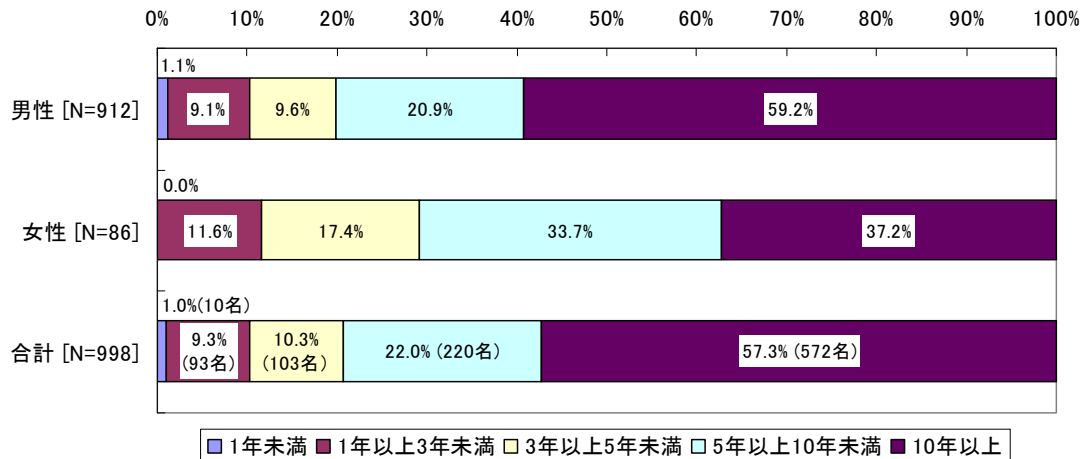


図8 回答者の勤務年数

<勤務担当分野>

回答者の勤務担当分野は、工学分野が543名(52.5%)と最も多く、次いで保健分野249名(24.1%)、理学分野129名(12.5%)、農学分野98名(9.5%)、社会科学9名(0.9%)、人文科学7名(0.7%)である。(図9)

セクター別に見ると、民間企業においては工学分野が最も多くを占め(78.4%)、大学等、非営利団体・その他においては保健分野(それぞれ51.0%、45.7%)が多い。一方、公的機関では、農学分野(35.2%)が多くを占める。(図10)日本全体における研究者の勤務分野のセクター別と比較すると、民間企業、公的機関においてはさほど相違はない。しかしながら、大学等においては人文科学分野、社会科学分野の割合が小さい。これは、本調査の調査対象をJSTPlusファイルに登録された論文から無作為に抽出した論文の第一著者から抽出している(1-2節参照)ため、当該分野の研究者の抽出割合が小さくなったものと想定される。非営利団体・その他については回答者サンプル数も少ないため、比較は難しいと判断した。

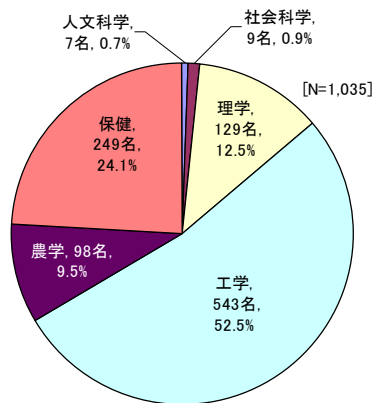


図9 回答者の勤務担当分野

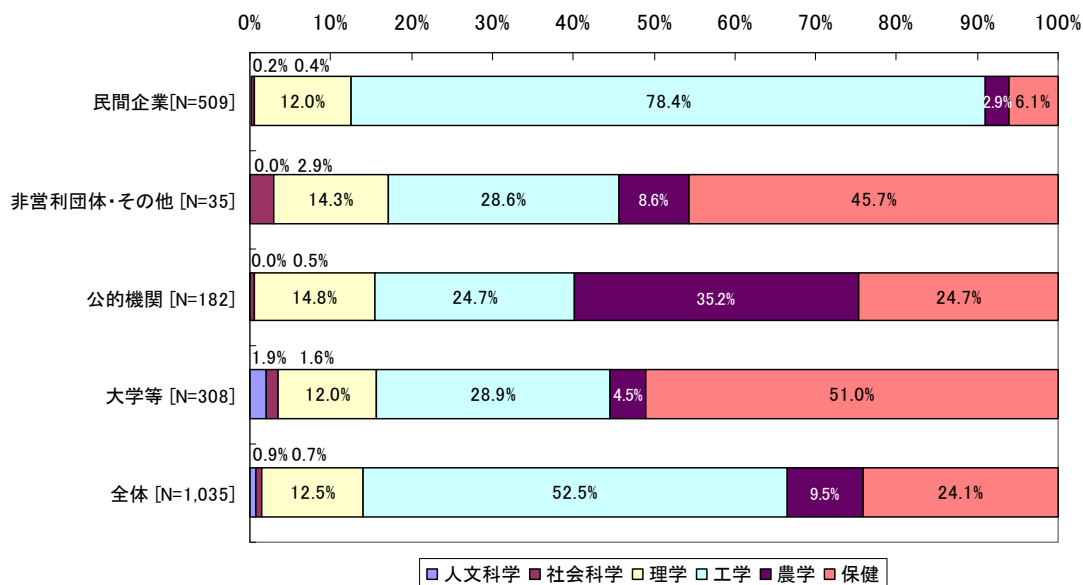
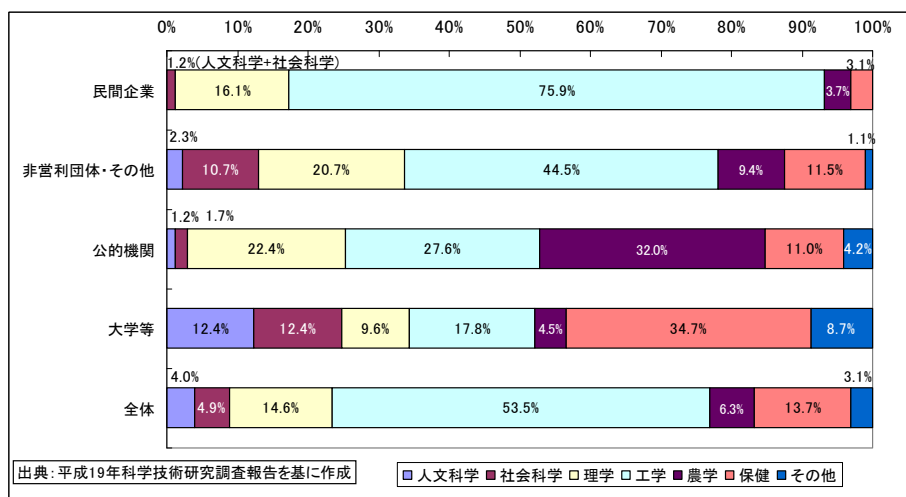


図 10 回答者の勤務担当分野（セクター別）



(参考) 図 11 日本における研究者の勤務担当分野（セクター別）

<任期>

回答者の現在の勤務先における任期状況について、任期有で雇用されている割合は 20.8%、任期のない雇用は 78.1%である。(図 12)

セクター別に比較してみると、大学等においては任期有での雇用割合が 32.5%と他のセクターよりも高くなっており、非営利団体・その他においてもサンプル数は少ないものの 44.1%と高い値となっている。



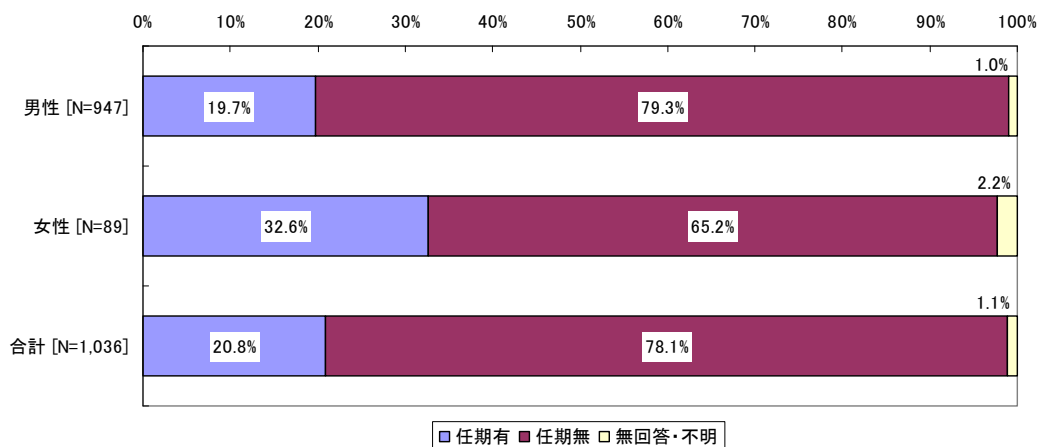


図 12 回答者の任期（性別）

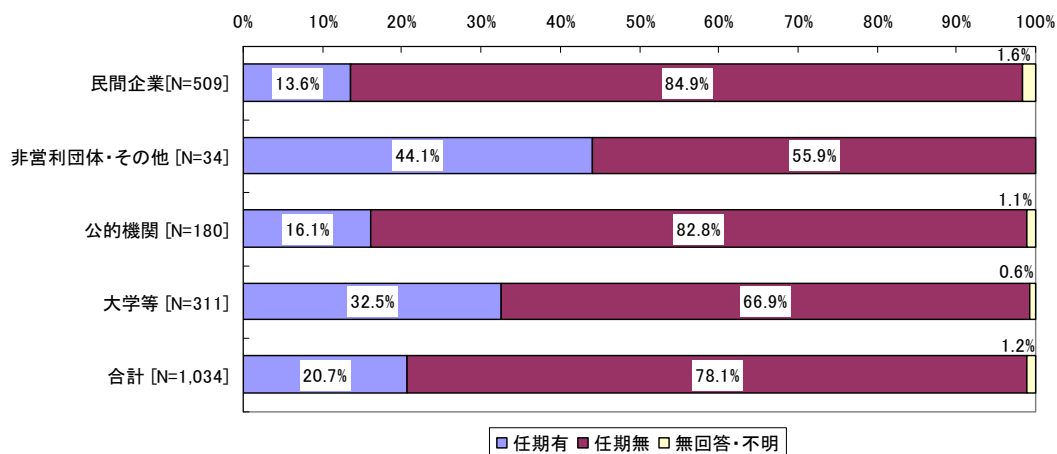


図 13 回答者の任期（セクター別）

<勤務形態>

回答者のうちでフルタイムでの勤務形態のものが 97.6%を占める。

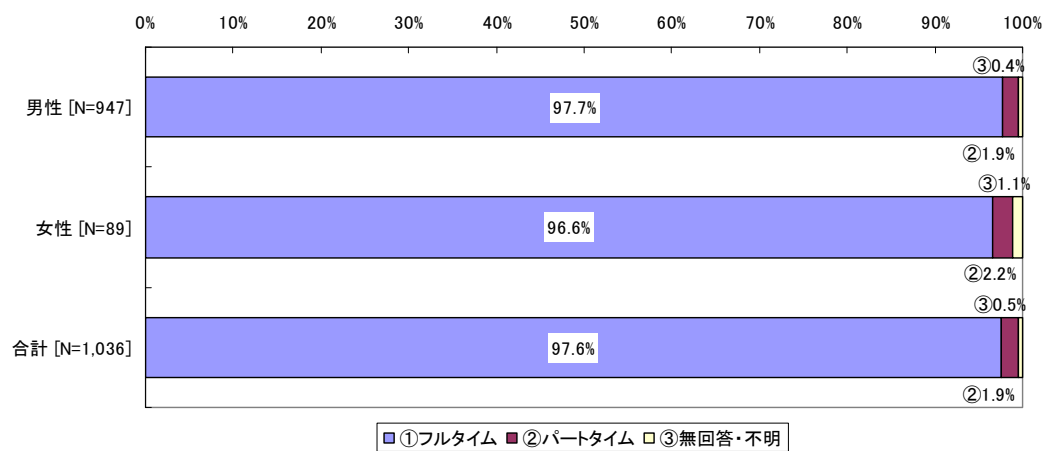


図 14 回答者の勤務形態

<平均年収>

回答者の現在の勤務先における平均年収について、民間企業にフルタイムで勤務するものの平均年収は932.7万円（平均年齢45.9歳）であり、大学等にフルタイムで勤務するものは934.7万円（平均年齢49.6歳）、公的研究機関にフルタイムで勤務するものは827.9万円（平均年齢46.5歳）である。

表 2 平均年収（勤務形態・セクター別）

		勤務形態					
		フルタイム			パートタイム		
		平均年収 [万円]	平均年齢 [歳]	有効回答数 [名]	平均年収 [万円]	平均年齢 [歳]	有効回答数 [名]
勤務先	民間企業	932.7	45.9	484	516.7	65.3	6
	非営利団体・ その他	825.2	52.7	27	248.0	70.6	5
	公的機関	827.9	46.5	174	533.3	66.0	3
	大学等	934.7	49.6	295	687.5	57.3	4

2-1-4 学歴・博士号取得状況

<学位取得状況>

回答者の最終学位取得状況について、博士号取得者（課程、論文を含む）は全体の55.7%に達している。一方修士号取得者は全体の18.9%、学士号取得者は19.3%である。高校、短大、高専等のものも4.3%存在する。（図15）

セクターごとに比較してみると、やはり大学等のセクターでは課程博士、論文博士の占める割合が高く、それぞれ46.3%、42.1%とセクター内で9割近くを占めている。一方民間企業では、博士号取得者（課程、論文を含む）の割合は35.5%であり、他のセクターと比較すると最も低い。逆に、修士の割合が29.7%と他のセクターと比較して高くなっている。（図16）

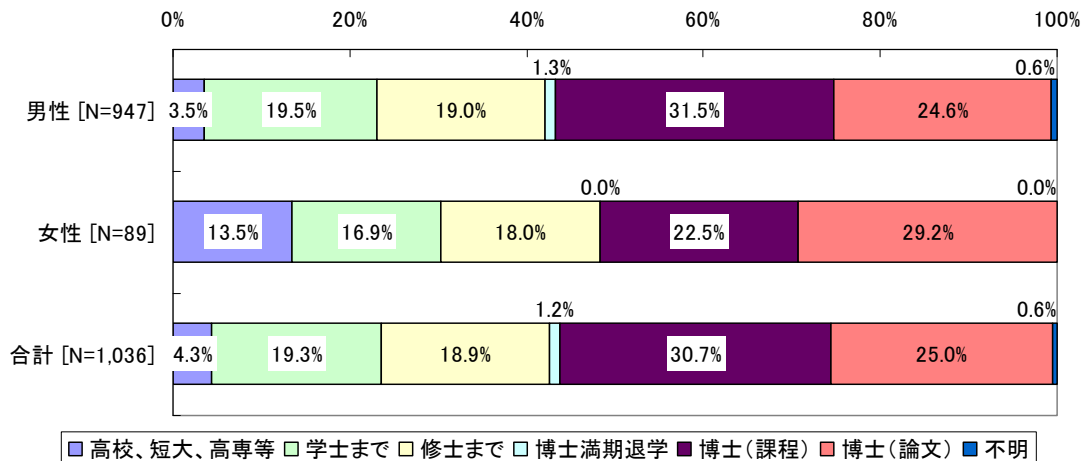


図 15 回答者の学位取得状況（男女別）

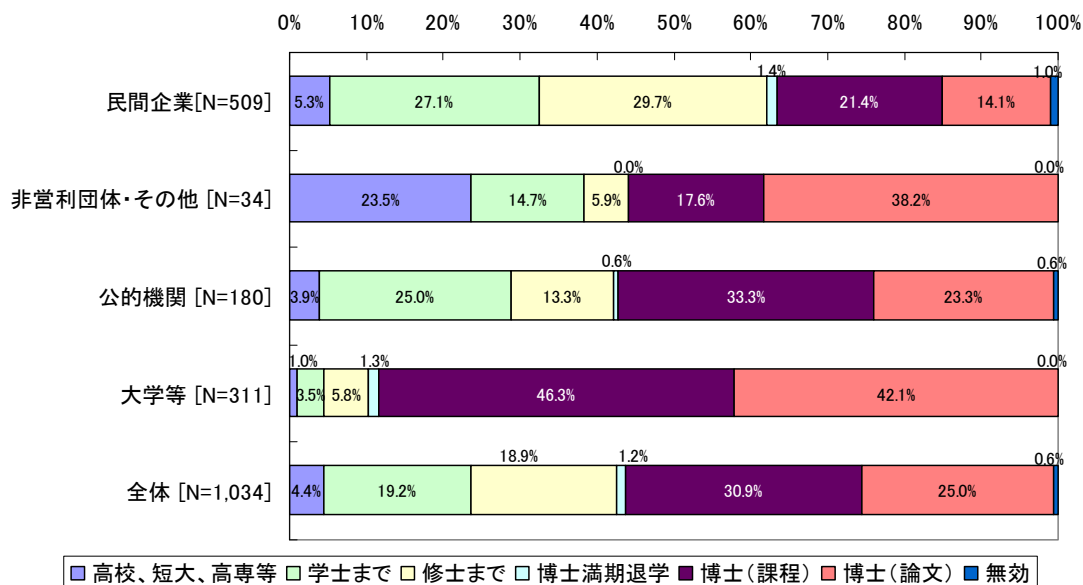


図 16 回答者の学位取得状況（セクター別）

<ポスドク経験者>

回答者のうちでこれまでポスドクを経験したものは、全体の 12.0%（124 名）を占め、ポスドク経験者のうちでは 45 歳～54 歳のものが約半分を占める。（図 17）

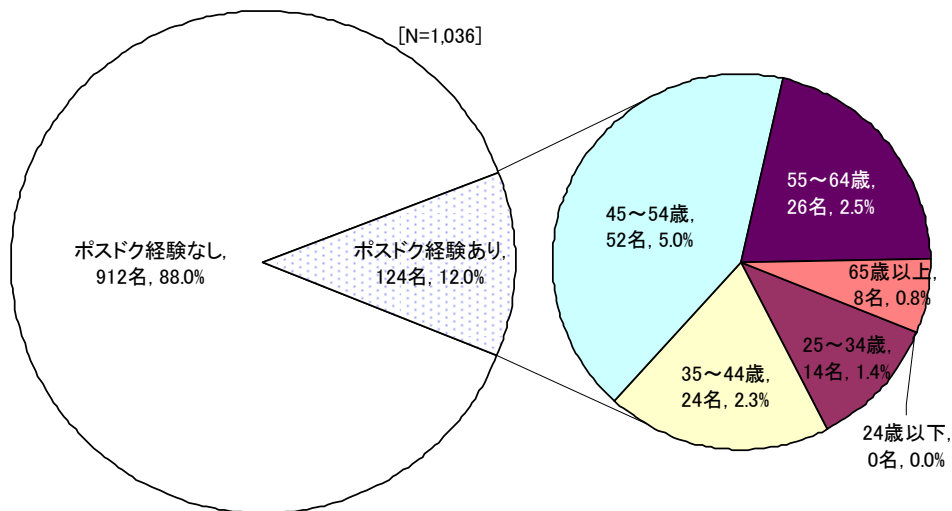


図 17 回答者のポスドク経験

<博士号取得有無による勤務先セクター内訳>

回答者のうちで博士号を取得したものの現在の勤務セクター別に見ると、大学等に勤務するものは、全体の 47.7%とほぼ半分を占める。次いで民間企業 31.4%、公的機関 17.7%である。（図 18）一方博士号を取得していないものは、民間企業に勤務するものが全体の 71.8%と大半を占め、次いで公的機関 17.1%、大学等 7.9%となっている。（図 19）

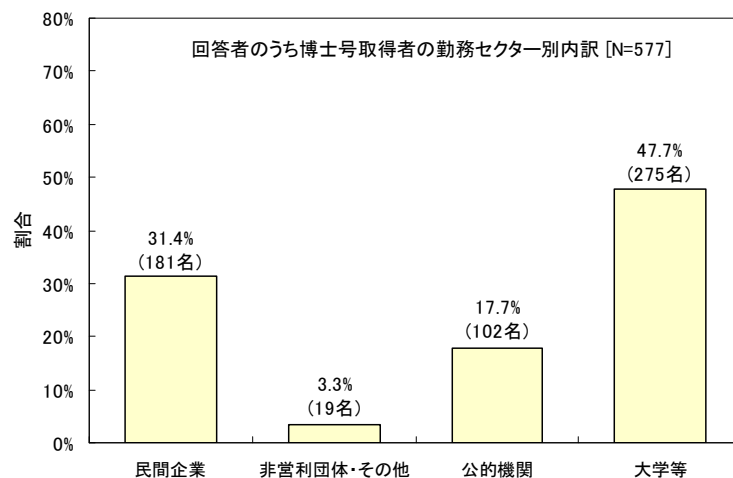


図 18 博士号取得者の勤務セクター別内訳

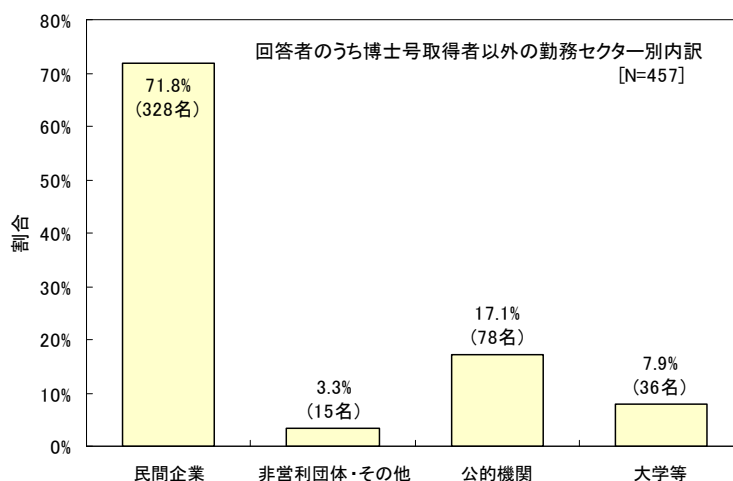


図 19 博士号取得者以外の勤務セクター別内訳

＜修士号・博士号取得国＞

回答者の中で博士号を取得したもののうち、日本国内で博士号を取得した研究者は全体の 73.1%であり、海外で取得した研究者は 17.7%である。また、修士号・博士号ともに日本国内で取得した研究者は名 327 名（有効回答総数 577 名）存在し、博士号取得者全体の 56.7%を占める。一方、修士号・博士号とも海外で取得した研究者は 2 名しかおらず全体の 0.3%に過ぎない。（表 3）

表 3 修士号・博士号を取得した国

修士号を取得した国	博士号を取得した国			合計
	日本	日本以外の国	不明・無回答	
	人数[名] [割合(%)]	人数[名] [割合(%)]	人数[名] [割合(%)]	
日本	327 [56.7]	8 [1.4]	1 [0.2]	336 [58.2]

日本以外の国	8 [1.4]	2 [0.3]	2 [0.3]	12 [2.1]
不明・無回答	87 [15.1]	102 [17.7]	40 [6.9]	229 [39.7]
合計	422 [73.1]	112 [19.4]	43 [7.5]	577 [100.0]

<博士号取得分野>

回答者のうち博士号取得者の博士号取得分野は、工学分野が 43.4%と最も多く、次いで保健分野 32.6%、理学分野 12.4%、農学分野 10.6%である。(図 20) 博士号取得者の博士号取得分野と現在の勤務担当分野の違いがあるかどうかをみるために、図 21に博士号取得者の勤務担当分野を整理する。これらの図を比較すると、全体としては博士号取得分野内訳と現在の勤務担当分野内訳は大きな相違はないことがわかる。

また、博士号取得分野の更に詳細な内訳を見ると、最も人数の多い工学分野について電気通信が 75 名、機械船舶航空が 51 名、その他が 48 名となっている。(表 4)

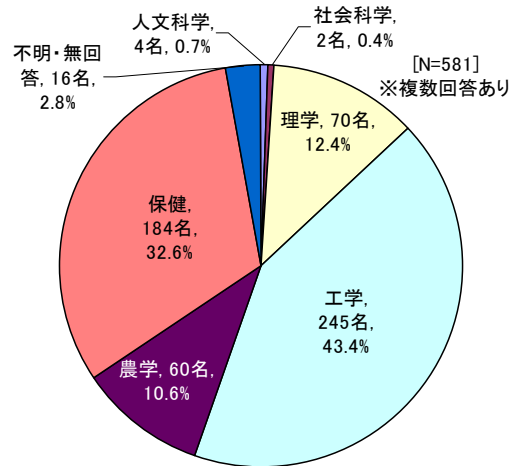


図 20 博士号取得者の博士号取得分野

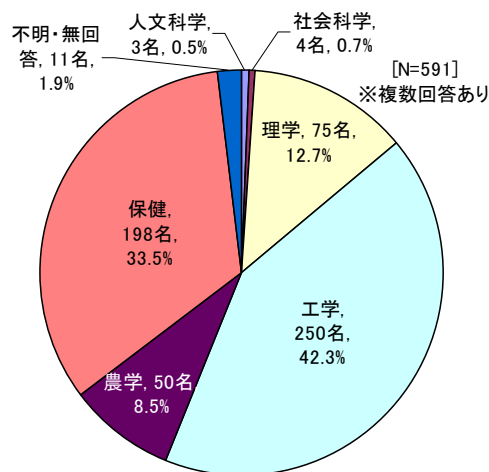


図 21 博士号取得者の勤務担当分野

表 4 回答者の博士号取得分野（内訳）（複数回答あり）

分野		男性[名]		女性[名]		有効回答総数
		課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
人文科学	文学(文学、文芸学、言語学、外国語学、児童文学など)	0	0	0	0	0
	その他(史学、地理学、哲学、宗教学、心理学、人文学、文化学、図書館学、文化人類学、人間関係学、行動科学など)	1	1	0	2	4
社会科学	商学経済(商学、経済学、経営学、会計学、流通学、金融学、財政学、産業学、経営工学、経営情報学、経済情報学、経営システム学など)	0	0	0	0	0
	社会学(社会学、新聞学、広報学、社会福祉学、介護福祉学、観光学など)	0	0	0	0	0
	その他(法学、政治学、行政学、国際関係学、政策科学など)	1	0	1	0	2
理学	数学物理(数学、数理学、情報数理学、情報科学、計算科学、物理学、物性学、物質理学、天文学、宇宙物理学など)	11	5	1	0	17
	化学(化学、基礎化学、高分子学、生物応用化学など)	15	5	1	0	21
	生物(生物学、生化学、動物学、植物学、生物化学、生物資源学、生命科学、生体機構学、自然環境学など)	16	8	2	0	26
	地学(地質学、鉱物学、地球科学、地理学など)	3	3	0	0	6
	その他(海洋科学、経営理学など)	0	0	0	0	0
工学	機械船舶航空(機械工学、精密機械工学、交通機械工学、生産工学、機械情報工学、機械電子工学、機械制御工学、ロボティクス学、船舶工学、航空宇宙工学など)	34	17	0	0	51
	電気通信(電気工学、通信工学、電子工学、電子材料工学、電子物理工学、情報処理工学、ソフトウェア学、情報システム工学、電子制御システム工学、メディア通信工学、情報ネットワーク学、光システム工学など)	48	26	1	0	75
	土木建築(土木工学、建築工学、交通工学、都市工学、都市システム工学、建設都市工学、環境建設学、環境デザイン工学、環境計画学など)	11	8	1	0	20
	材料(鉱山学、資源工学、鉱山土木学、金属工学、金属材料学、機械材料工学、材料機能工学、材料加工学、材料工学、素材工学、材料プロセス工学など)	25	19	5	2	44
	繊維(繊維工学、繊維化学、繊維染料学、繊維機械学、有機材料工学、高分子材料工学など)	5	2	0	0	7
	その他(応用化学、応用物理学、写真工学、印刷工学、画像工学、音響設計学、原子力工学、エネルギー工学、経営工学、システムマネジメント工学、社会システム工学、福祉環境学、環境設計学、工芸学、工業デザイン学など)	25	23	0	0	48
農学	農林(農学、園芸学、農業生物学、経営農学、農業生産学、植物防疫学、環境緑地学、林学、森林科学、植物資源学など)	7	14	1	1	23
	獣医畜産(獣医学、畜産学、酪農学、畜産経営学、畜産食品工学、畜産生産科学、動物資源科学など)	2	5	0	0	7
	水産(水産学、漁業学、増殖学、水産養殖学、栽培漁業学、水産化学、水産食品学、海洋生物資源学など)	3	2	0	0	5
	その他(農芸化学、園芸化学、醸造学、食品化学、食品栄養学、農業工学、農業土木学、生産環境学、環境保護学、環境資源科学、農林生産学、農業経済学、食品流通学など)	11	11	2	1	25
保健	医学歯学(医学、歯学)	66	64	7	10	147
	薬学(薬学、薬剤学、衛生薬学、製薬学など)	6	13	0	5	24
	その他(看護学、保健衛生学、医療工学、臨床検査技術学、理学療法学、臨床心理学、栄養学、医療経営管理学など)	4	2	3	4	13
不明・無回答		13		3		16
合計		535		46		581

表 5 博士号取得者の勤務担当分野（内訳）（複数回答あり）

分野		男性[名]		女性[名]		有効回答総数
		課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
人文科学	文学(文学、文芸学、言語学、外国語学、児童文学など)	0	0	0	0	0
	その他(史学、地理学、哲学、宗教学、心理学、人文学、文化学、図書館学、文化人類学、人間関係学、行動科学など)	1	1	0	1	3
社会科学	商学経済(商学、経済学、経営学、会計学、流通学、金融学、財政学、産業学、経営工学、経営情報学、経済情報学、経営システム学など)	0	1	0	0	1
	社会学(社会学、新聞学、広報学、社会福祉学、介護福祉学、観光学など)	1	0	0	0	1
	その他(法学、政治学、行政学、国際関係学、政策科学など)	1	0	1	0	2
理学	数学物理(数学、数理学、情報数理学、情報科学、計算科学、物理学、物性学、物質理学、天文学、宇宙物理学など)	5	7	0	0	12
	化学(化学、基礎化学、高分子学、生物応用化学など)	16	6	1	0	23
	生物(生物学、生化学、動物学、植物学、生物化学、生物資源学、生命科学、生体機構学、自然環境学など)	21	8	4	0	33
	地学(地質学、鉱物学、地球科学、地理学など)	4	2	0	0	6
	その他(海洋科学、経営理学など)	1	0	0	0	1
工学	機械船舶航空(機械工学、精密機械工学、交通機械工学、生産工学、機械情報工学、機械電子工学、機械制御工学、ロボティクス学、船舶工学、航空宇宙工学など)	42	16	0	0	58
	電気通信(電気工学、通信工学、電子工学、電子材料工学、電子物理工学、情報処理工学、ソフトウェア学、情報システム工学、電子制御システム工学、メディア通信工学、情報ネットワーク学、光システム工学など)	47	29	1	0	77
	土木建築(土木工学、建築工学、交通工学、都市工学、都市システム工学、建設都市工学、環境建設学、環境デザイン工学、環境計画学など)	15	9	1	0	25
	材料(鉱山学、資源工学、鉱山土木学、金属工学、金属材料学、機械材料工学、材料機能工学、材料加工学、材料工学、素材工学、材料プロセス工学など)	23	20	0	0	43
	繊維(繊維工学、繊維化学、繊維染料学、繊維機械学、有機材料工学、高分子材料工学など)	4	4	0	0	8
	その他(応用化学、応用物理学、写真工学、印刷工学、画像工学、音響設計学、原子力工学、エネルギー工学、経営工学、システムマネジメント工学、社会システム工学、福祉環境工学、環境設計学、工芸学、工業デザイン学など)	17	22	0	0	39
農学	農林(農学、園芸学、農業生物学、経営農学、農業生産学、植物防疫学、環境緑地学、林学、森林科学、植物資源学など)	10	11	1	1	23
	獣医畜産(獣医学、畜産学、酪農学、畜産経営学、畜産食品工学、畜産生産科学、動物資源科学など)	0	4	0	0	4
	水産(水産学、漁業学、増殖学、水産養殖学、栽培漁業学、水産化学、水産食品学、海洋生物資源学など)	2	2	0	0	4
	その他(農芸化学、園芸化学、醸造学、食品化学、食品栄養学、農業工学、農業土木学、生産環境工学、環境保護学、環境資源科学、農林生産学、農業経済学、食品流通学など)	7	9	1	2	19
保健	医学歯学(医学、歯学)	66	58	8	7	139
	薬学(薬学、薬剤学、衛生薬学、製薬学など)	7	16	0	4	27
	その他(看護学、保健衛生学、医療工学、臨床検査技術学、理学療法学、臨床心理学、栄養学、医療経営管理学など)	9	10	4	9	32
不明・無回答		8		3		11
合計		542		49		591

表 6 博士号取得者の博士号取得分野と勤務担当分野の関係

		人数[名]	割合[%]
詳細分野において博士号取得分野と勤務担当分野が一致するもの		443	76.8
博士号取得分野と勤務担当分野が異なるもの	6 分野分類(人文科学、社会科学、理学、工学、農学、保健)上では同じもの 【詳細分野のみが異なるもの】	58	10.1
	6 分野分類上でも分野が異なるもの	57	.9.9
無効		19	3.3
総数		577	100



<博士号取得年齢>

回答者の博士号取得時の年齢について、男性の平均は34.2歳、女性の平均は35.4歳である。分野別にみると、理学分野の博士号取得年齢が最も低い。(表7)

その理由の一つとして、課程博士と論文博士の割合について表4を用いて比較してみると、理学分野の課程博士割合は約71% (課程博士51名、論文博士21名)であり、工学分野は約61% (課程博士150名、論文博士95名)、農学分野は約43% (課程博士26名、論文博士34名)、保健分野は約47% (課程博士86名、論文博士98名)であり、理学分野における課程博士の割合が多いため、博士号取得時の年齢平均が低いと想定される。

表7 回答者の博士号取得時の年齢(男女別、分野別)

男性	有効回答者数	取得時の年齢[歳]		不明・無回答数
		平均	中央値	
人文科学	2	34.5	34.5	0
社会科学	1	35.0	35.0	0
理学	64	31.5	30.0	2
工学	238	35.5	34.0	5
農学	54	34.0	34.0	1
保健	151	33.3	32.0	4
不明・無回答	13			
合計	523	34.2	32.0	12

女性	有効回答者数	取得時の年齢[歳]		不明・無回答
		平均	中央値	
人文科学	2	44.0	34.5	0
社会科学	1	32.0	35.0	0
理学	4	28.0	30.0	0
工学	2	33.5	34.0	0
農学	4	32.8	34.0	1
保健	28	36.5	32.0	1
不明・無回答	3			
合計	44	35.4	33.0	2

<博士号取得時の経済的支援>

回答者の中で博士号取得者が博士号取得時に受けた経済的支援としては、課程博士の場合、配偶者・パートナー・家族からの支援(大学所在国から)が最も多い。また、フルタイム、パートタイムを含む仕事による収入や、大学の所在国政府からの奨学金、大学の所在国の個人あるいは団体からの奨学金がそれに次いで多い。一方でTA、RAの収入については、主財源としてよりも副財源としての回答が多くまだまだ金額としては十分ではないことが推測される。また、大学独自の基金等による奨学金についてもまだまだ少ない。(図22)

論文博士の場合は大部分が仕事(フルタイム)の収入であり、それ以外には、仕事(パートタイム)の収入、配偶者・パートナー・家族の支援(大学所在国から)、自分の貯蓄を充当する、といった項目の回答が多い。(図23)

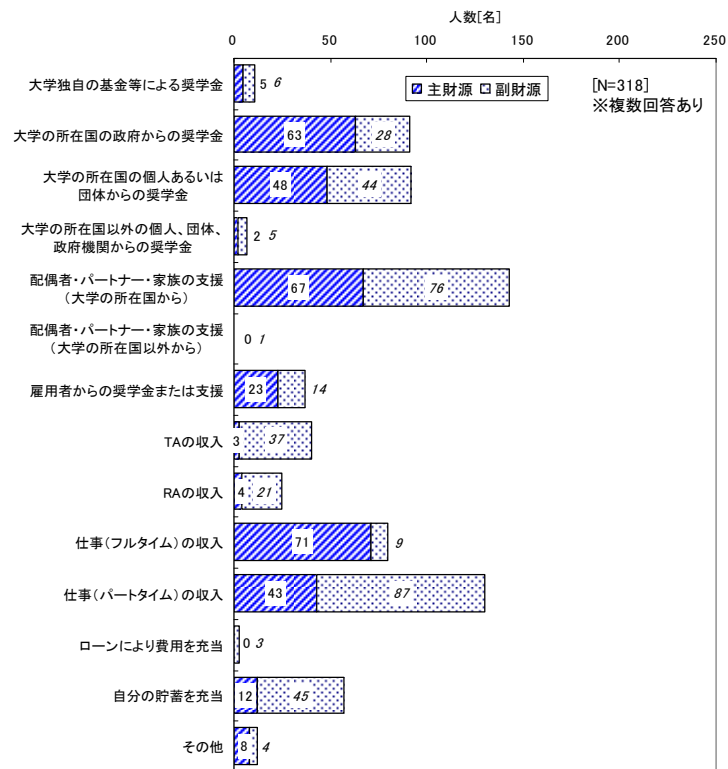


図 22 博士号取得時における経済的支援（課程博士）

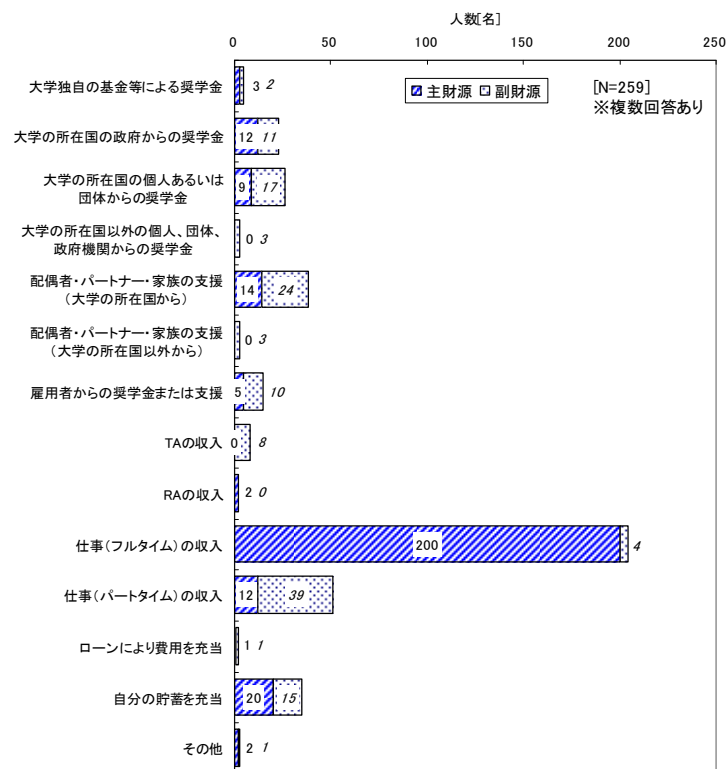


図 23 博士号取得時における経済的支援（論文博士）

<教育経験>

回答者のうちで教育経験を有するものは383名(38.5%)であり、そのうちで10年以上の教育経験を有するものは半分以上を占めている。

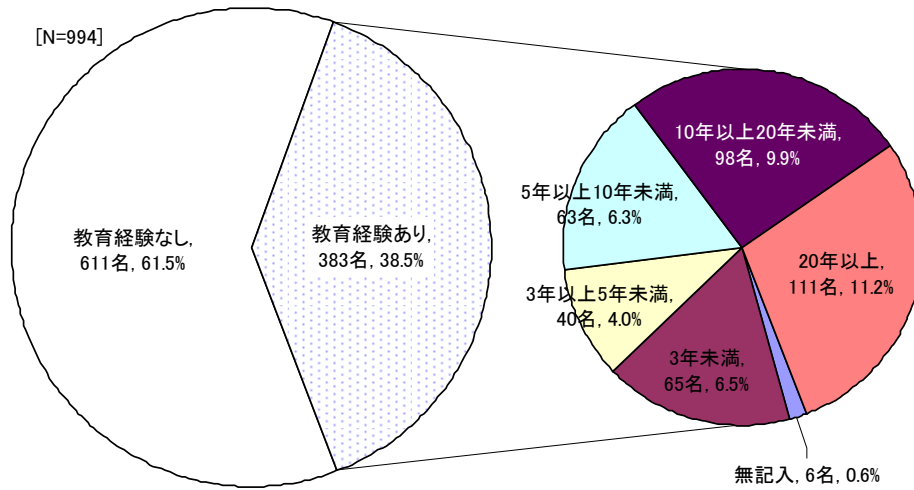


図 24 回答者の教育経験と教育経験年数

## 2-2 研究者の流動状況

### 2-2-1 キャリア異動回数、海外での研究経験

<キャリア異動（回数、経年変化）>

回答者のキャリア異動状況について、これまでキャリア異動の経験がない研究者は回答者全体の33.9%（351名）を占め、キャリア異動の経験を有するものは全体の66.1%を占める結果となった。（図25）

2000、2002、2004年度に実施された文部科学省調査<sup>(※)</sup>での研究者異動経験有無を調査した結果と比較して、異動経験者の割合は増加していることがわかる。（図26）この要因としては、大学や公的機関における任期制導入が年々進んでいること、企業等での中途採用者の増加などが考えられる。

※文部科学省「平成16年度 我が国の研究活動に関する調査報告」、この調査は本調査と同様の方法で抽出した2000名の研究者に対して、研究環境等の意識について調査を行ったものであり、質問項目の一つにキャリアにおける異動経験の有無がある。

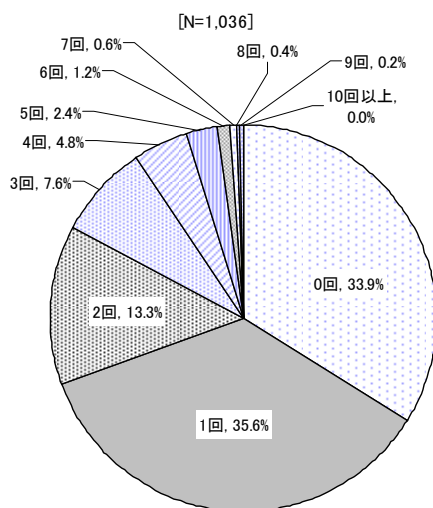


図25 回答者のキャリア異動回数（割合）

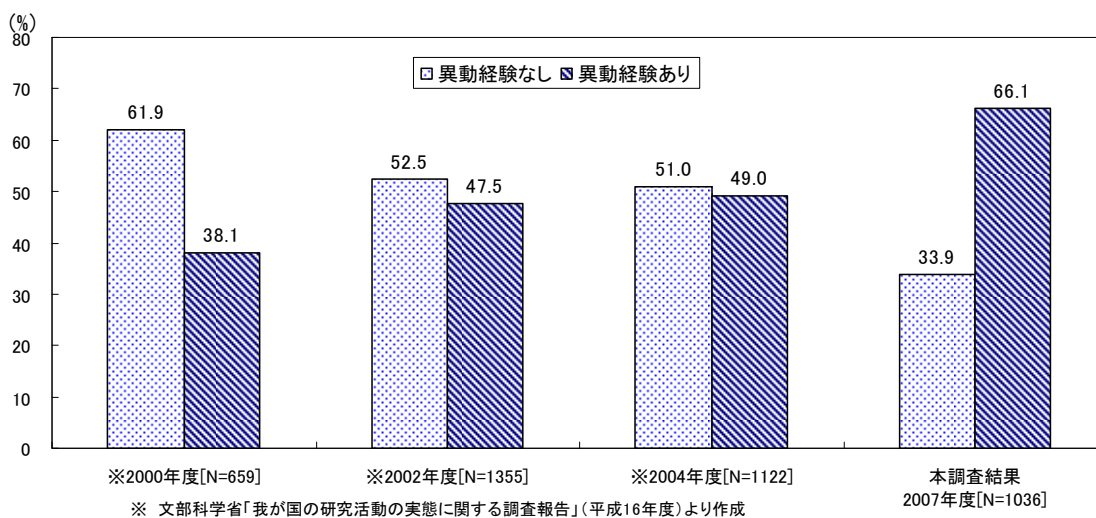


図26 異動経験の有無（経年変化）

<キャリア異動回数（性別、年齢別）>

キャリア異動者の異動回数内訳を見ると、異動回数 1 回の研究者は全体の 35.6%（369 名）を占める。また、複数回（2 回以上）のキャリア異動を経験したものは全体の 30.5%に過ぎない。（図 25、図 27）

男女別に比較してみると、キャリア異動平均回数は、男性で 1.27 回、女性で 1.75 回であり、全体では 1.32 回である。女性のサンプル数が少ないため、一概には言えないものの女性の方が男性よりもキャリア異動平均回数が多い結果となった。（図 27）

次に年齢別のキャリア異動回数を比較すると、キャリア異動を経験していないものの割合は年齢とともに減少しており、複数回のキャリア異動を経験したものの割合が増加している。キャリア平均異動回数は、年齢層が上がるとともに増加しているが、45 歳以上 54 歳以下の回答者の値（1.59 回）と 55 歳以上 64 歳以下の回答者の値（1.53 回）が逆転しており、流動の高い年齢層であることがわかる。（図 28、図 29）

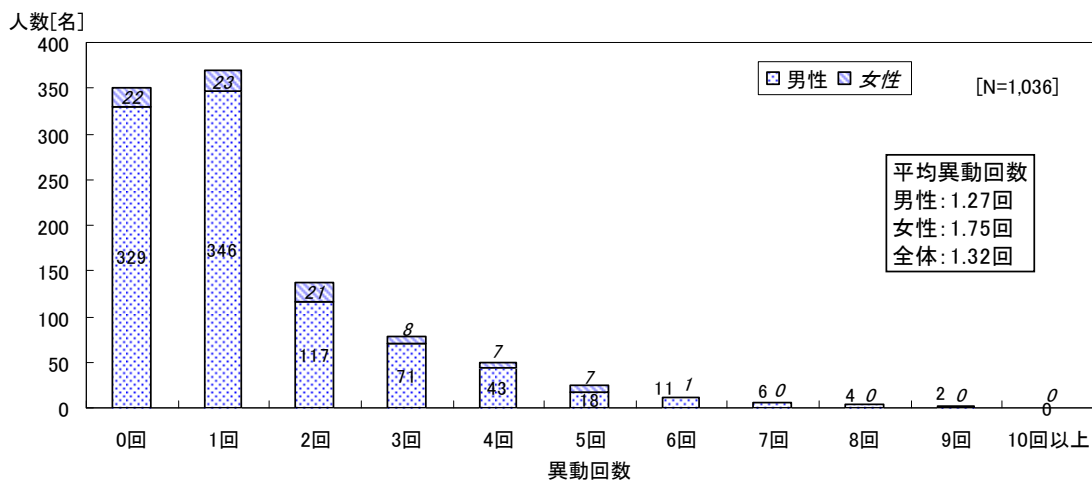


図 27 回答者のキャリア異動回数（男女別人数）

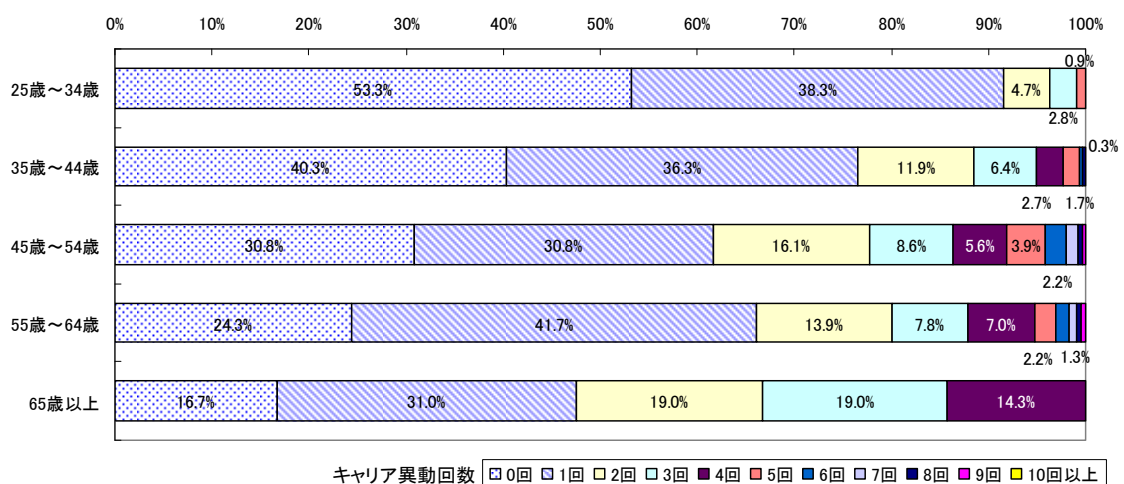


図 28 回答者のキャリア異動回数（年齢別①）

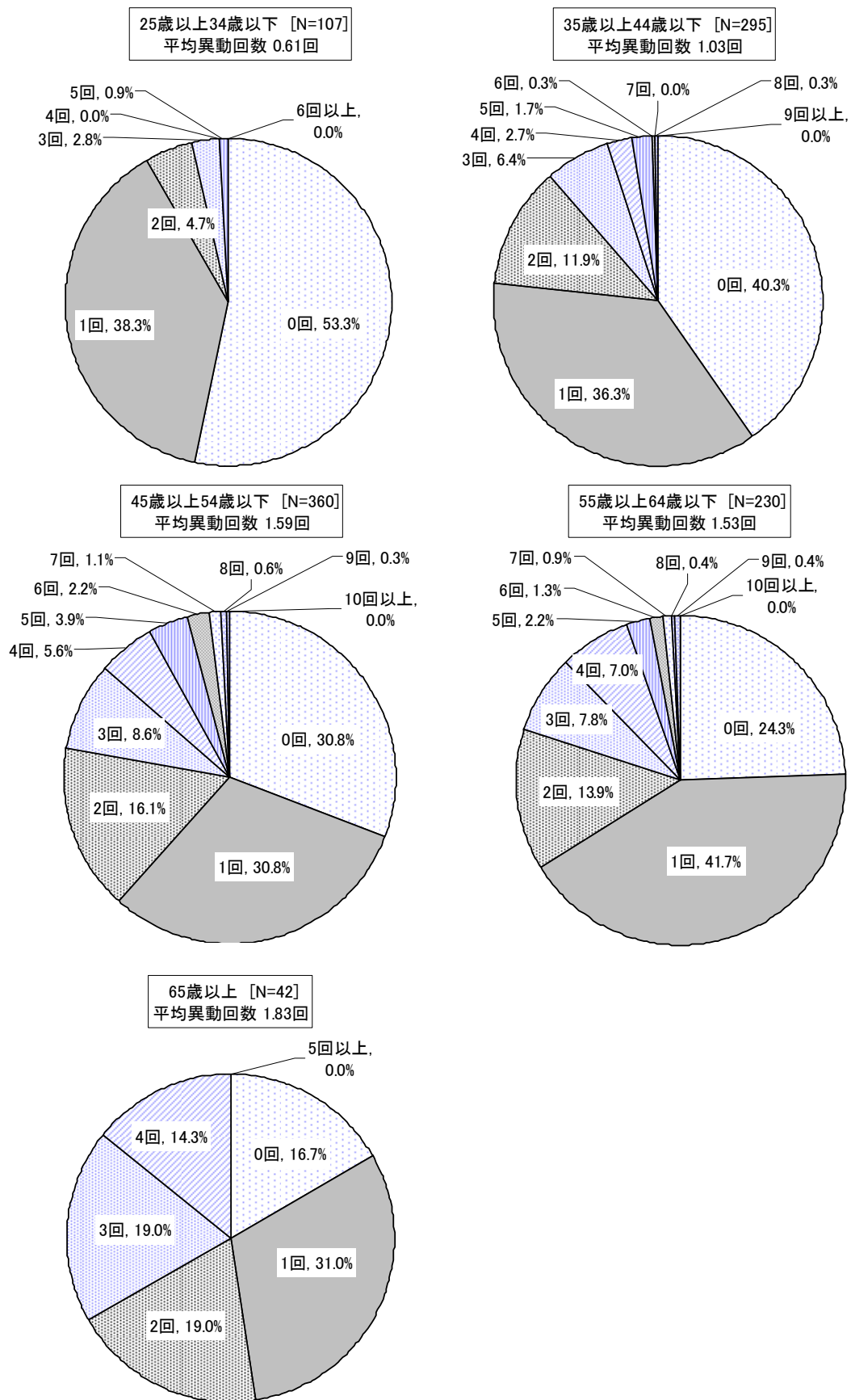


図 29 回答者のキャリア異動回数（年齢別②）

<博士号取得別のキャリア異動回数>

博士号を取得した研究者に着目してキャリア異動回数を比較してみると、博士号取得者のキャリア異動平均回数は1.53回であり、博士号を取得していない研究者のキャリア異動平均回数1.07回と比べると、博士号取得者の異動回数は多い。

また、博士号取得者のうちでポスドク経験者と未経験者のキャリア異動回数を比較すると、ポスドク経験者のほうが平均異動回数(2.65回)は多い。(図30)

博士号取得者特にポスドク経験者が研究者の流動性を担っているといえる。

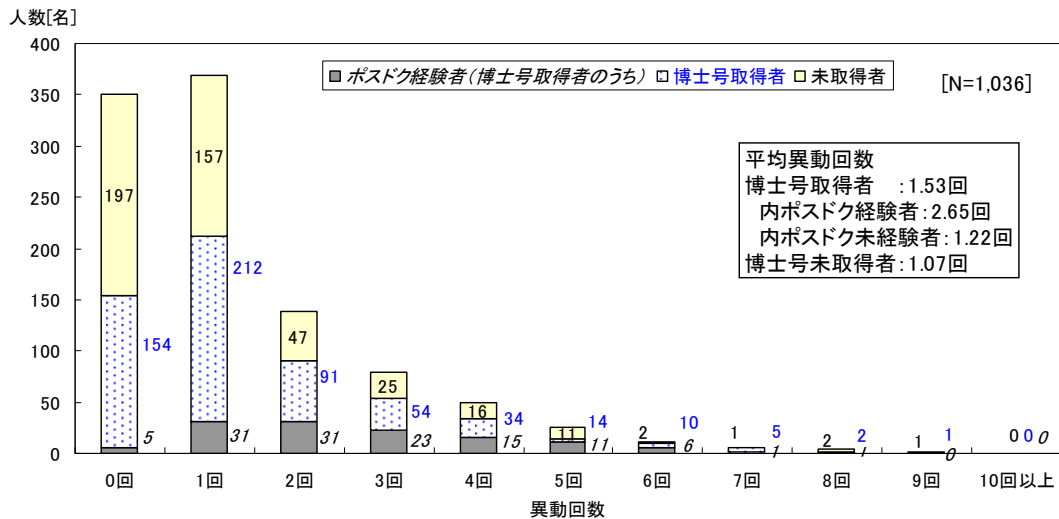


図30 回答者のこれまでのキャリアにおける異動回数 (博士号取得別、ポスドク経験別)

<勤務セクター別キャリア異動経験>

キャリア異動経験の有無について、回答者の現在の勤務先セクター別に比較すると、民間企業に所属するもので異動経験のある研究者は53.0%と他のセクター(大学等[83.3%]、公的研究機関[71.1%]、非営利団体・その他[82.4%])と比較して非常に少ない。(図31)

セクター別にキャリア異動回数の内訳をみると、大学等に所属するものは、複数回(2回)以上の異動を経験したものが46.6%を占め、更には5回以上の異動を経験したものも8.2%と他のセクターに所属するものと比較すると多い。(図33)

2000、2002、2004年度に実施された文部科学省調査と比較すると、民間企業及び公的機関に所属する研究者の異動経験ありの割合が20ポイント程度上昇しており、大学等についても15ポイント程度上昇している。

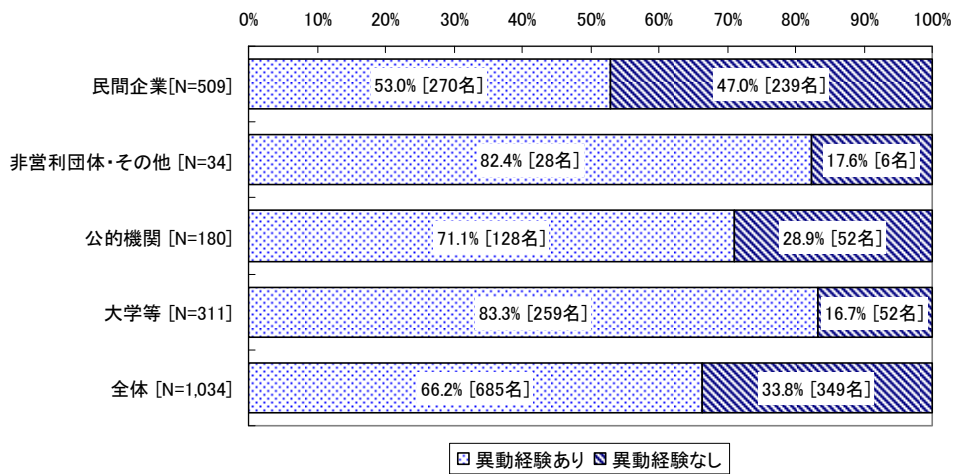
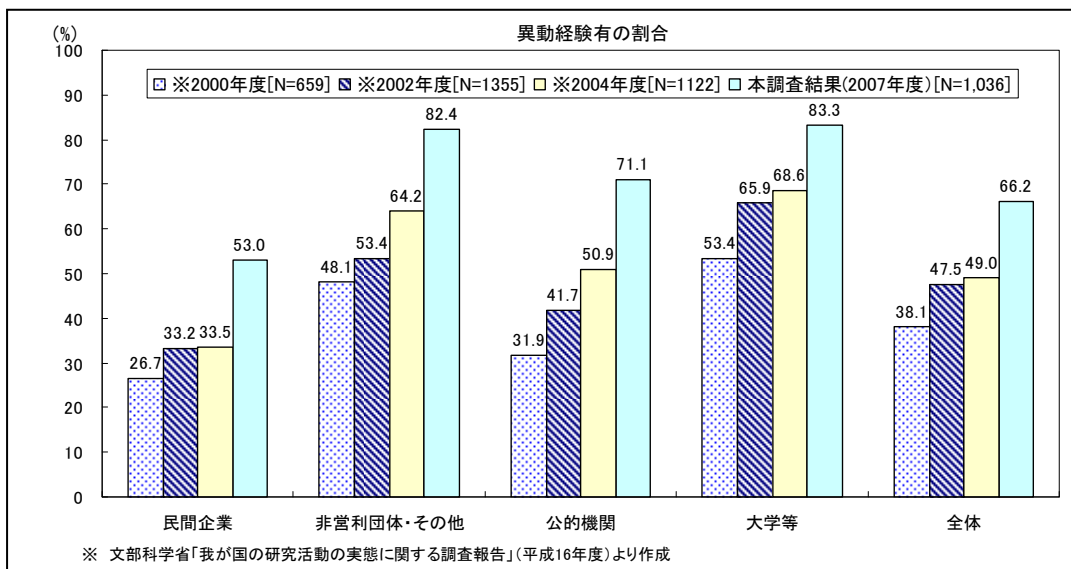


図 31 回答者のキャリア異動経験の有無（セクター別）



(参考) 図 32 回答者のキャリア異動経験の有無（セクター別）：経年変化



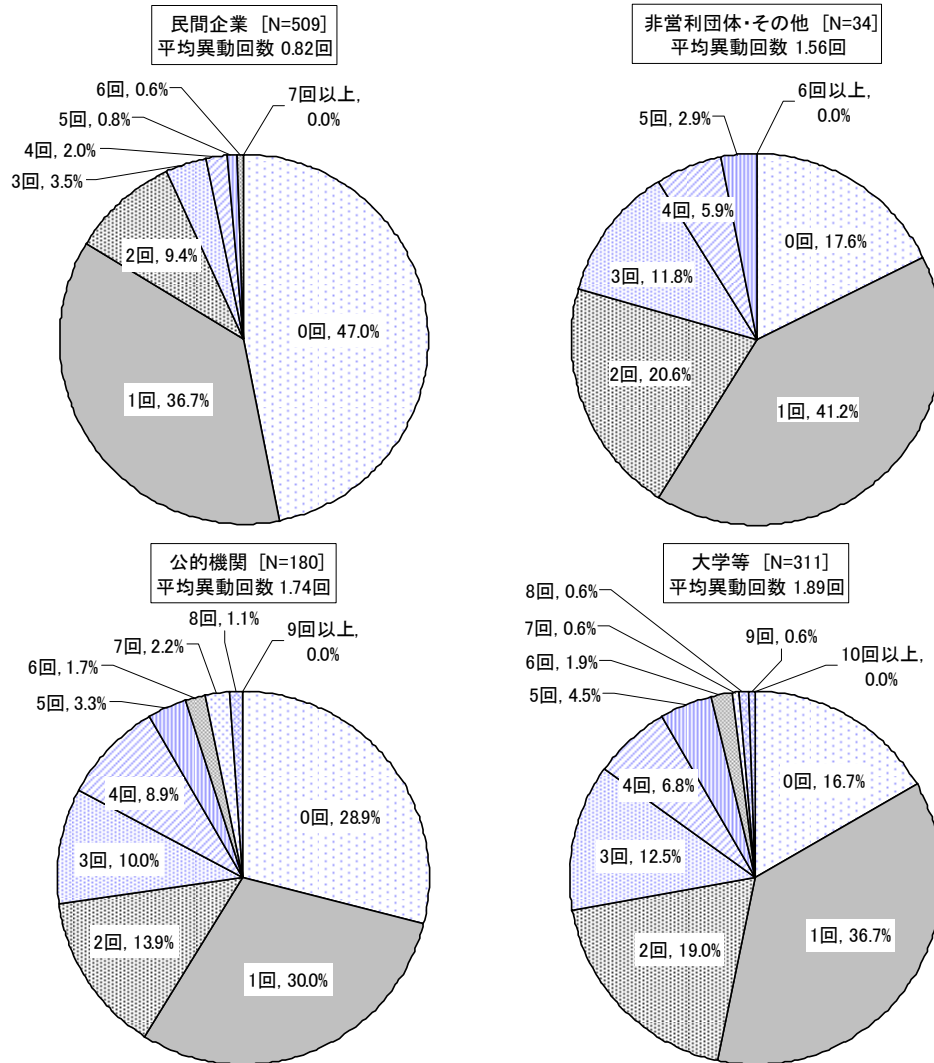


図 33 回答者のキャリア異動回数（セクター別）

### <異動に伴う処遇の変化>

回答者の異動に伴う処遇の変化について、異動前後の給与（平均年収）を比較してみると、異動全体の 78.2%において給料が増加しており、給与が変化しないもしくは減少したのは全体の 21.4%を占める。研究者の異動に伴い給与（平均年収）が上昇していることがわかる。（図 34）

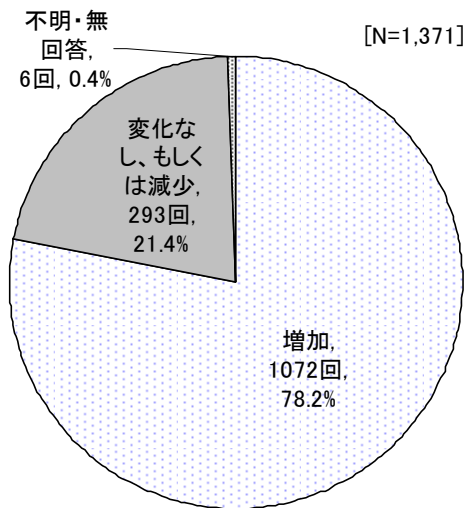
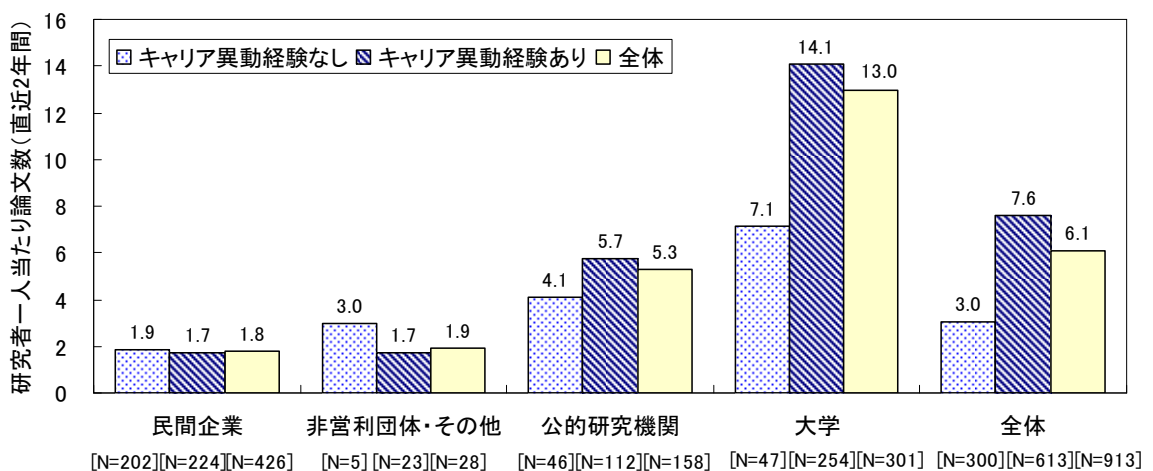


図 34 回答者の異動前後における給与（平均年収）の変化

＜直近 2 年間の投稿論文数＞

回答者の直近 2 年間に投稿した論文数（査読付き）について、現在の勤務先セクター別に一人あたりの論文数を比較してみると、大学に勤務するものが 13.0 本と最も多く、次いで公的研究機関（5.3 本）となり、民間企業、非営利団体に勤務するものはそれぞれ 1.8 本、1.9 本と投稿論文数は少ない。（図 35 ＜参照：全体[黄色部分]＞）

次に、キャリア異動経験の有無で比較すると、大学に勤務するもののうちキャリア異動経験のあるものは直近 2 年間の投稿論文数が 14.1 本であり、異動経験のないものの投稿論文数 7.1 本と大きな差が見られる。また公的研究機関に勤務するものについても大学ほどではないものの、キャリア異動経験のあるものの投稿論文数 5.7 本に対して異動経験のないものの投稿論文数は 4.1 本と差が見られる。一方、民間企業に勤務するものは異動経験の有無による差はさほど見られない。（図 35 ＜参照：キャリア異動経験なし・あり＞）



＜直近 2 年間の特許出願数＞

回答者の直近 2 年間に特許出願した件数について、現在の勤務先セクター別に一人あたりの特許出願数を比較してみると、民間企業に勤務するものが 4.1 件と最も多く、大学、公的研究機関、非営利団体に勤務するものはそれぞれ 1.0 件、0.8 件、0.3 件と特許出願件数は少ない。（図 36 ＜参照：全体[黄色部分]＞）

これをキャリア異動経験の有無で比較すると、上記した投稿論文数の結果と全く異なり、民間企業に勤務するもののうちキャリア異動経験のあるもの（3.2 件）より異動経験のないもの（5.1 件）のほうが、直近 2 年間の特許出願件数が多いという結果が得られた。民間企業以外では、公的研究機関について民間企業ほど異動経験の有無による差異は見られないものの異動経験のないもののほうが異動経験のあるものよりも特許出願件数が多いという傾向は同じである。一方、大学等に勤務するものについては、異動経験の有無による特許出願件数の差異は見られない。（図 36 ＜キャリア異動経験なし・あり＞）

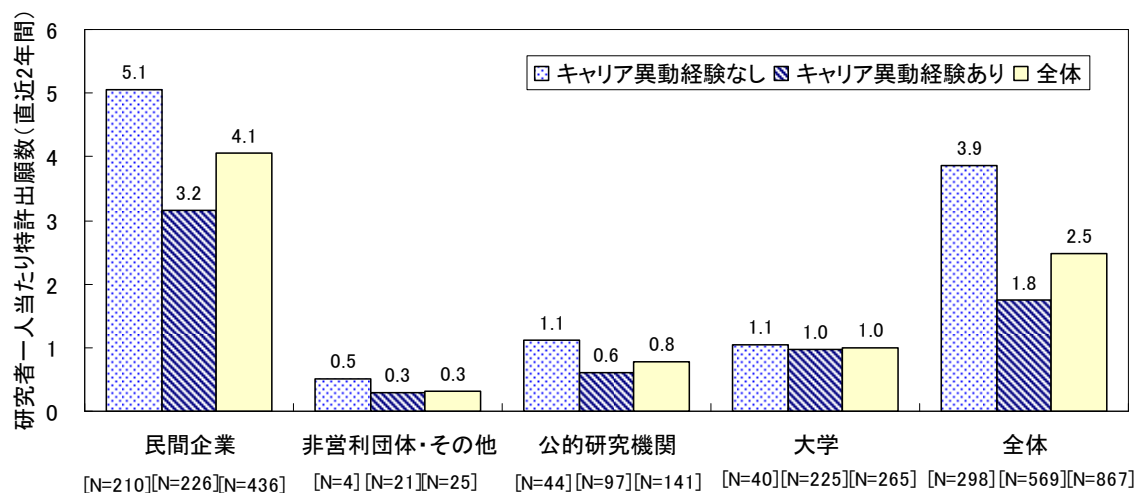


図 36 回答者の直近 2 年間に依頼した特許数（異動経験別、セクター別）

<参考：直近 2 年間の投稿論文数・特許出願数（年齢構成別、分野別）>

ここでは、回答者の直近 2 年間に投稿した論文数や依頼した特許数について年齢別に違いを見ると、投稿論文数については年齢が高くなるに従い数が増加しており、55 歳以上 64 歳以下のものは 12.2 本と全体平均（6.1 本[図 35 参照]）の約 2 倍となっている。（図 37）これは本調査における“投稿した論文”の定義としては第一著者に限定したものではないため、研究室や研究ユニットの長などが多くを占める高年齢層は本数が多くなっていると推察される。

一方、特許出願数については年齢による差異は投稿論文数と比較すると小さいものの、研究を直接的に担当するような 45 歳以上 54 歳以下の年齢層の特許出願数が多くなっている。（図 38）

分野別に見ると、投稿論文数については保健分野と理学分野の回答者の投稿本数が多い（図 39）、特許出願数は理学分野、工学分野が多い。（図 40）セクター別に比較した投稿論文数の結果（図 35 図 36）においては、大学等に勤務するものは保健分野の割合が 51.0%（図 9）と多く、これが他セクターと比較して大学等に勤務するものの投稿論文数が多い要因の一つといえる。また特許出願数についてセクター間比較した結果（図 36）においては、民間企業に勤務するものは工学分野の割合が 78.4%（図 9）と多く、他セクターと比較して民間企業に勤務するものの特許出願数が多い要因の一つといえる。

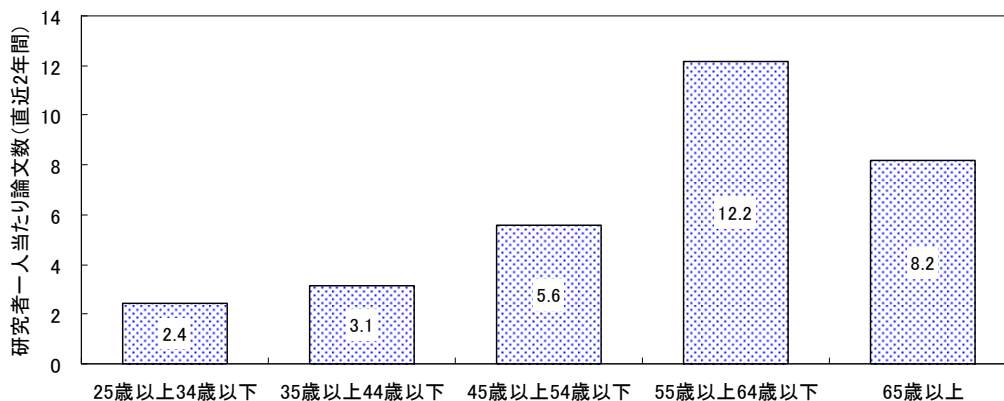


図 37 回答者の直近 2 年間に投稿した論文数（年齢別）

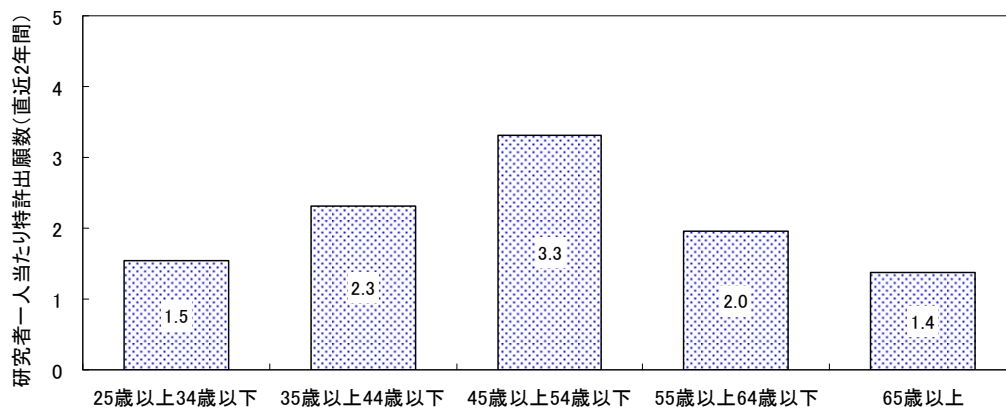


図 38 回答者の直近 2 年間に特許を出願した特許数 (年齢別)

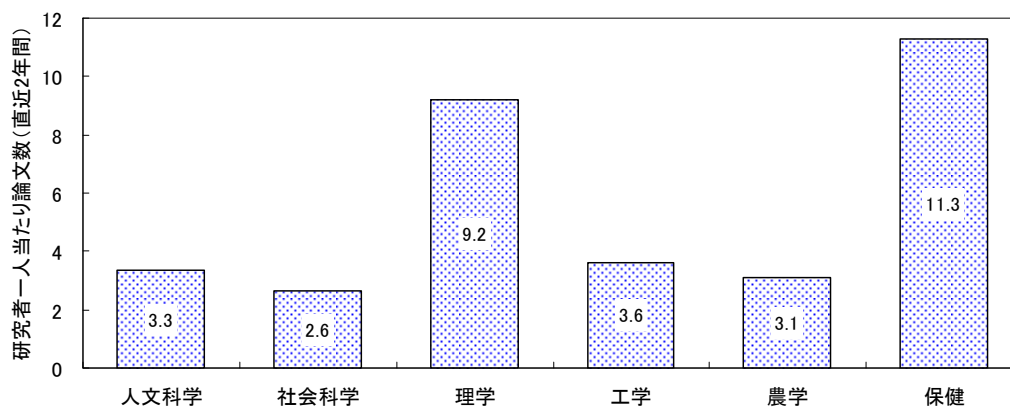


図 39 回答者の直近 2 年間に投稿した論文数 (分野別)

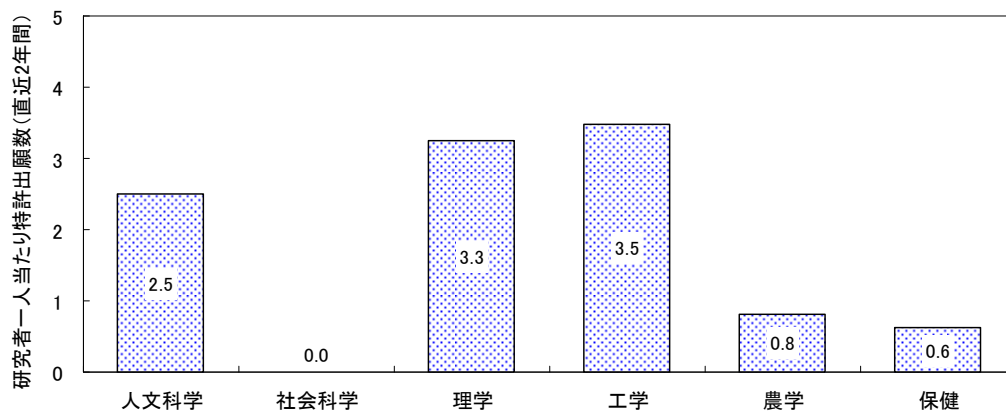


図 40 回答者の直近 2 年間に特許を出願した特許数 (分野別)

<海外での研究経験>

回答者で海外勤務経験を有するものは、全体で 10.6%に過ぎず、海外勤務経験のないものが約 9 割を占める。(図 41) また、海外勤務経験者を現在の勤務セクター別と比較すると、大学等に勤務するものは 62.7%と多くを占め、それ以外では公的研究機関、民間企業がともに 16.4%を占める。(図 42)

また海外勤務経験者の勤務先国は、地域別にみると北米が 67 名と最も多く全体の 73%を占める。次いで西ヨーロッパが 20 名 (全体の 22%)、東南アジア 4 名 (全体の 4%)、西アジア 1 名 (全体の 1%) である。国としては、アメリカが 60 名、イギリス、ドイツが 6 名、カナダ 5 名、フランス 4 名である。(図 43)

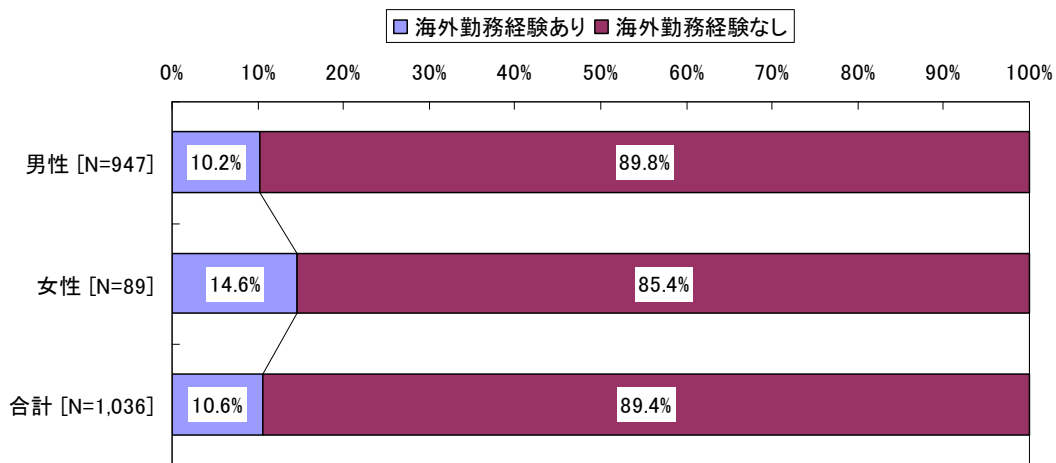


図 41 回答者の海外勤務経験の有無 (男女別人数)

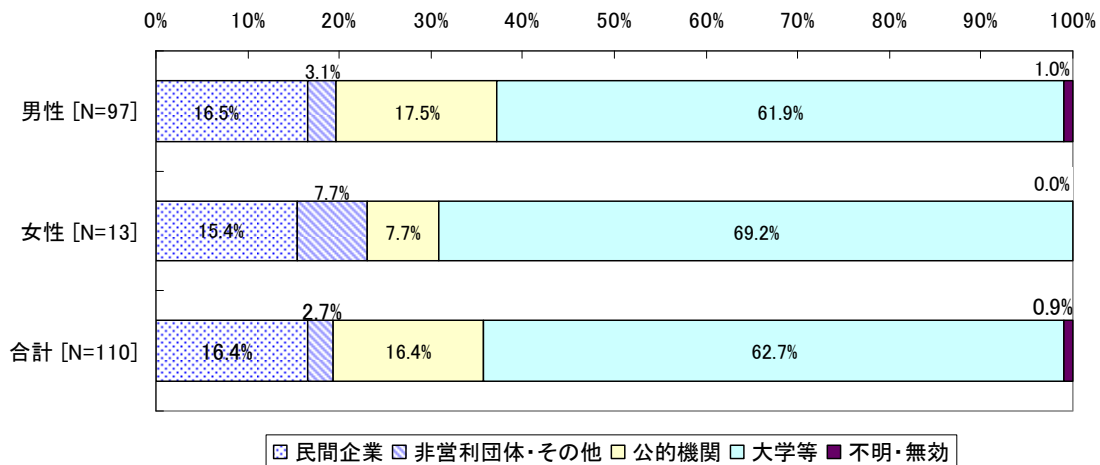


図 42 海外勤務経験者のセクター別内訳

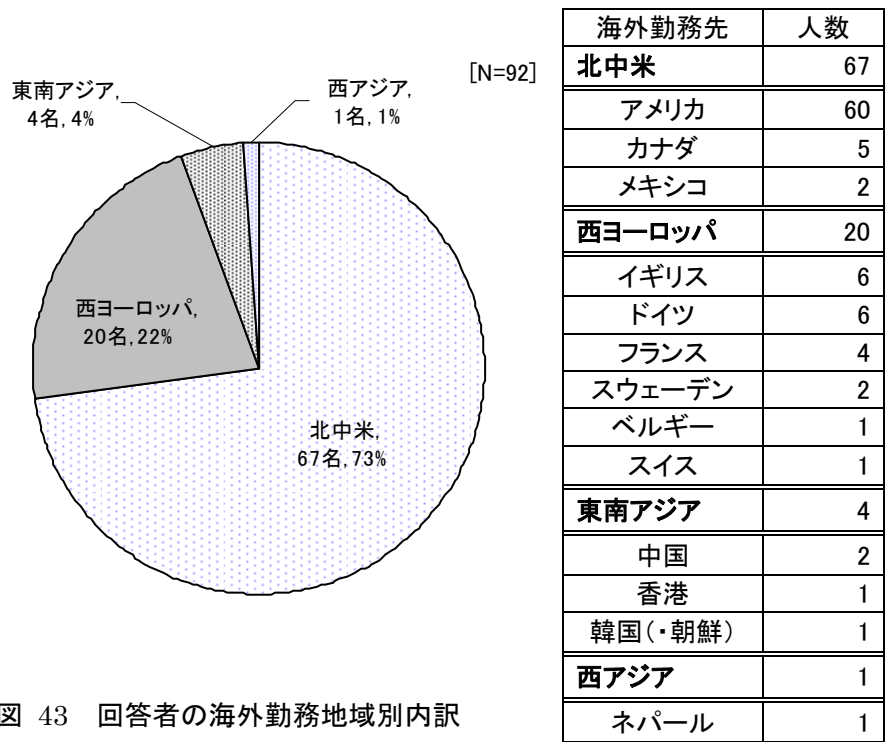


図 43 回答者の海外勤務地域別内訳

## 2-2-2 国内外のセクター間キャリア異動状況

<国内外のキャリア異動状況>

キャリア異動経験者 685 名について、これまでの国内及び海外を含むキャリア異動状況（全 1,371 回）を整理すると、不明もしくは無記入のものが 357 回存在し、これらを除く全 1,014 回の異動のうち、国内機関間の異動は全体の 88.2%（のべ 894 回）を占め、国内機関から海外機関への異動は 5.3%（54 回）、海外機関から国内機関への異動は 6.0%（61 回）、海外機関間の異動は 0.5%（5 回）である。（図 44）

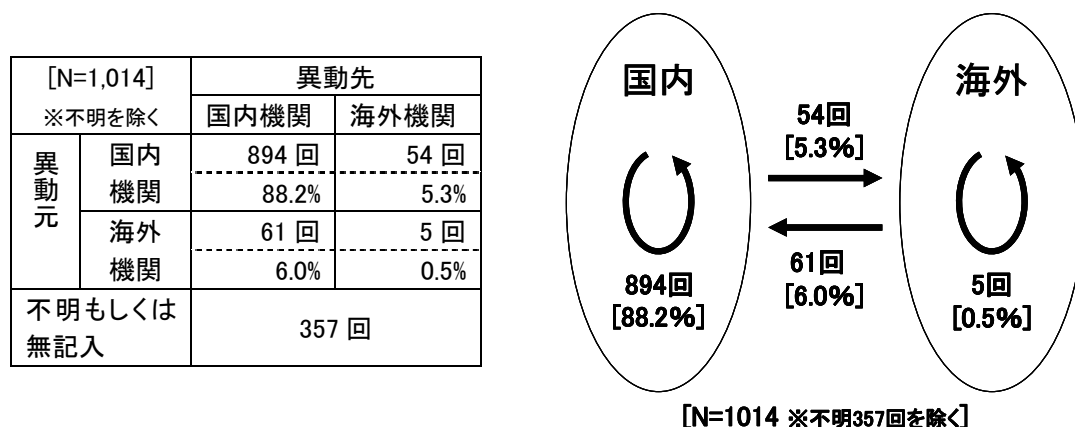


図 44 回答者の国内外キャリア異動回数（のべ回数）

<セクター間のキャリア異動状況>

更にセクター別に分類すると、国内機関間の異動については、民間企業間の異動が 275 回（全 894 回）と最も多く、次いで大学間の異動が 200 回、公的研究機関間が 145 名と同機関間の異動が多い。次いで、公的研究機関から大学等への異動が 53 名、民間企業から大学等への異動が 43 名、大学等から公的研究機関への異動が 41 名と続いている。しかしながら大学等から民間企業への異動や民間企業と公的研究機関との間の異動については、相対的には少ない。

一方、国内機関間の異動と比べると数は少ないものの、国内機関から海外機関への異動については、大学間の異動が 21 回（全 54 回）を占めており、海外機関から国内機関への異動についても大学間の異動が 32 回（全 61 回）を占める。またサンプル数は非常に少ないが、海外機関間の異動でも大学間異動が 2 回（全 5 回）と多い。（表 8）



表 8 回答者のセクター間異動状況（国内外異動別）

国内での異動		異動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
異動元	民間企業	275	9	23	43	350
	非営利団体・その他	4	15	10	22	51
	公的研究機関	12	9	145	53	219
	大学等	17	16	41	200	274
合計		308	49	219	318	894

国内→海外への異動		異動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
異動元	民間企業	6	0	3	5	14
	非営利団体・その他	0	0	1	0	1
	公的研究機関	0	1	3	6	10
	大学等	1	1	6	21	29
合計		7	2	13	32	54

海外→国内への異動		異動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
異動元	民間企業	2	0	0	0	2
	非営利団体・その他	1	0	2	3	6
	公的研究機関	2	0	1	9	12
	大学等	4	0	5	32	41
合計		9	0	8	44	61

海外での異動		異動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
異動元	民間企業	0	0	0	0	0
	非営利団体・その他	0	0	0	0	0
	公的研究機関	0	0	0	1	1
	大学等	1	0	1	2	4
合計		1	0	1	3	5

## 2-3 研究者の流動等に関する意識

### 2-3-1 研究者選択理由、海外での研究実施理由

#### <研究者選択の理由>

全回答者について、研究者という職業を選択した理由を整理すると、“創造性が高くイノベティブである”と回答したものが 776 名と最も多く、次いで“社会への貢献”、“自由度が高い”、“仕事環境が良い”という理由が多い。

一方、“給料が高い”や“昇進の機会が多い”といった理由を選択したものは少ない。(図 45)

#### <海外で研究活動を行った理由>

有効回答総数 262 名のうち、“研究の更なる発展や継続が可能であった”と回答したものが 178 名と最も多く、次いで“日本で博士号を取得し、さらに研鑽した”や“雇用期間から派遣された”、“日本には存在しない研究分野で仕事ができ”、“論文等の成果を出しやすかった”という理由が多い。これらの理由の多くは、研究の発展・向上に関するものである。(図 46)

#### <海外での研究活動をやめて帰国した理由>

一方、海外での研究活動をやめて帰国した理由について、有効回答総数 210 名のうち、回答の多いものは、“雇用機関から派遣された”(73 名)や“雇用期間が終了した”(51 名)、“ポストクの契約が終了した”(39 名)、“家族の事情があった”(42 名)など本人の研究意思とは直接的には関係のないものである。また“研究の更なる発展や継続が可能であった”(53 名)という理由のように研究の発展・向上に関するものも回答が多い。

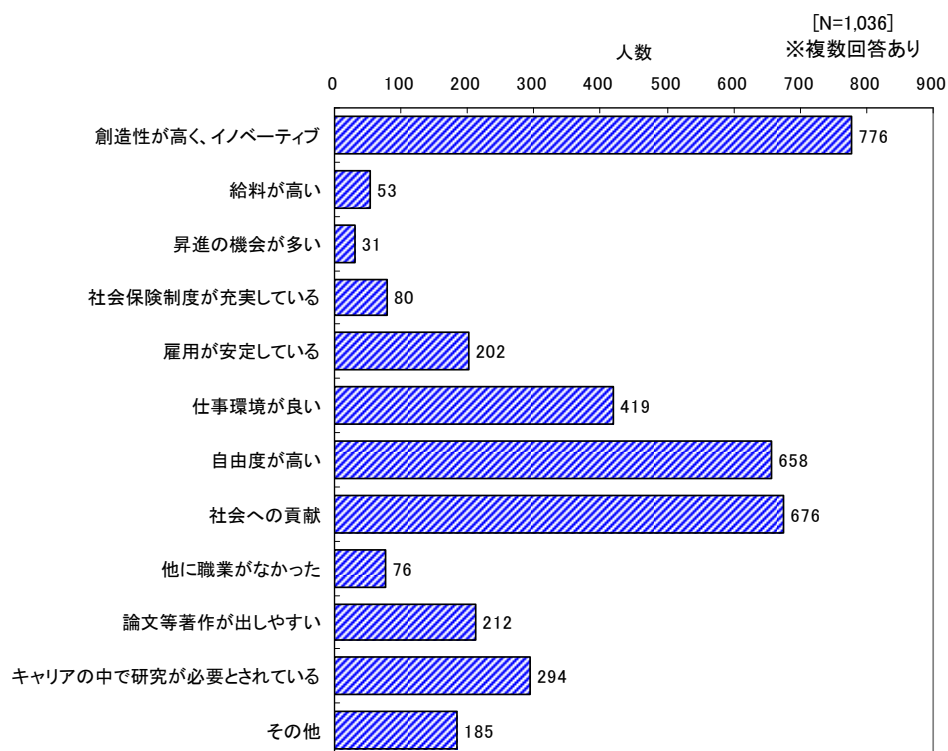


図 45 研究者という職業を選択した理由

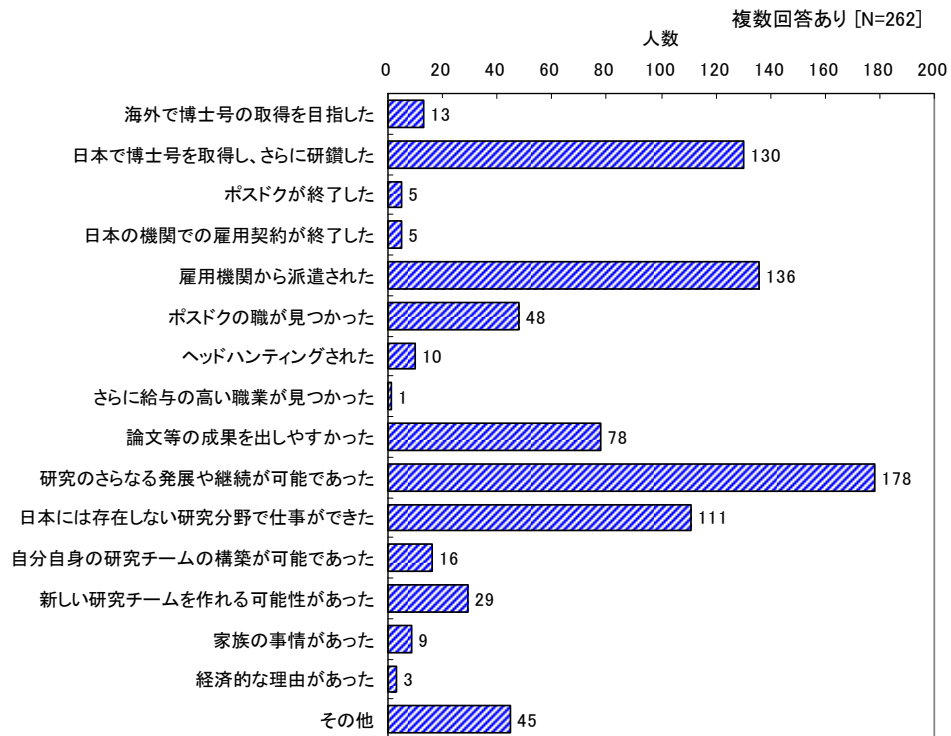


図 46 海外で研究活動を行った理由

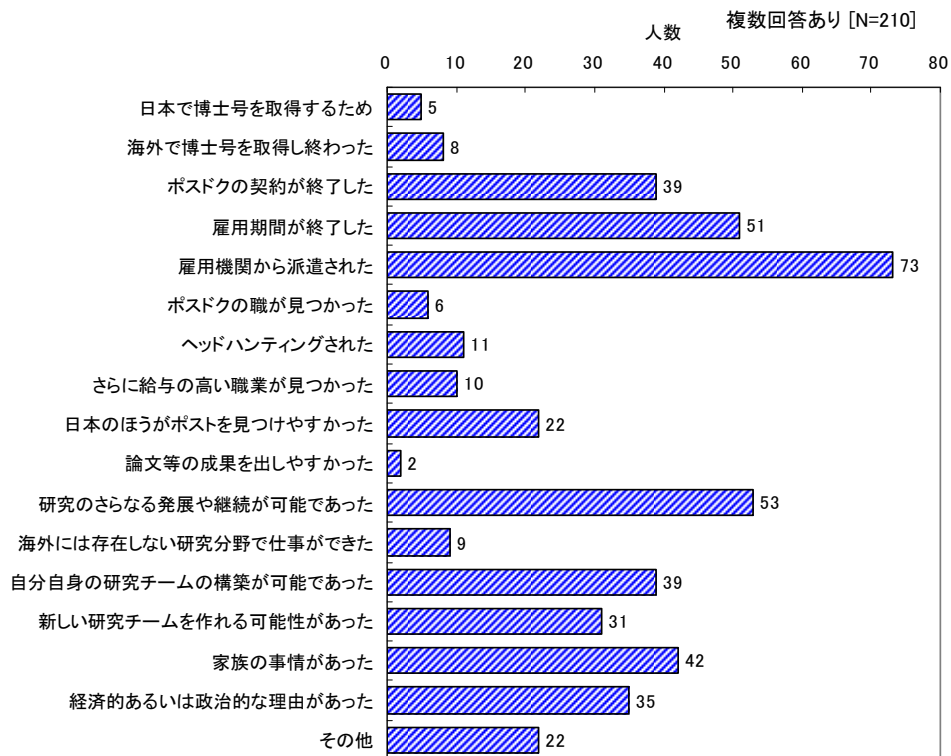


図 47 海外での研究活動をやめ帰国した理由

## 2-3-2 今後の海外での研究予定

<近い将来海外での研究予定と滞在予定期間、その理由>

全回答者について、近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定のものは 2% (21名) しかなく、96%は予定していないという回答が得られた。滞在予定期間は、3ヶ月以内から5年以上まで偏りない結果である。(図 48)

またその理由については、2-3-1と同様に“研究の更なる発展や継続が可能”、“日本には存在しない研究分野で仕事ができる”といった研究の発展・向上に関するものが多い。(図 49)

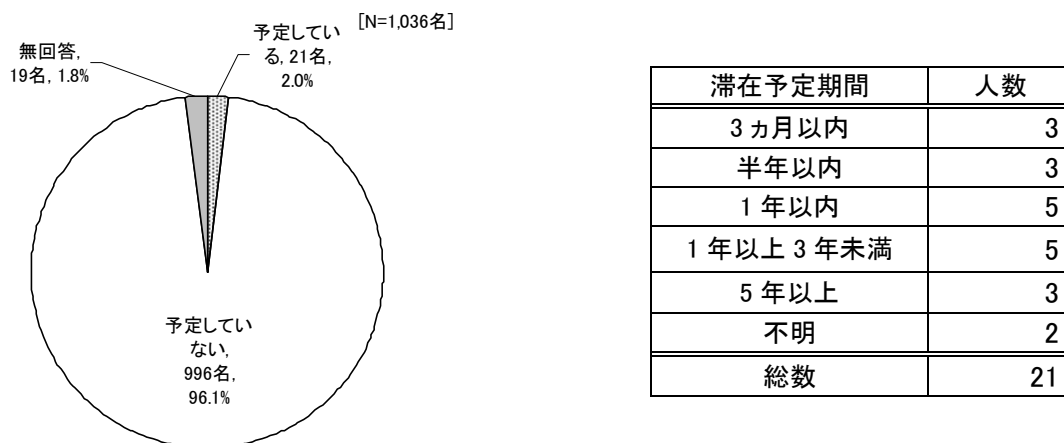


図 48 近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定と滞在期間

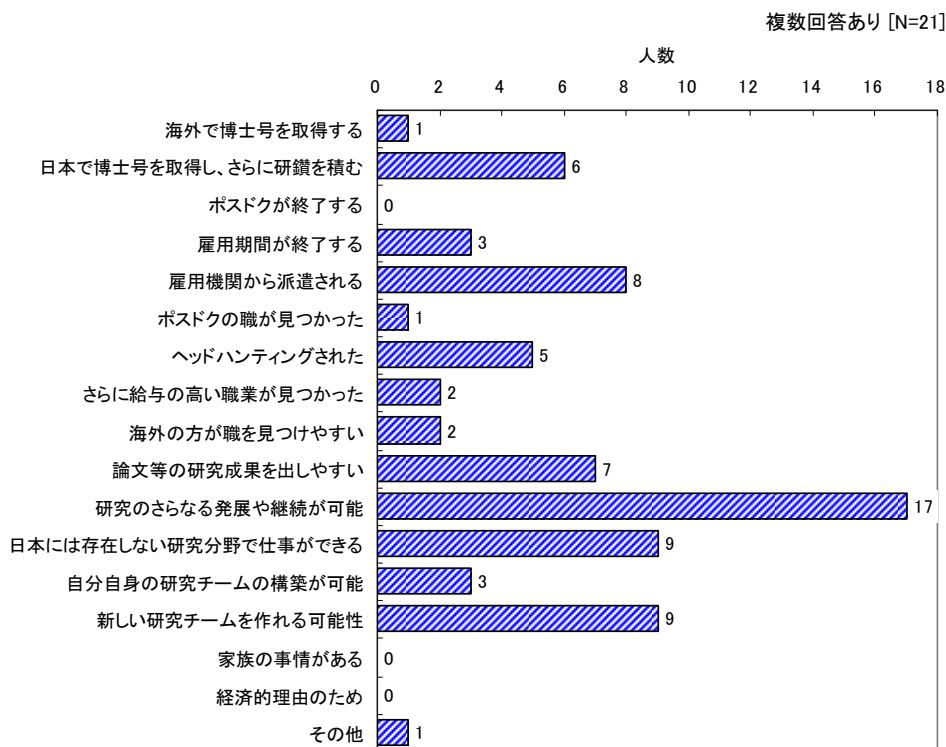


図 49 近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う理由

### 2-3-3 日本人研究者の流動性

#### 【集計方法】

本項目に該当する調査票の質問への回答方法は、各質問項目について5段階から最も相応しいと思われるものを選択する（5段階評価）方法である。（図50）集計の際には質問項目ごとに、無記入のものは無効回答とした。従って、各質問及び項目について有効回答数はそれぞれ異なる。

集計結果は有効回答の評価値の平均（有効回答の評価値の総和÷有効回答総数）を記載することとした。

問. あなたは、日本人研究者の流動性は、国内の機関間、国内から海外、海外から国内を全体的にみて、5年前に比べて増加したと思いますか？適切と思うものを一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします)	極めて増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少した	わからない
①日本人研究者の流動性は、5年前に比べて？	5	4	3	2	1	0

図 50 5段階評価による回答方法の例

#### <日本人研究者の流動状況>

日本人研究者の流動状況は5年前と比較するとやや増加したという意識を持っており（図51）、日本における研究者の流動性は他の先進諸国と比較すると、国内機関間、国内機関と海外機関間ともに低いと考えられている。（図52）

中でも、国内機関から海外機関への日本人研究者流動は、国内機関間の流動や海外機関から国内機関への流動と比べて相対的に低いと考えられている。（図52）

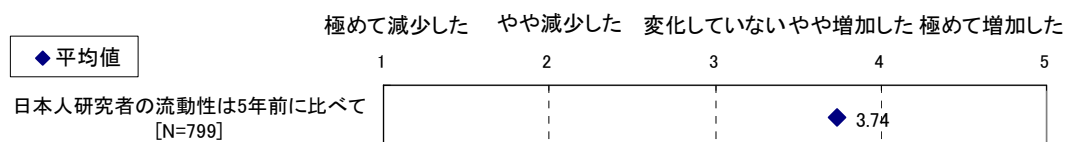


図 51 5年前と比較した日本人研究者の流動状況

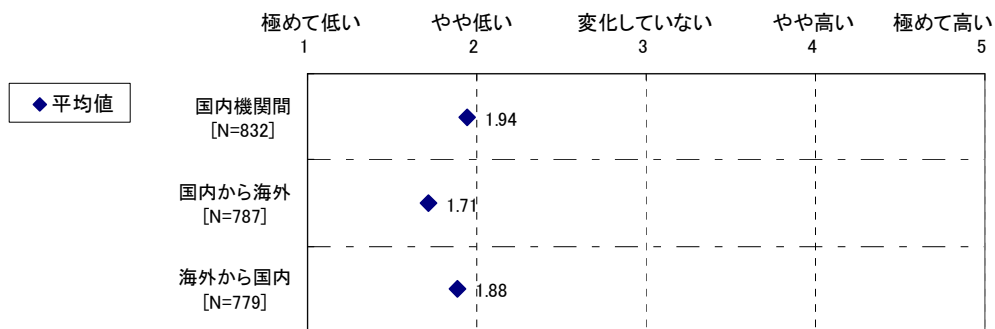


図 52 日本における流動性と他先進諸国との比較

<日本において研究者の流動性が先進諸国と比べて低い理由>

国内機関間の流動性が他の先進諸国と比較して低い理由として、“所属機関の人事制度が硬直的”という点が最も回答者の意識が強く、“移籍すると給与が下がる”というような給与面での理由は相対的に低い。また“研究者が安定を望んでいる”や“流動性が高いことのデメリットが大きい”というような研究者の心理的側面の理由も回答者の意識としては強く表れている。(図 53)

国内機関から海外機関への流動性が他の先進諸国と比較して低い理由として、“海外へ移籍した後、日本に帰ってくるポストがあるか不安”という帰国後のポストの不安や“海外の研究機関に移籍するためのコネクションがない”というコネクションの問題が強く意識されている。また“日本の方が生活環境がよい”や“他の先進諸国と距離的に離れている”という生活環境や地理的な問題の意識も強い。(図 54)

海外機関から国内機関への流動性が他の先進諸国と比較して低い理由として、“外国人が日本でポストを見つけることが困難”という日本におけるポストの問題や“日本の生活費が高く暮らしていく”や“日本の生活習慣や文化的な違いになじめない”、“日本では配偶者の就業場所を見つけることが困難”といった生活環境や家族に付随する問題が大きいという意識が強い。(図 55)

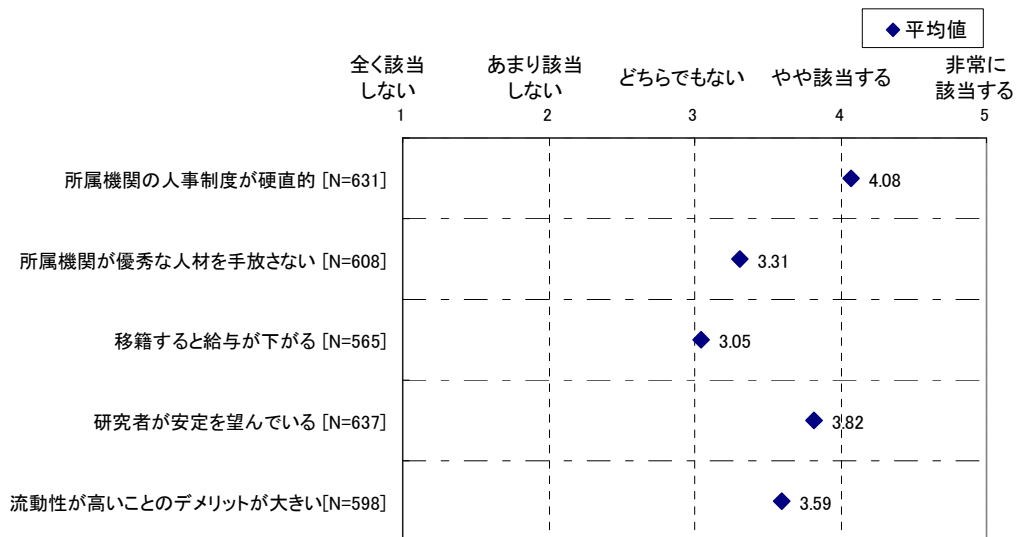


図 53 国内機関間の流動性が先進諸国に比べ低い理由

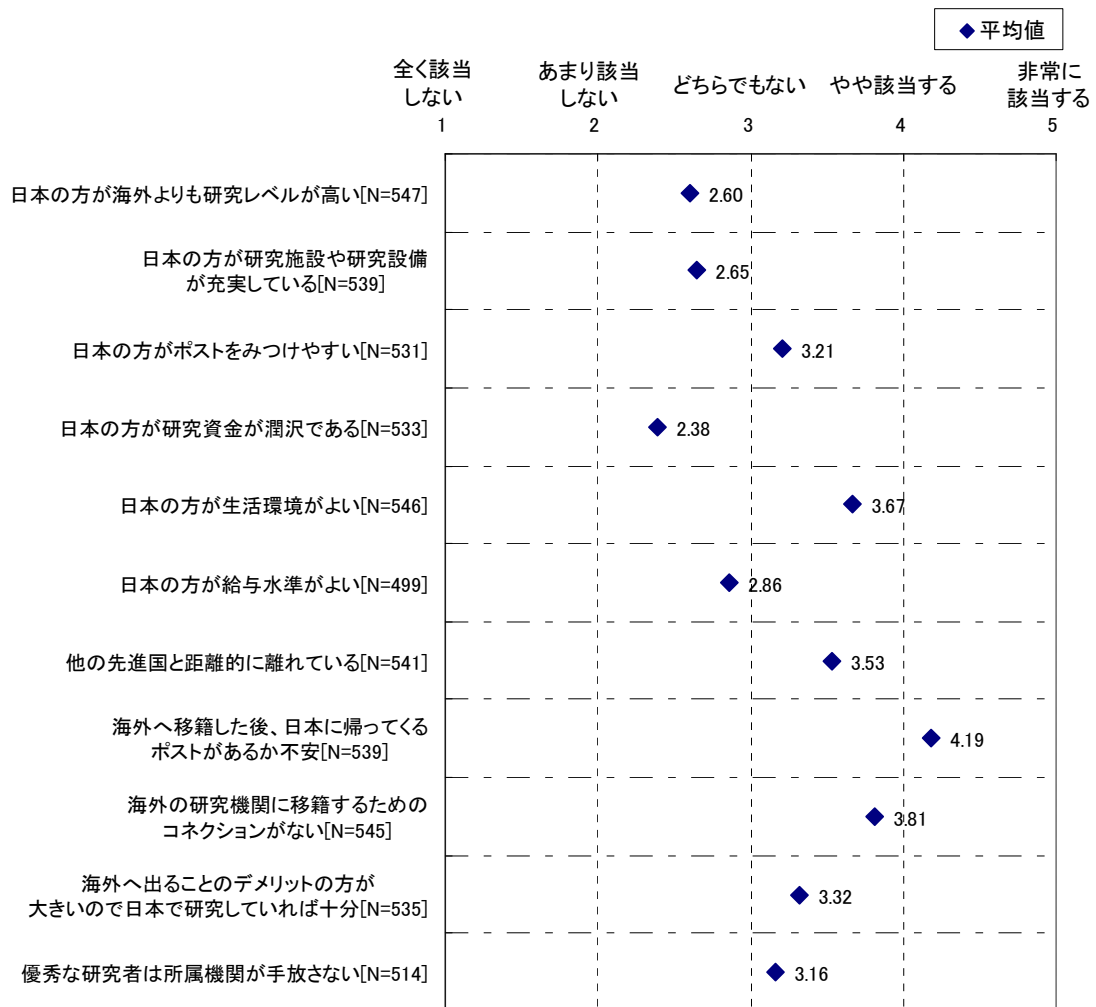


図 54 国内から海外への流動性が先進諸国に比べ低い理由

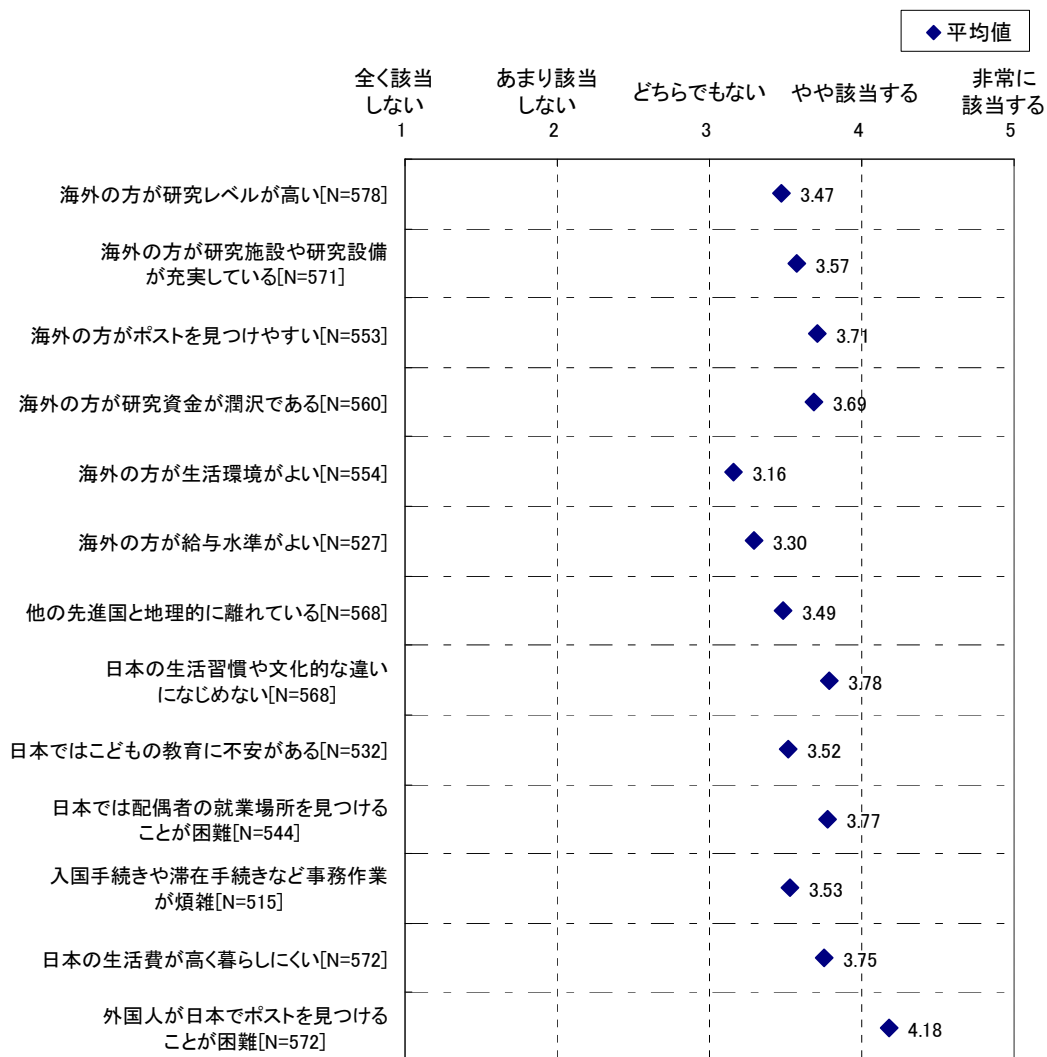


図 55 海外から国内への流動性が先進諸国に比べ低い理由

<日本において研究者の流動性が増加した際のメリット・デメリット>

日本において研究者の流動性が増加した際のメリットについて、“所属機関は新しい研究領域を開拓できる”、“所属機関は新しい文化を取り入れられる”といった所属機関の研究・文化の発展に関する項目の意識が強く、研究者個人にとっても“研究者が異分野との研究者と交流できる”という研究者交流の発展に関する項目の意識が強い。全体的には、所属機関にとっても研究者個人にとっても様々なメリットがあることがわかる。(図 56)

次に、日本において研究者の流動性が増加した際のデメリットとしては、“所属機関のノウハウが流出しやすくなる”、“長期の研究計画の設定が困難になる”や“所属機関は優れた人材を失いやすくなる”といった人材、ノウハウの流出だけでなく、長期研究計画の設定・実施が困難であるという意識が強い。(図 57)

研究者の給与に関しては、流動性の増加にあまり左右されないという意識が伺える。(図 56、図 57)



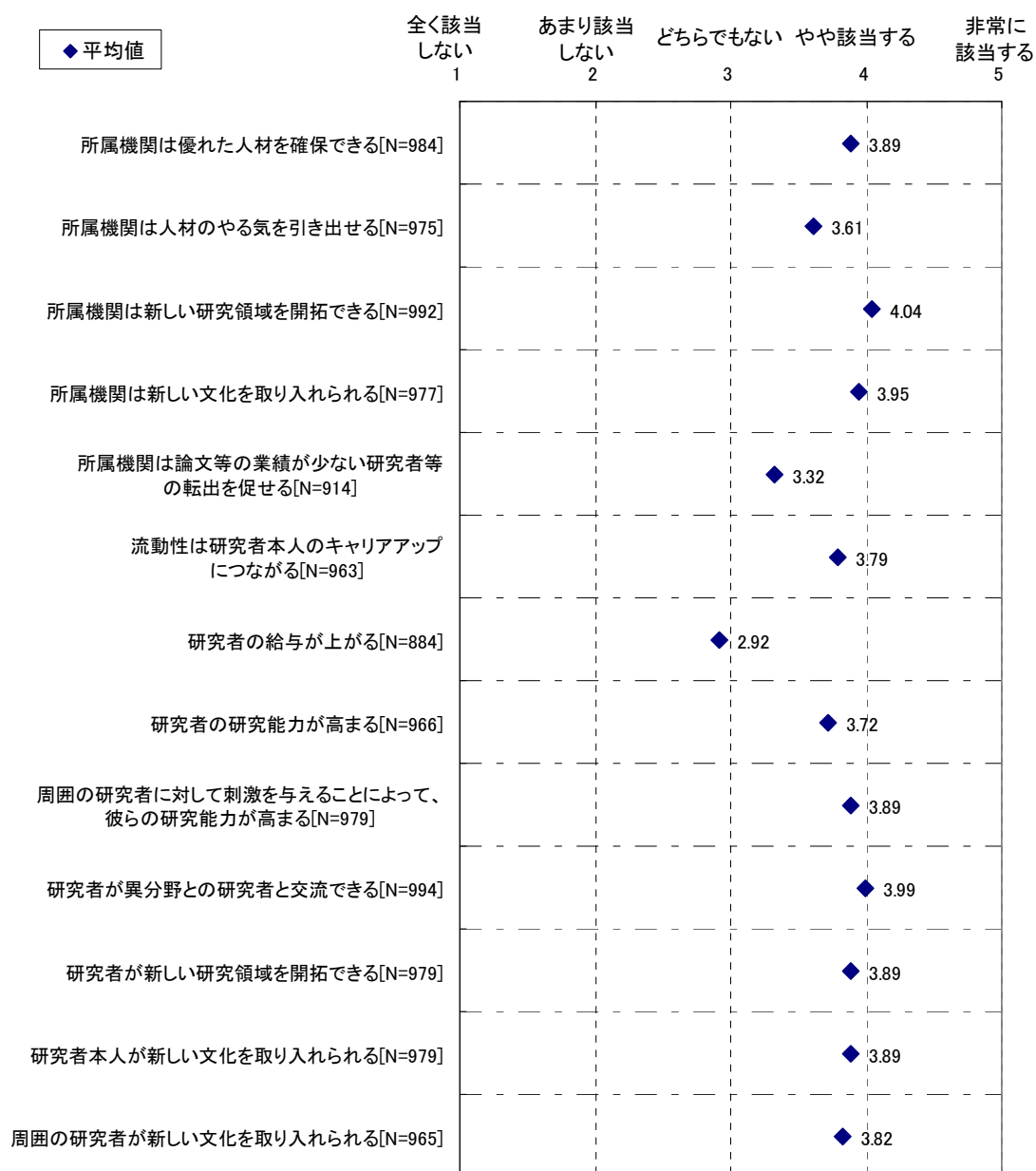


図 56 日本において研究者の流動性が増加した際のメリット

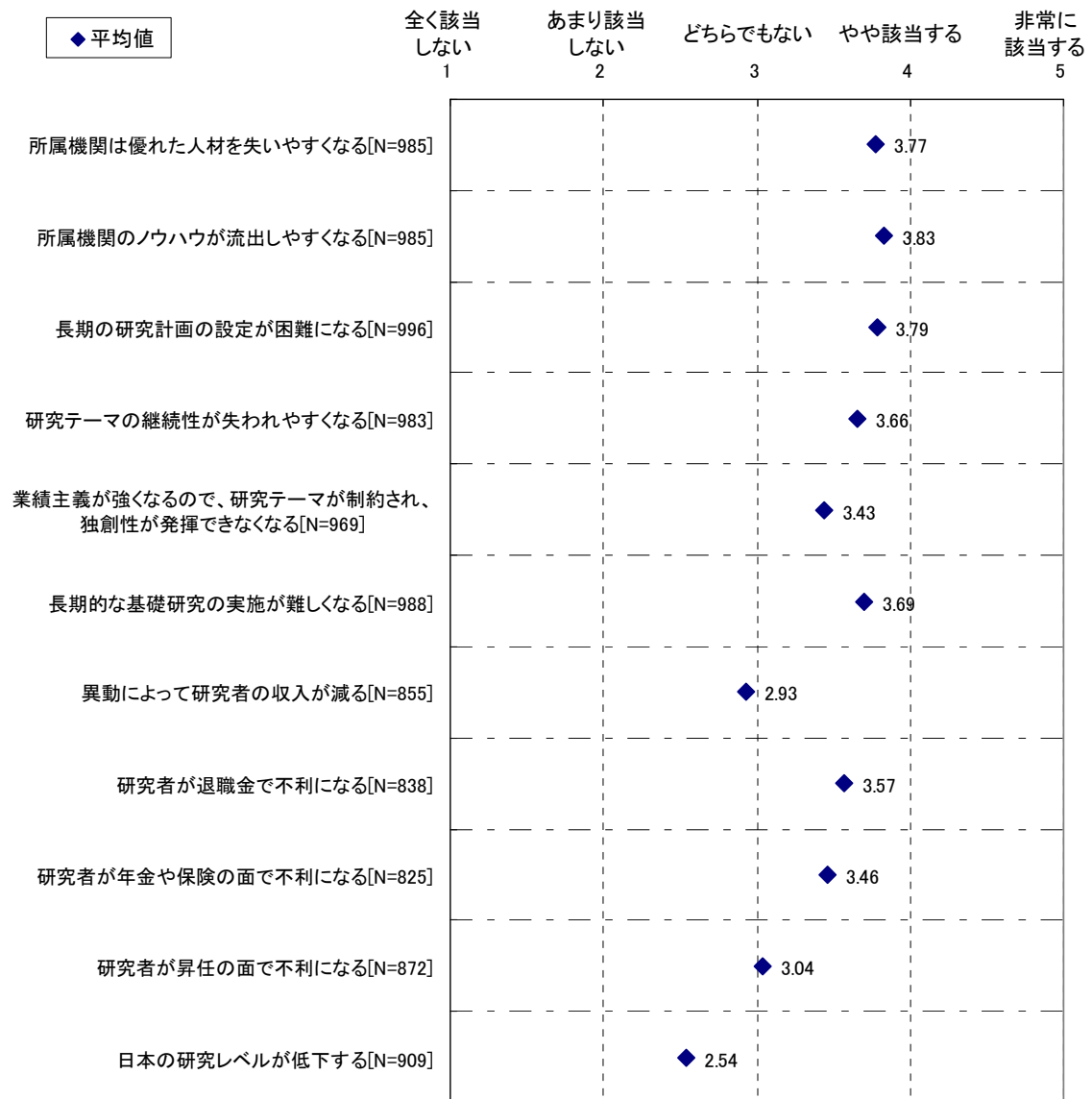


図 57 日本において研究者の流動性が増加した際のデメリット

<日本人研究者の海外への転出状況と転出理由>

日本人研究者の海外への転出状況については、5年前と比較するとやや増加したという意識を持っている。(図 58)

日本人研究者が外国の大学や研究機関に転出する理由としては、“海外の著名な研究者の下で研究ができる”が最も強く意識されており、次いで“キャリアアップにつながる”、“専門分野の研究能力とあわせ、コミュニケーションや議論のための言語能力を高めることができる”といった項目が強く意識されている。一方“海外の方が日本よりも研究環境がよい”“海外の方が日本よりも給与水準が高い”という項目についての該当意識は低い。(図 59)

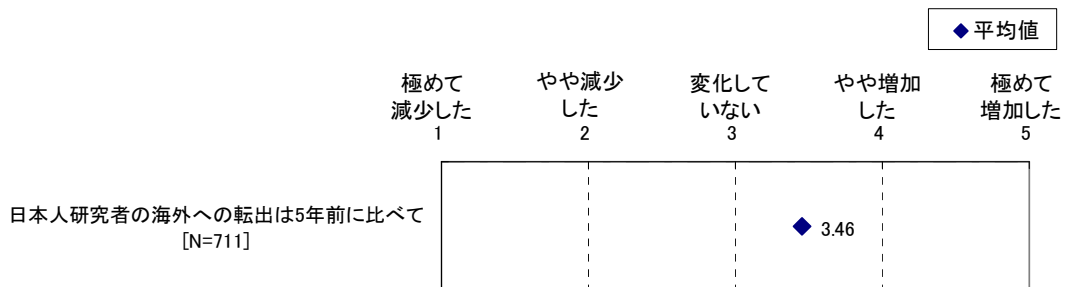


図 58 5年前と比較した日本人研究者の海外への転出状況

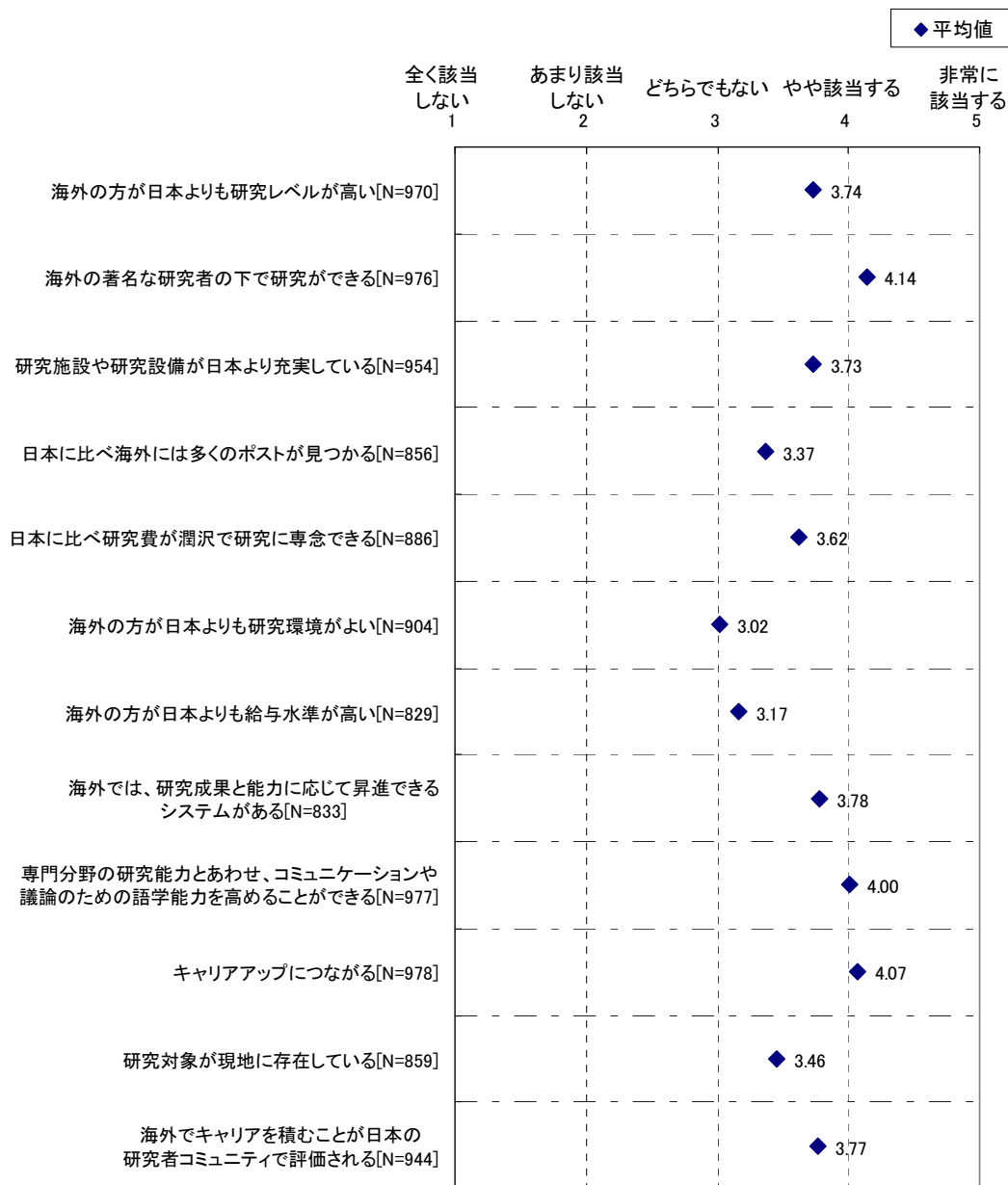


図 59 日本人研究者が外国の大学や研究機関に転出する理由

<頭脳流出<sup>注)</sup>した日本人研究者が帰国を希望しない理由>

頭脳流出<sup>注)</sup>した日本人研究者が帰国を希望しない理由について、“日本では研究業績に見合う報酬が得られない”や“日本の予算システムに柔軟性が少ない”という項目の意識が非常に強く、“日本よりも海外の生活環境のほうが良い”“日本では研究指導者の指示以外の研究ができない”という項目については意識が低い。(図 60)

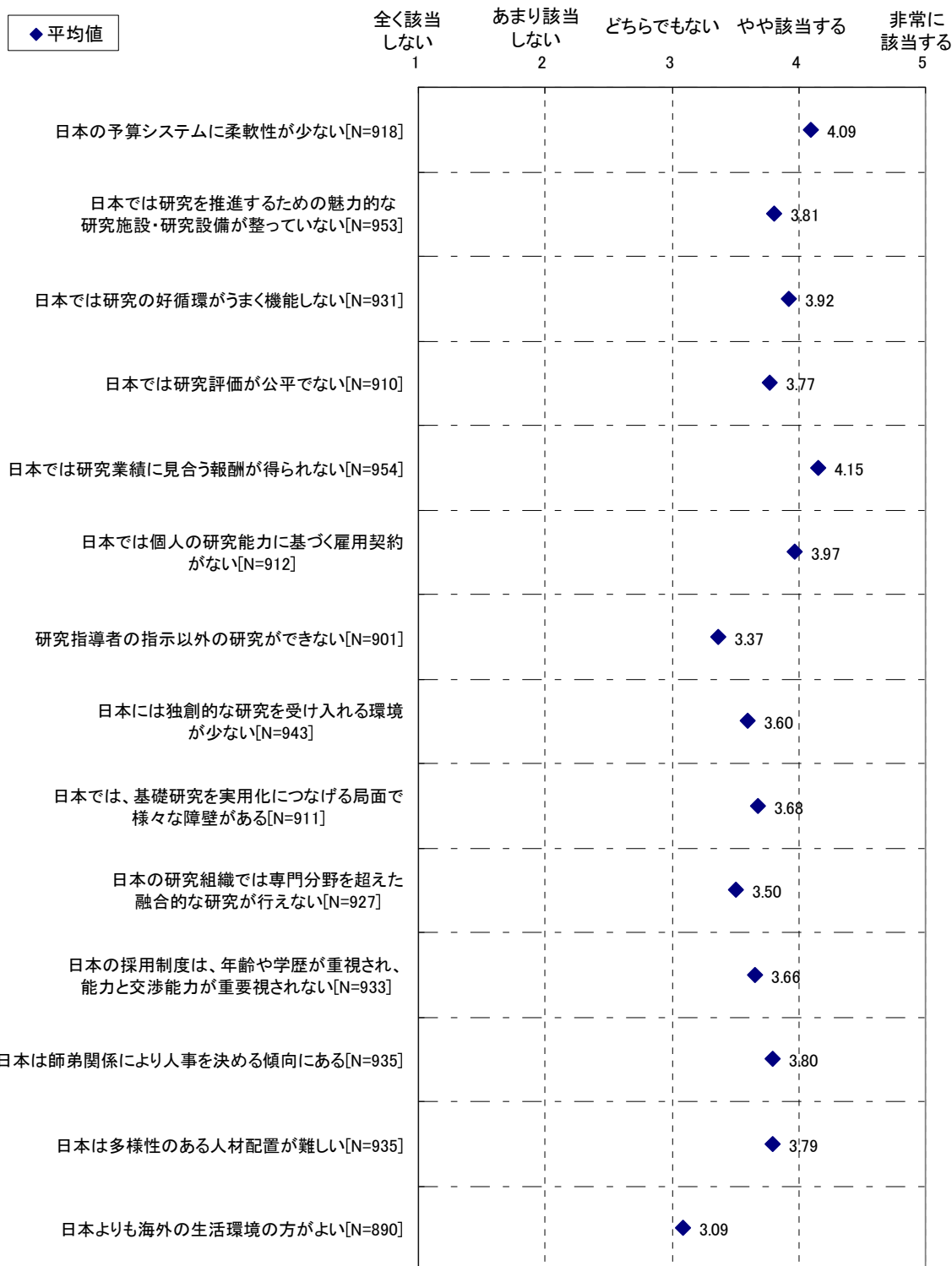


図 60 頭脳流出<sup>注)</sup>した日本人研究者が帰国を希望しない理由

注) 頭脳流出とは、高度な教育を受けた人々が、より良い研究環境や労働条件を求めて外国に移住すること。

## 2-3-4 日本に来る外国人研究者の状況

<日本に滞在する外国人研究者の状況>

日本に滞在する外国人研究者の状況については、5年前と比較すると“やや増加した”と“変化していない”の間くらいという認識である。(図 61)

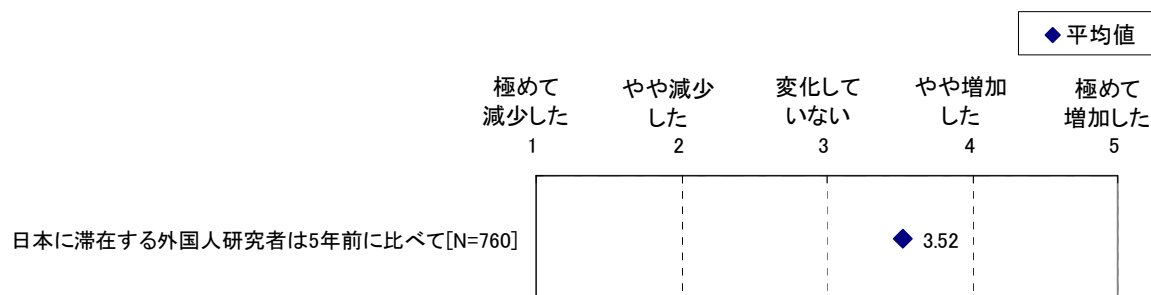


図 61 5年前と比較した日本に滞在する外国人研究者の状況

<外国人研究者が日本の大学や研究機関を選んで研究を実施する理由>

外国人研究者は、“日本は治安がよく生活しやすい”や“対象となる研究分野で日本のレベルが高い”という項目の意識が強い。次いで、“研究施設や研究設備が充実している”や“日本の方が給与が高い”“著名な研究者の下で研究できる”という項目の意識が強い。一方、“日本の人事評価が公平である”や“能力に応じて昇進できるシステムがある”という項目については評価が低い。(図 62)

<日本の大学や研究機関で研究を実施していた外国人研究者が日本を去る理由>

“出身国や他国で満足できるポストを獲得した”や“もともと一時的な計画での来日だった”という項目に関して、日本の大学や研究機関で研究を実施していた外国人研究者が日本を去る理由と強く認識されている。

上記項目以外では、“日本では希望するポストに就くことが困難”や“任期付雇用契約のため将来が不安”といった雇用に関する項目も強く認識されており、また“生活費が高く暮らしにくい”や“配偶者の就業場所を見つけるのが困難”といった生活に関する項目も比較的強く認識されている。(図 63)

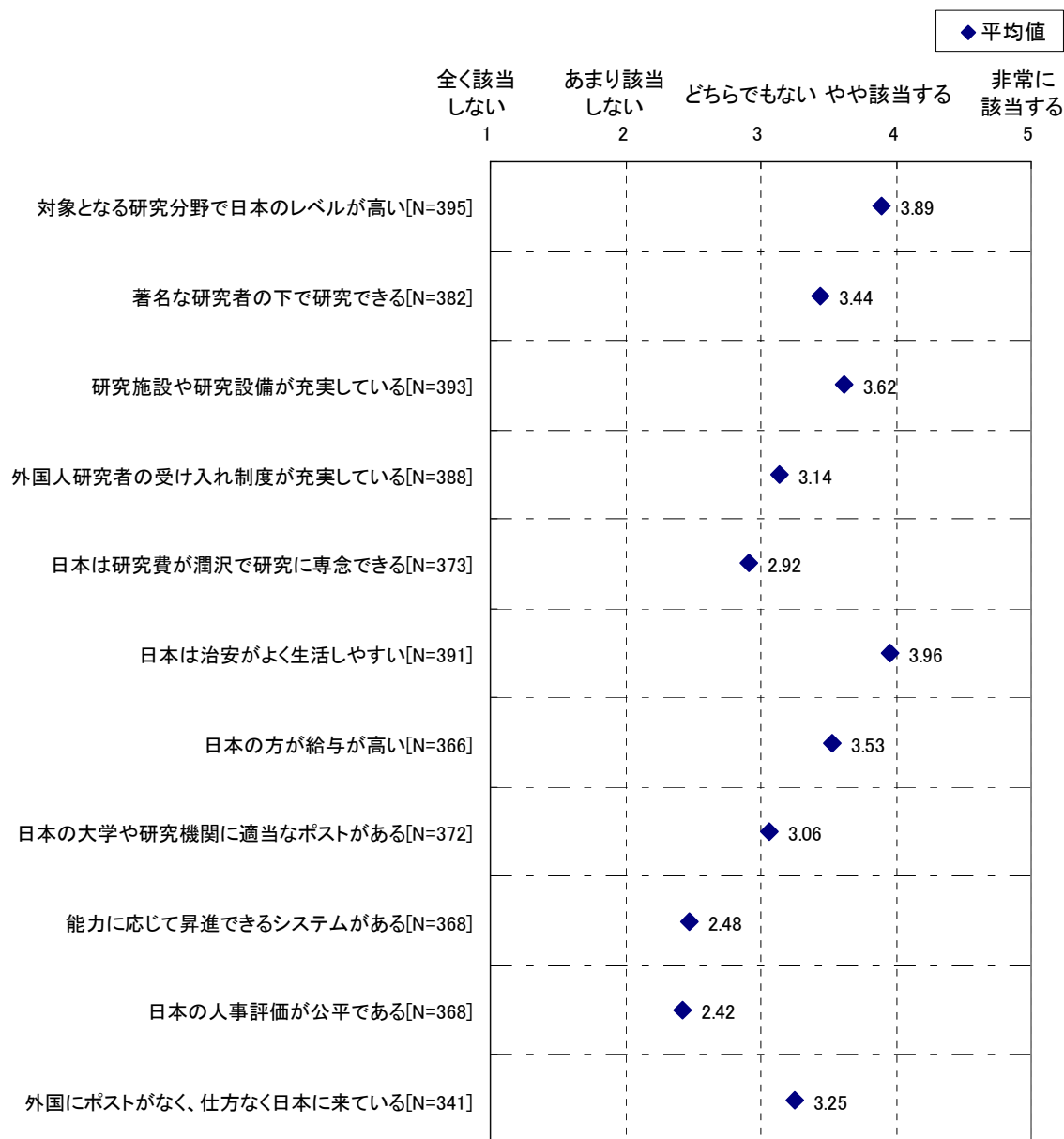


図 62 外国人研究者が日本の大学や研究機関を選んで在籍し研究を実施している理由

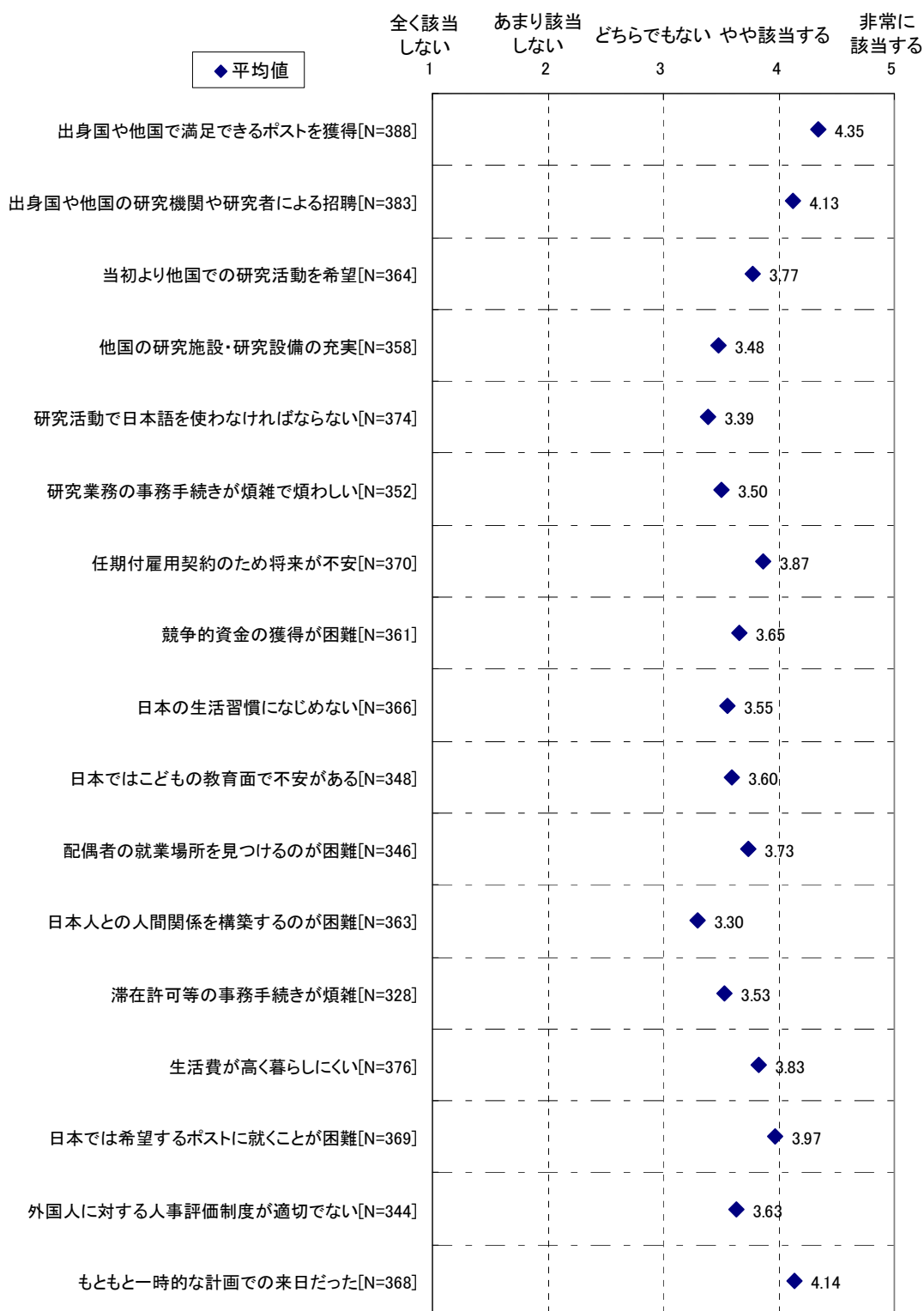


図 63 日本の大学や研究機関で研究を実施していた外国人研究者が日本を去る理由



### 3. まとめ

本調査では、我が国の大学・公的機関・民間企業等で現在研究活動を行っている 2,000 名の研究者に対して、現在の所属機関や学位取得状況、職業経歴、流動に対する意識面などを調査項目として調査を実施した。有効回答者数は 1,036 名（民間企業 509 名、大学等 311 名、公的機関 180 名、非営利団体・その他 36 名）であり、有効回答率は 51.8%であった。この調査により以下のことが明らかとなった。

#### 【流動状況について】

- ① これまでのキャリアにおいて異動を経験したものは 66.1%を占め、年々増加している。 過去同様の調査方法で実施した調査<sup>\*</sup>では、異動を経験したものの割合は、38.1%（2000 年度）、47.5%（2002 年度）、49.0%（2004 年度）であった。  
※文部科学省「平成 16 年度 我が国の研究活動に関する調査報告」、この調査は本調査と同様の方法で抽出した 2000 名の研究者に対して、研究環境等の意識について調査を行ったものであり、質問項目の一つにキャリアにおける異動経験の有無がある。
- ② 異動経験割合を勤務先セクター別に比較すると、大学等に所属するものは異動経験割合が 83.3%と高いが、民間企業に所属するものは 53.0%と低い。
- ③ 回答者全体の異動回数平均は 1.32 回であり、そのうち博士号取得者（回答者全体の 55.7%）の異動回数平均は 1.53 回、博士号未取得者の異動回数平均 1.07 回である。またポスドク経験者（回答者全体の 12.0%）に着目すると異動平均回数は 2.65 回と更に多く、博士号取得者特にポスドク経験者が研究者の流動性を担っている。
- ④ 異動全体で不明を除く回答（回答者の異動延べ総数 1,371 回：うち不明が 357 回）のうちでは、国内機関間の異動は 88.2%と大半を占め、国内機関から海外機関への異動が 5.3%、海外機関から国内機関への異動が 6.0%、海外機関間の異動が 0.5%と少ない。
- ⑤ 異動に伴う処遇の変化について、異動前後の給与（平均年収）を比較してみると、異動全体の 78.2%において給料が増加しており、変化なしもしくは給与が減少したのは全体の 21.4%を占める。研究者の異動に伴い給与（平均年収）が上昇していることがわかる。
- ⑥ 近い将来日本を離れて海外で研究活動を行う予定のものは 2.0%と非常に少なく、予定をしていないものが 96.1%と大半を占める。日本において研究活動を行う研究者で海外に行こうと考える研究者が現状では少ない。

#### 【流動に関する意識について】

- ⑦ 日本人研究者の流動状況について 5 年前と比較すると、全体としてやや増加したという回答が多い。しかしながら国内機関間、国内から海外、海外から国内いずれの流動とも他の先進諸国と比較すると低いという回答が多く、特に国内から海外への流動性が特に低いという回答が多い。
- ⑧ 国内から海外への流動が低い理由として、“海外へ移籍した後に日本帰ってくるポストがあるか不安”、“海外機関へ移籍するためのコネクションがない”という回答が多い。

- ⑨ 日本全体の流動性増加に伴うメリットについて、新しい研究領域の開拓や新しい文化の取り入れのように研究機関及び研究者個人双方ともに様々な回答がある。一方、流動性増加に伴うデメリットとしては、研究機関は人材、ノウハウの流出だけでなく、長期研究計画の設定・実施の困難が挙げられるものの全体としてメリットのほうが高めの回答になっている。研究者の給与に関しては流動性の増加にあまり左右されないと感じている研究者が多いことが伺える。

## 謝辞

本調査では、2,000名の研究者の抽出に際して独立行政法人科学技術振興機構（JST）の協力を得た後、研究者個人に対して調査への参加依頼をし、そのうち 1,036 名の研究者から回答を得ることができた。対象研究者の所属機関は、日本の研究者全体の所属分類と同様に民間企業、大学、公的研究機関、非営利団体等幅広いものであったにも関わらず、機関の偏りなく 50%以上の回収があったことは、日本における研究者流動性に関する非常に有益な情報であると言える。

ご協力頂いた研究者の皆様及び関係者の皆様には心より感謝申し上げたい。

なお、各研究者から回収したアンケート票の膨大なデータを集計頂いた（株）アシストマイクロ様にも深く感謝申し上げたい。

## 参考資料

調査集計結果、調査票手引き、調査票

## 参考資料 1. 調査集計結果

<研究経歴等について、問1～問17>

問1 回答者の人数と男女別内訳

男性	女性	不明	総数
947	89	3	1039

問1-2 回答者の年齢と性別

	男性	女性	不明	有効回答総数
24歳以下	1	0	0	1
25歳以上34歳以下	94	13	0	107
35歳以上44歳以下	267	28	0	295
45歳以上54歳以下	335	25	0	360
55歳以上64歳以下	211	19	0	230
65歳以上	38	4	0	42
不明	1	0	3	4
合計	947	89	3	1039

※5月以降に出生の方は、誕生日前として集計した。

※「出生月」に記入が無くても、出生年に記入があれば、集計に含めた。

問3 回答者の出生地

	男性	女性	有効回答総数
日本			
北海道	43	5	48
青森県	6	1	7
岩手県	8	1	9
宮城県	15	0	15
秋田県	7	0	7
山形県	8	0	8
福島県	6	1	7
茨城県	8	3	11
栃木県	6	0	6
群馬県	11	2	13
埼玉県	25	2	27
千葉県	20	4	24
東京都	133	8	141
神奈川県	36	4	40
新潟県	17	4	21
富山県	11	0	11
石川県	16	1	17
福井県	7	0	7

山梨県	8	1	9
長野県	17	3	20
岐阜県	23	1	24
静岡県	29	3	32
愛知県	61	4	65
三重県	16	0	16
滋賀県	9	0	9
京都府	33	0	33
大阪府	69	8	77
兵庫県	60	4	64
奈良県	10	0	10
和歌山県	11	0	11
鳥取県	9	0	9
島根県	4	0	4
岡山県	21	2	23
広島県	24	3	27
山口県	14	2	16
徳島県	6	2	8
香川県	4	1	5
愛媛県	14	0	14
高知県	9	1	10
福岡県	38	7	45
佐賀県	9	0	9
長崎県	10	1	11
熊本県	8	3	11
大分県	10	2	12
宮崎県	3	2	5
鹿児島県	20	0	20
沖縄県	1	1	2
不明	8	2	10
小計	941	89	1030
海外			
東南アジア	4	0	4
中国	4	0	4
西アジア	0	0	0
中近東	0	0	0
アフリカ	0	0	0
西ヨーロッパ	0	0	0
東ヨーロッパ	0	0	0
北米及び中米	0	0	0
南米	0	0	0
大洋州	0	0	0
その他	2	0	2
無国籍(不明等)	2	0	2
小計	6	0	6

問4 回答者の国籍

	男性	女性	有効回答総数
日本	932	86	1018
韓国(・朝鮮)	1	1	2
中国	2	0	2
その他(無記入、不明含)	12	2	14
小計	947	89	1036

問5 子どもの有無・数

回答者の子供の有無	有	無	無回答	回答総数
	788	246	2	1036

人数(回答数)	5歳以下	6歳から18歳	19歳以上
	172	385	397

人数(合計値)	5歳以下	6歳から18歳	19歳以上
	222	616	758

問6 現在の仕事について

問6. 1

回答者の現在の勤務場所

勤務場所

	日本	海外	無回答	有効回答総数
男性	942	2	0	944
女性	89	0	0	89
合計	1031	2	3	1036

問6. 2

セクター別

※複数回答有

	民間企業	非営利団体・その	公的機関	大学等	有効回答総数
男性 [N=945]	491	28	158	268	945
女性 [N=89]	18	6	22	43	89
合計 [N=1034]	509	34	180	311	1034

問6. 3

勤務年月

※複数回答有

	人数			割合[%]		
	男性 [N=912]	女性 [N=86]	合計 [N=998]	男性 [N=912]	女性 [N=86]	合計 [N=998]
1年未満	10	0	10	1.1	0.0	1.0
1年以上3年未満	83	10	93	9.1	11.6	9.3
3年以上5年未満	88	15	103	9.6	17.4	10.3
5年以上10年未満	191	29	220	20.9	33.7	22.0
10年以上	540	32	572	59.2	37.2	57.3
合計	912	86	998	100.0	100.0	100.0

問6. 4

勤務担当分野  
※複数回答有

分野	番号	詳細分野	男性	女性	有効回答 総数	総数
人文科学	1	文学	0	0	0	7
	2	その他	6	1	7	
社会科学	3	商学経済	3	0	3	9
	4	社会学	2	1	3	
	5	その他	2	1	3	
理学	6	数学物理	19	1	20	129
	7	化学	42	4	46	
	8	生物	42	9	51	
	9	地学	9	0	9	
工学	11	その他	3	0	3	543
	12	機械船舶 航空	119	0	119	
	13	電気通信	169	2	171	
	14	土木建築	63	2	65	
	15	材料	75	0	75	
農学	16	繊維	13	1	14	98
	17	その他	99		99	
	18	農林	37	5	42	
	19	獣医畜産	15	1	16	
保健	20	水産	9	0	9	249
	21	その他	27	4	31	
	22	医学歯学	133	16	149	
	23	薬学	27	6	33	
	24	その他	36	31	67	
合計			950	85	1035	1035

問6. 5～6. 6は自由記述のため省略

問6. 7

職務の任期

		任期有	任期無	無回答 ・不明	有効回答 総数
人数	男性 [N=947]	187	751	9	947
	女性 [N=89]	29	58	2	89
	合計 [N=1,036]	216	809	11	1036
割合	男性 [N=947]	19.7	79.3	1.0	
	女性 [N=89]	32.6	65.2	2.2	
	合計 [N=1,036]	20.8	78.1	1.1	

問6. 8

勤務形態

※複数回答有

		フルタイム	パートタイム	無回答 ・不明	有効回答 総数
人数	男性 [N=947]	925	18	4	947
	女性 [N=89]	86	2	1	89
	合計 [N=1,036]	1011	20	5	1036
割合	男性 [N=947]	97.7	1.9	0.4	
	女性 [N=89]	96.6	2.2	1.1	
	合計 [N=1,036]	97.6	1.9	0.5	



問6. 9

ポスドクですか？

	①はい		②いいえ	有効回答 総数
	③有	④無		
男性	1	9	889	899
女性	1	2	75	78
合計	2	11	964	977

問6. 10

2007年度  
の年収  
(見込・税込収入)

	平均 [万円]	回答ゼロ 以外の数
男性	897.7	921
女性	654.2	85
全体	876.8	1006

問7. 1(1) 学士取得状況

	男性 [N=947]	女性 [N=89]	合計 [N=1,036]
高校、短大、高専等	33	12	45
学士まで	185	15	200
修士まで	180	16	196
博士満期退学	12	0	12
博士(課程)	298	20	318
博士(論文)	233	26	259
不明	6	0	6
合計	947	89	1036

問7. 1(4) 博士号の専門分野別内訳(総務省「科学技術研究調査」の専門分野別内訳)

		男性	女性	有効回答 総数
人文科学	文学(文学、文芸学、言語学、外国語学、児童文学など)	0	0	0
	その他(史学、地理学、哲学、宗教学、心理学、人文学、文化学、図書館学、文化人類学、人間関係学、行動科学など)	2	2	4
社会科学	商学経済(商学、経済学、経営学、会計学、流通学、金融学、財政学、産業学、経営工学、経営情報学、経済情報学、経営システム学など)	0	0	0
	社会学(社会学、新聞学、広報学、社会福祉学、介護福祉学、観光学など)	0	0	0
	その他(法学、政治学、行政学、国際関係学、政策科学など)	1	1	2
理学	数学物理(数学、数理学、情報数理学、情報科学、計算科学、物理学、物性学、物質理学、天文学、宇宙物理学など)	16	1	17
	化学(化学、基礎化学、高分子学、生物応用化学など)	20	1	21
	生物(生物学、生化学、動物学、植物学、生物化学、生物資源学、生命科学、生体機構学、自然環境学など)	24	2	26
	地学(地質学、鉱物学、地球科学、地理学など)	6	0	6
	その他(海洋科学、経営理学など)	0	0	0
工学	機械船舶航空(機械工学、精密機械工学、交通機械工学、生産工学、機械情報工学、機械電子工学、機械制御工学、ロボティクス学、船舶工学、航空宇宙工学など)	51	0	51
	電気通信(電気工学、通信工学、電子工学、電子材料工学、電子物理工学、情報処理工学、ソフトウェア学、情報システム工学、電子制御システム工学、メディア通信工学、情報ネットワーク学、光システム工学など)	74	1	75
	土木建築(土木工学、建築工学、交通工学、都市工学、都市システム工学、建設都市工学、環境建設学、環境デザイン工学、環境計画学など)	19	1	20
	材料(鉱山学、資源工学、鉱山土木学、金属工学、金属材料学、機械材料学、材料機能学、材料加工学、材料工学、素材工学、材料プロセス工学など)	44	0	44
	繊維(繊維工学、繊維化学、繊維染料学、繊維機械学、有機材料工学、高分子材料工学など)	7	0	7
	その他(応用化学、応用物理学、写真工学、印刷工学、画像工学、音響設計学、原子力工学、エネルギー工学、経営工学、システムマネジメント工学、社会システム工学、福祉環境学、環境設計学、工芸学、工業デザイン学など)	48	0	48
	農学	農林(農学、園芸学、農業生物学、経営農学、農業生産学、植物防疫学、環境緑地学、林学、森林科学、植物資源学など)	21	2
獣医畜産(獣医学、畜産学、酪農学、畜産経営学、畜産食品工学、畜産生産科学、動物資源科学など)	7	0	7	
水産(水産学、漁業学、増殖学、水産養殖学、栽培漁業学、水産化学、水産食品学、海洋生物資源学など)	5	0	5	
その他(農芸化学、園芸化学、醸造学、食品化学、食品栄養学、農業工学、農業土木学、生産環境工学、環境保護学、環境資源科学、農林生産学、農業経済学、食品流通学など)	22	3	25	
保健	医学歯学(医学、歯学)	130	17	147
	薬学(薬学、薬剤学、衛生薬学、製薬学など)	19	5	24
	その他(看護学、保健衛生学、医療工学、臨床検査技術学、理学療法学、臨床心理学、栄養学、医療経営管理学など)	6	7	13
不明・無回答	13	3	16	
合計		535	46	581

問7. 1(6) 修士号・博士号を取得した国

修士号を取得した国	博士号を取得した国			合計
	日本	日本以外の国	不明・無回答	
日本	327	8	1	336
日本以外の国	8	2	2	12
不明・無回答	87	102	40	229
合計	422	112	43	577

問8 博士号取得のための期間における経済的支援・収入等

※複数回答有

	経済的支援の種類	主財源	副財源	該当なし	有効回答総数
1	大学独自の基金等による奨学金	8	11	480	499
2	大学の所在国の政府からの奨学金	77	41	421	539
3	大学の所在国の個人あるいは団体からの奨学金	60	62	401	523
4	大学の所在国以外の個人、団体、政府機関からの奨学金	3	8	481	492
5	配偶者・パートナー・家族の支援(大学の所在国から)	97	104	334	535
6	配偶者・パートナー・家族の支援(大学の所在国以外から)	0	4	491	495
7	雇用者からの奨学金または支援	32	29	443	504
8	TAの収入	3	52	443	498
9	RAの収入	6	21	466	493
10	仕事(フルタイム)の収入	296	13	243	552
11	仕事(パートタイム)の収入	57	137	349	543
12	ローンにより費用を充当	1	5	488	494
13	自分の貯蓄を充当	36	68	401	505
14	その他	12	6		18
15	不明	0	0	0	0

経済的支援の種類(その他特記事項)	主財源	副財源
社会人入学	1	
両親より	1	
親	1	
アルバイト	1	
看護学校等の講師		1
海外でのフェロー	1	
家庭教師のアルバイト		1
学振の給与より(DC2で当時採用)	1	
アルバイト	1	
両親	1	
日本学術振興会特別研究員 研究奨励金		1
セミナー等の講演料		1

問9 研究者という職業を選択した理由

※複数回答有

	研究者という職業を選択した理由	該当する	該当しない	無回答	有効回答総数
1	創造性が高く、イノベティブ	776	112	152	888
2	給料が高い	53	771	215	824
3	昇進の機会が多い	31	796	212	827
4	社会保険制度が充実している	80	740	219	820
5	雇用が安定している	202	624	213	826
6	仕事環境が良い	419	418	202	837
7	自由度が高い	658	204	177	862
8	社会への貢献	676	183	180	859
9	他に職業がなかった	76	749	214	825
10	論文等著作が出しやすい	212	613	214	825
11	キャリアの中で研究が必要とされている	294	545	200	839
12	その他	185			185

その他の理由	該当する
自分の能力が生かせる	1
専門学校→短期大学→大学において看護教育にあたって来たので、大学における教員の役割として 研究者としての機能を担うことになった。	3
自然科学への貢献	3
看護教員不足に応じて、社会貢献として従事している。	5
医局人事	3
たまたまポストが空いてさそわれた	0
医師として、一度は研究生活に入り難病に挑戦してみたかった。	0
新しい事柄の発見や真理の探究を通うじての感動など	7
特になし	3
結婚までと思い、近くの同じキャンパス内で就職。結婚し、出産直前主人が、癌で他界、母子家庭で生計のために、そのまま、仕事を続けました。	1
体育大学における、競技者および指導者育成のため	4
国際協力	8
好きだからというのが大きな理由です	3
教育・研究の教育に関心が高かった	2
日本には独創的な研究を(排除することはあっても支援)する環境がなかったため、まず環境整備のため、理系から文系に転向し、教育環境や新しい文化を創造する仕事に従事。現在も教育を仕事とし、論文を書くような研究は仕事の余暇に行っている。	4
たまたまなった。	5
大学の獣医学教育を行う上で、研究が必要であるため	0
気が付いたら、なっていた、というのが正直なところです。	4
偶然	0
研究がおもしろいから	2
元来が研究志望	5
国の土木技術系の行政官から、人事交流で土木系の独立行政法人へ出向となったため(希望しての異動では無い)。	0
研究がおもしろいと感じた、大学院修了時に研究職に就く機会を得た。	0
国家公務員として研究所に配置された。	0
研究がしたいから。	4
行政機関としての研究所に勤務しているので、あくまでも行政職であり研究者ではありません	0
奨学金の免除がある	3
人事異動	2
県職員なので異動により選択の余地なし	0

本市の研究所においては「研究者」の職制・採用はなく、「化学職」「薬剤師」として採用された者が、下水道、保健所、本庁公害専門、研究所に配属され、市役所内で3～5年毎に異動による配置換えが行われます。	0
社会通念の中で仕事をしている限り解雇される心配が無いから	4
人事異動による	0
配置換の一環	0
私自身の独創性を生かす為、最も良い方法が研究者でした。私が発見、発明した事項が多くの方に役立てば良いと思い、最先端研究機関にて研究者になる事にいたしました。	5
大学院進学にあたり、女性だということを理由に強い反対がありました。それに対する反発で研究者になったというのが1番強い理由です。上記はおまけのようなものです。	3
医療の中の1つの過程で	0
研究者ではありません。	0
行政職であり研究者ではありません。	0
家から近い	3
公的機関であり、人事異動による	1
人事異動により従事している	0
県職員となり人事異動で研究機関に配属された。	0
・県職員として人事交流異動 ・子育てしながら勤務できる時間の自由度	6
人事異動	0
転勤のため	7
県の人事異動によるもの	0
国内大学での研究は“研究のための研究”、会社ではドロクさいというイメージ	3
当社は研究職としての職制はない、設計業務の中でシステム開発、計測等の研究業務を兼任している。	0
少年時代から研究者になるのが夢であった。	9
研究活動が楽しいと感じていたから。	4
自己啓発	0
研究者という職業を選択したわけではなく技術者として、ある企業を就職先として選択。	1
なし	2
やりがいがあり、楽しいから	1
研究者という自覚がありません	0
研究者ではない	0
子供の頃から海の生き物が好きだったから	1
雇用先の判断(配属)	2
研究が好きだから	3
研究者ではない	0
自分がやりたいことができるから	4
会社より任命されている。任命後の感想として①該当するに相当する項目は次の通り。1, 7, 8, 10	0
会社に入社時研究に配属	3
新しいものを主み出すこと、アイデアを考えることが好きであるため。	6
企業に入社して研究所に配属された	1
職制により研究職を命じられている	0
好みと興味による。	0
鉄道会社内における研究職という性格上、自分自身で選択するというよりも個人の適性を会社が判断して、人事運用している。	4

現在、研究職ではない	0
私は研究者ではありません。	0
現在の職種は研究者ではありません	2
民間企業の研究開発、新製品開発職を希望していた	2
会社の人事による	0
会社の異動(強制)	0
会社の人事の一環として研究所に配属された。また、その際、希望として現職場(研究所)を希望した	2
難治性疾患の原因を究明し、社会に貢献したいと考えたから。	6
クリエイティブな仕事を好む	6
配属された部署が研究所であった。	0
社内の人事異動で研究部門に配属された。	0
メーカーに入社した処、研究開発部門に配属されたから。	3
研究することが好きだった。	1
会社の人事配置のため	0
自分に適性があると考えているため	3
やりがいがあるから。	4
ただ単に子供の頃から 理数系が好きで、将来は研究に携わる仕事がしたいと思っていた	2
子供の頃、オイルショックを経験し、将来の日本のために、資源系の研究者になりたかった。	1
化学が好きだから	6
有害物質の捕集・分析方法の開発と生体への有害性の調査が仕事であり、これらの仕事が好きである。	2
申し訳ありませんが、私は研究者ではありません。	0

問10. 1 大学等での教育経験の有無

教育経験あり	教育経験なし	有効回答数
383	611	994

問10. 2 教育期間

教育経験あり	383
無記入	6
3年未満	65
3年以上5年未満	40
5年以上10年未満	63
10年以上20年未満	98
20年以上	111
教育経験なし	611
有効回答数	994

問11 査読付論文数、特許申請数(過去2年)

査読付論文	平均(論文数)	有効回答数 (無記入除)
	6.09	913

特許申請	平均(特許数)	有効回答数 (無記入除)
	2.48	867

問12 ポスドクになった理由(ポスドク経験者のみ)

※複数回答有

	ポスドク選択の理由	該当する	該当しない	無回答	有効回答総数
1	博士課程で専攻した研究分野におけるさらなるトレーニング	71	40	928	111
2	博士課程で専攻した研究分野以外の分野におけるトレーニング	28	75	936	103
3	特定の大学や研究機関での研究、あるいは特定の研究者との研究	68	37	934	105
4	一般的に当該分野ではポスドクを経験することが期待されて	33	74	932	107
5	他に職が見つからなかった	34	69	936	103
6	その他	14			14

その他の理由	該当する
母校で助手に採用された直後、休職に米国イリノイ大学にリサーチアシスタントとして3年間留学、帰国直後に復職。	2
医局人事	4
留学の経験がその後役立つと考えた	2
研究分野での職として他に選択肢がなかったから	0
助手在職中 在外研究1974.10-1975.9英国 助手休職中 在外研究1975.10-1976.9米国 助手失職 日本学術振興会 研究員1976.10-1979.3日本	4
仕事を通じて博士を取得	0
担当教官の紹介先の1つとして、ポスドクあった。(ポスドク→正規雇用期待したが、ポスドク期間満了後、他の一般企業に	2

問13 海外で研究活動を行った理由

※複数回答有

	海外での研究実施の理由	該当する	該当しない	無回答	有効回答総数
1	海外で博士号の取得を目指した	13	211	815	224
2	日本で博士号を取得し、さらに研鑽した	130	100	809	230
3	ポストクが終了した	5	218	816	223
4	日本の機関での雇用契約が終了した	5	218	816	223
5	雇用機関から派遣された	136	100	803	236
6	ポストクの職が見つかった	48	176	815	224
7	ヘッドハンティングされた	10	215	814	225
8	さらに給与の高い職業が見つかった	1	221	816	222
9	論文等の成果を出しやすかった	78	150	811	228
10	研究のさらなる発展や継続が可能であった	178	64	797	242
11	日本には存在しない研究分野で仕事できた	111	121	807	232
12	自分自身の研究チームの構築が可能であった	16	208	815	224
13	新しい研究チームを作れる可能性があった	29	193	817	222
14	家族の事情があった	9	214	816	223
15	経済的な理由があった	3	220	816	223
16	その他	45			45

その他の理由	該当する
インターンシップ	0
交換留学生制度(博士後期課程)	0
在外研究	0
国際交流	9
企業時代会社から派遣(大学ではJSPSの制度により派遣)	2
勤務先の大学から出張として、勉強のために留学をした。	0
日本の大学での雑務から解放され、研究に専念する時間がもてた	2
在外研究員乙種をしましたが、滞在中の給与は米国の大学から出ました。向うでの職はポストクです。助教授に昇任しからのため、1年間しか、認められませんでした	5
海外で修士号(Master of Public Health, MPH)の取得を目指した	6
会社を辞してポストクに就いた	3
・国際共同研究の実施の為(研究対象が現地のみが存在していたので)・以上をきっかけに研究助手として雇用され、かつ自身の研究テーマを発展できた為	2
研究主流を学ぶため	3
1993-1994. スタンフォード大学、客員研究員(文部省在外研究員) 1996-1993. パリ第6大学 客員教授	3
先輩が米留でPh.Dを取得	3
客員教授として短期滞在(英リーズ大学)	3
企業内制度	4
国際協力(JICA)の専門家で指導・研究	0



問14 海外で研究活動を休止(中止)し日本に帰国した理由

※複数回答有

	海外での研究活動中止の理由	該当する	該当しない	無回答	有効回答総数
1	日本で博士号を取得するため	5	179	855	184
2	海外で博士号を取得し終わった	8	176	855	184
3	ポストクの契約が終了した	39	149	851	188
4	雇用期間が終了した	51	140	848	191
5	雇用機関から派遣された	73	116	850	189
6	ポストクの職が見つかった	6	179	854	185
7	ヘッドハンティングされた	11	172	856	183
8	さらに給与の高い職業が見つかった	10	174	855	184
9	日本のほうがポストを見つけやすかった	22	164	853	186
10	論文等の成果を出しやすかった	2	182	855	184
11	研究のさらなる発展や継続が可能であった	53	132	854	185
12	海外には存在しない研究分野で仕事できた	9	175	855	184
13	自分自身の研究チームの構築が可能であった	39	149	851	188
14	新しい研究チームを作れる可能性があった	31	153	855	184
15	家族の事情があった	42	146	852	188
16	経済的あるいは政治的な理由があった	35	149	855	184
17	その他	22			22

その他の理由	該当する
期間が終了したため	1
派遣期間が終了した	1
当初より期間が定まっていた	1
中止はしていない、該当なし	1
在外研究の終了	1
派遣期間終了	1
留学期間の終了のため	1
日本の勤務先の大学を退職して外国に行ったので、退職期間が終わると、帰国し、復職する必要があった。	1
日本から派遣されて海外留学したが、帰国の指示が出た。	1
米国に残る予定であったが、大学院時代の恩師が独立されてstaffを必要としていたため帰国した	1
日本の大学の職に公募して採用された	1
日本での研究生生活を望んだため	1
派遣期間も終了	1
短期間の勉強で、私費での滞在であったので(1か月程度)	1
当初から予定していた期間を終了して帰国していますので上の(5)にも該当しないかもしれません。	1
在外研究期間の終了	1
帰国時(1976.10.1)X線領域の新光源計画があり予算化され計画が実行される期待感があった。	1
近々退職(定年)する人の補充が約束されていなかったため、海外に人が行っていると、人手が不足しているのではという補充のための理由づけができなくなるので帰国するよういわれました。留学先では延長するためにお金を用意してくれる準備があったのですが断わらざるを得ませんでした。	1
勤務先の留学制度を利用しているので帰国は絶対の条件(税金を使って留学したのだから帰国してその成果を反映すべきは当然)	1
派遣期間の終了による。	1
雇用機関からの派遣期間が終了した。	1
JICAの任期終了	1

問15. 1 海外での研究活動予定

予定している	予定していない	無回答	有効回答数
21	996	19	1036

問15. 2 海外での研究活動滞在予定期

滞在予定期間	人数
3ヵ月以内	3
半年以内	3
1年以内	5
1年以上3年未満	5
5年以上	3
不明	2
総数	21

問16 日本から離れて海外で研究活動を行う理由(問15. 1で”はい”を選択したもの)

※複数回答有

海外で研究を予定する理由	該当する	該当しない	無回答	有効回答総数
1 海外で博士号を取得する	1	20	0	21
2 日本で博士号を取得し、さらに研鑽を積む	6	15	0	21
3 ポスドクが終了する	0	21	0	21
4 雇用期間が終了する	3	18	0	21
5 雇用機関から派遣される	8	13	0	21
6 ポスドクの職が見つかった	1	20	0	21
7 ヘッドハンティングされた	5	16	0	21
8 さらに給与の高い職業が見つかった	2	19	0	21
9 海外の方が職を見つけやすい	2	19	0	21
10 論文等の研究成果を出しやすい	7	14	0	21
11 研究のさらなる発展や継続が可能	17	4	0	21
12 日本には存在しない研究分野で仕事ができる	9	12	0	21
13 自分自身の研究チームの構築が可能	3	18	0	21
14 新しい研究チームを作れる可能性	9	12	0	21
15 家族の事情がある	0	21	0	21
16 経済的理由のため	0	21	0	21
17 その他	1			1

その他の理由	該当する
1) 発展途上国に技術指導。2) 有害性の高い環境があり、生体影響と有害曝露の関係を明らかにする。3) 予防対策の指導。	1

問17-1 異動回数

	男性	女性	合計
0回	329	22	351
1回	346	23	369
2回	117	21	138
3回	71	8	79
4回	43	7	50
5回	18	7	25
6回	11	1	12
7回	6	0	6
8回	4	0	4
9回	2	0	2
10回以上	0	0	0
合計人数	947	89	1036
移動回数合計	1213	158	1371
平均移動回数	1.28	1.78	1.32

問17-2 海外勤務経験

	男性	女性	合計	
海外勤務経験あり	総数	97	13	110
	民間企業	16	2	18
	非営利団体・その他	3	1	4
	公的機関	17	1	18
	大学等	60	9	69
	不明・無効	1	0	1
海外勤務経験なし	850	76	926	
回答者総数	947	89	1036	

海外勤務国	回数
東南アジア	4
香港	1
韓国(・朝鮮)	1
中国	2
西アジア	1
ネパール	1
中近東	0
アフリカ	0
西ヨーロッパ	20
スウェーデン	2
イギリス	6
ベルギー	1
ドイツ	6
フランス	4
スイス	1
東ヨーロッパ	0
北米及び中米	67
カナダ	5
アメリカ	60
メキシコ	2
南米	0
大洋州	0
その他	33
無国籍(不明等)	33

問17-3 国内外のセクター間異動

国内での移動		移動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
移動元	民間企業	275	9	23	43	350
	非営利団体・その他	4	15	10	22	51
	公的研究機関	12	9	145	53	219
	大学等	17	16	41	200	274
合計		308	49	219	318	894

国内→海外への移動		移動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
移動元	民間企業	6	0	3	5	14
	非営利団体・その他	0	0	1	0	1
	公的研究機関	0	1	3	6	10
	大学等	1	1	6	21	29
合計		7	2	13	32	54

海外→国内への移動		移動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
移動元	民間企業	2	0	0	0	2
	非営利団体・その他	1	0	2	3	6
	公的研究機関	2	0	1	9	12
	大学等	4	0	5	32	41
合計		9	0	8	44	61

海外での移動		移動先				合計
		民間企業	非営利団体・その他	公的研究機関	大学等	
移動元	民間企業	0	0	0	0	0
	非営利団体・その他	0	0	0	0	0
	公的研究機関	0	0	0	1	1
	大学等	1	0	1	2	4
合計		1	0	1	3	5

問18 日本人研究者の流動性は5年前に比べて

	5	4	3	2	1	0	総数
	極めて増加し	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少し	わからない	
人数	56	523	182	29	9	240	1039
平均値	3.74						

問19 日本における流動性の先進諸国との比較

	5	4	3	2	1	0	総数
	極めて高い	やや高い	同等である	やや低い	極めて低い	わからない	
国内機関間	3	45	107	423	254	207	1039
平均値	1.94						
国内から海外	8	91	126	333	229	252	1039
平均値	1.71						
海外から国内	2	55	114	286	322	260	1039
平均値	1.88						

問21 国内から海外への流動性が低い理由

	1	2	3	4	5	0	総数	平均値(わからないを除く)
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない		
日本の方が海外よりも研究レベルが高い	10	82	188	213	54	15	562	3.40
日本の方が研究施設や研究設備が充実している	7	97	177	215	43	23	562	3.35
日本の方がポストをみつけやすい	36	234	99	127	35	31	562	2.79
日本の方が研究資金が潤沢である	9	42	167	242	73	29	562	3.62
日本の方が生活環境がよい	67	302	113	56	8	16	562	2.33
日本の方が給与水準がよい	12	113	199	145	30	63	562	3.13
他の先進国と距離的に離れている	66	270	116	65	24	21	562	2.46
海外へ移籍した後、日本に帰ってくるポストがあるか不安	188	292	34	21	4	23	562	1.82
海外の研究機関に移籍するためのコネクションがない	88	323	86	38	10	17	562	2.20
海外へ出ることのデメリットの方が大きいので日本で研究していれば十分	49	228	129	102	27	27	562	2.68
優秀な研究者は所属機関が手放さない	30	188	160	107	29	48	562	2.85

問22 海外から国内への流動性が低い理由

	1	2	3	4	5	0		
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
海外の方が研究レベルが高い	58	246	191	74	9	30	608	2.53
海外の方が研究施設や研究設備が充実している	76	254	166	72	3	37	608	2.43
海外の方がポストを見つけやすい	90	277	124	59	3	55	608	2.29
海外の方が研究資金が潤沢である	77	278	159	44	2	48	608	2.32
海外の方が生活環境がよい	30	166	229	119	10	54	608	2.84
海外の方が給与水準がよい	47	165	222	83	10	81	608	2.70
他の先進国と地理的に離れている	64	275	128	75	26	40	608	2.52
日本の生活習慣や文化的な違いになじめない	110	303	92	48	15	40	608	2.21
日本ではこどもの教育に不安がある	73	244	124	68	23	76	608	2.47
日本では配偶者の就業場所を見つけることが困難	94	292	106	45	7	64	608	2.21
入国手続きや滞在手続きなど事務作業が煩雑	70	225	149	51	20	93	608	2.47
日本の生活費が高く暮らしにくい	96	307	111	48	10	36	608	2.24
外国人が日本でポストを見つけることが困難	190	318	43	18	3	36	608	1.82

問23 流動性増加のメリット

	1	2	3	4	5	0		
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
所属機関は優れた人材を確保できる	189	573	148	69	5	55	1039	2.11
所属機関は人材のやる気を引き出せる	129	480	246	100	20	64	1039	2.39
所属機関は新しい研究領域を開拓できる	237	603	108	40	4	47	1039	1.96
所属機関は新しい文化を取り入れられる	216	568	128	56	9	62	1039	2.05
所属機関は論文等の業績が少ない研究者等の転出を促せる	93	343	274	170	34	124	1038	2.69
流動性は研究者本人のキャリアアップにつながる	169	521	181	83	9	76	1039	2.21
研究者の給与が上がる	36	165	435	188	60	155	1039	3.08
研究者の研究能力が高まる	135	521	227	68	15	73	1039	2.28
周囲の研究者に対して刺激を与えることによって、彼らの研究能力が高まる	162	615	146	44	12	60	1039	2.11
研究者が異分野との研究者と交流できる	217	609	118	40	10	45	1039	2.01
研究者が新しい研究領域を開拓できる	185	563	177	48	6	60	1039	2.11
研究者本人が新しい文化を取り入れられる	165	600	160	49	5	60	1039	2.11
周囲の研究者が新しい文化を取り入れられる	128	599	181	53	4	74	1039	2.18

問24 流動性増加のデメリット

	1	2	3	4	5	0		
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
所属機関は優れた人材を失いやすくなる	150	581	154	79	21	54	1039	3.77
所属機関のノウハウが流出しやすくなる	220	499	160	87	19	54	1039	3.83
長期の研究計画の設定が困難になる	194	513	187	88	14	43	1039	3.79
研究テーマの継続性が失われやすくなる	152	482	228	106	15	55	1038	3.66
業績主義が強くなるので、研究テーマが制約され、独創性が発揮できなくなる	140	368	268	159	34	70	1039	3.43
長期的な基礎研究の実施が難しくなる	197	450	199	126	16	51	1039	3.69
異動によって研究者の収入が減る	25	128	496	174	32	184	1039	2.93
研究者が退職金で不利になる	130	343	255	96	14	201	1039	3.57
研究者が年金や保険の面で不利になる	103	314	292	94	22	214	1039	3.46
研究者が昇任の面で不利になる	43	212	387	194	36	167	1039	3.04
日本の研究レベルが低下する	25	102	336	324	122	130	1039	2.54

問25 日本人研究者の流動性は5年前に比べて

	5	4	3	2	1	0		
	極めて増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少した	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
日本人研究者の海外への転出は5年前に比べて	20	342	296	50	3	328	1039	3.46

問26 外国へ転出する理由

	1	2	3	4	5	0		
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
海外の方が日本よりも研究レベルが高い	119	539	253	56	3	69	1039	3.74
海外の著名な研究者の下で研究ができる	254	623	78	20	1	63	1039	4.14
研究施設や研究設備が日本より充実している	149	473	262	67	3	85	1039	3.73
日本に比べ海外には多くのポストが見つかる	68	318	350	104	16	183	1039	3.37
日本に比べ研究費が潤沢で研究に専念できる	116	395	304	65	6	153	1039	3.62
海外の方が日本よりも研究環境がよい	45	190	433	208	28	135	1039	3.02
海外の方が日本よりも給与水準が高い	46	225	391	154	13	210	1039	3.17
海外では、研究成果と能力に応じて昇進できるシステムがある	106	486	196	42	3	206	1039	3.78
専門分野の研究能力とあわせ、コミュニケーションや議論のための語学能力を高めることができる	223	583	128	37	6	62	1039	4.00
キャリアアップにつながる	218	632	111	15	2	61	1039	4.07
研究対象が現地に存在している	87	346	321	84	21	180	1039	3.46
海外でキャリアを積むことが日本の研究者コミュニティで評価される	166	484	215	65	14	95	1039	3.77

問28 日本滞在外国人研究者の増加

	5	4	3	2	1	0		
	極めて増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少した	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
日本に滞在する外国人研究者は5年前に比べて	27	373	329	30	1	279	1039	3.52



問29 外国人の日本在籍理由

	1	2	3	4	5	総数	平均値(わからないを除く)
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない		
対象となる研究分野で日本のレベルが高い	42	286	51	14	2	395	3.90
著名な研究者の下で研究できる	23	169	146	42	2	382	3.45
研究施設や研究設備が充実している	22	228	118	22	3	393	3.62
外国人研究者の受け入れ制度が充実している	9	132	161	78	8	388	3.15
日本は研究費が潤沢で研究に専念できる	6	73	194	84	16	373	2.92
日本は治安がよく生活しやすい	67	258	51	14	1	391	3.96
日本の方が給与が高い	41	153	135	33	4	366	3.55
日本の大学や研究機関に適当なポストがある	5	115	164	73	15	372	3.06
能力に応じて昇進できるシステムがある	0	22	170	137	39	368	2.48
日本の人事評価が公平である	1	18	160	143	46	368	2.41
外国にポストがなく、仕方なく日本に来ている	28	120	116	63	14	341	3.25

問30 外国人の日本から離れる理由

	1	2	3	4	5	0		
	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない	総数	平均値(わからないを除く)
出身国や他国で満足できるポストを獲得	154	217	15	1	1	7	395	4.35
出身国や他国の研究機関や研究者による招聘	102	236	37	7	1	12	395	4.13
当初より他国での研究活動を希望	41	216	91	15	1	31	395	3.77
他国の研究施設・研究設備の充実	25	159	140	32	2	37	395	3.48
研究活動で日本語を使わなければならない	38	147	120	61	8	21	395	3.39
研究業務の事務手続きが煩雑で煩わしい	42	148	110	47	5	43	395	3.50
任期付雇用契約のため将来が不安	72	207	64	25	2	25	395	3.87
競争的資金の獲得が困難	48	172	114	22	5	34	395	3.65
日本の生活習慣になじめない	37	176	111	36	6	29	395	3.55
日本ではこどもの教育面で不安がある	45	164	97	38	4	47	395	3.60
配偶者の就業場所を見つけるのが困難	46	195	73	30	2	49	395	3.73
日本人との人間関係を構築するのが困難	20	142	134	61	6	32	395	3.30
滞在許可等の事務手続きが煩雑	35	152	100	34	7	67	395	3.53
生活費が高く暮らしにくい	50	235	69	20	2	19	395	3.83
日本では希望するポストに就くことが困難	72	226	60	9	2	26	395	3.97
外国人に対する人事評価制度が適切でない	50	149	117	25	3	51	395	3.63
もともと一時的な計画での来日だった	118	187	59	4	0	27	395	4.14

## 参考資料 2. 調査票手引き

<記入要領>

# 我が国の科学技術人材の流動性調査

## 調査票記入上のお願ひ

平成20年2月

文部科学省 科学技術・学術政策局

文部科学省 科学技術政策研究所

調査票に記入する前に必ずお読みください。

**「我が国の科学技術人材の流動性調査」**

**調査票記入上のお願い**

文部科学省  
科学技術・学術政策局 調査調整課  
科学技術政策研究所

ご回答される皆様へ

この調査は、「科学技術人材の流動性」について研究者の方々のご意見等を伺うことを目的に実施するものです。

個人情報の保護に十分配慮するため、調査票は無記名です。

「調査票」に記入していただいた内容は、調査目的以外に使われることは決してなく、統計的に集計した結果のみを公表いたしますので、ありのままを記入して下さるようご協力をお願いします。

この「調査票記入上のお願い」を参照の上、必要な事項を記入して、お手数ですが、

**平成20年3月21日(金)までに**

同封の返信用封筒に入れて投函してください。切手は不要です。

調査票の送付先は、返信用封筒に以下のように印刷されています。

〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号  
文部科学省 科学技術・学術政策局 調査調整課

○ 調査対象者の選び方について

日本には研究者の氏名、専門分野等を網羅的にカバーするデータベースがありませんので、実際に研究活動に携わっている研究者個人を把握することが非常に困難な状況にあります。

そこで、この調査では独立行政法人科学技術振興機構(JST)が提供する研究論文データベース「JSTPlus」に登録された学術論文の著者の方々に着目いたしました。

**2005年度中にJSTPlusに登録された論文を対象として、多数の論文の中から無作為に選んだ論文の第1著者を現在第一線で研究活動を進めている研究者と位置づけ、研究者2000名を選びました。**

また、2000名の研究者の方々は、日本のセクター別の研究者の構成比である、民間企業50%、大学等30%、公的研究機関15%、その他の機関5%の割合と一致するように選びました。

○ 調査結果の取り扱いについて

調査結果は、統計的な集計を行った上で、日本の科学技術・学術振興施策の企画と実施のための基礎資料として活用します。併せて、経済協力開発機構(OECD)の科学技術指標専門家会合においても報告します。また、ご回答いただいた皆様に調査報告冊子をお送りいたします。

○ この調査についての問い合わせは、お手数ですが、下記の担当者までお願いいたします。

この調査全般に関することは、

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
文部科学省 科学技術・学術政策局 調査調整課  
担当： 柿崎 文彦(かきざき・ふみひこ)  
電話： 03-6734-4013(直通)  
FAX： 03-6734-4175  
Email： kakizaki@mext.go.jp

調査項目の内容に関することは、

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2  
文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ  
担当： 治部 真理(じぶ・まり)  
電話： 03-3581-2395(直通)  
FAX： 03-5220-1252  
Email： [jibu@nistep.go.jp](mailto:jibu@nistep.go.jp)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2  
文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ  
担当： 中務 貴之(なかつかさ・たかゆき)  
電話： 03-3581-2395(直通)  
FAX： 03-5220-1252  
Email： [ttsukasa@nistep.go.jp](mailto:ttsukasa@nistep.go.jp)

## 用語の定義

この調査で、「研究」に関連する用語の定義は、総務省統計局が毎年実施する指定統計調査「科学技術研究調査」と同一のものであります。以下、この調査との関連性が高いものについて説明いたします。

### ○「研究」について

この調査における研究とは、事物、機能、現象などについて新知識を得るために、または既存の知識の新しい活用の道を開くために行なわれる創造的な努力及び探求をいいます。

また、学術的な研究だけでなく、製品開発、既存製品の改良及び生産・製造工程の開発や改良に関する活動も「研究」に含まれます。ただし、営業や管理を目的とした活動は、社内で研究と呼ばれていても、この調査という研究には該当しません。

なお、この調査では自然科学だけでなく、人文・社会科学の研究活動も調査の対象に含まれます。

#### 研究とするもの(例)

- 学術的な真理の探究、思索及びこれに伴う文献調査等
- 基盤技術の研究開発
- 新製品の開発
- 既存の製品の強化、改良(本質的な機能強化を伴わない「不具合の修正」は除く)
- 製品の特性を明らかにする試験研究
- 新しい製造法・処理法の開発
- 新しい材料の探求・開発
- リスク評価のための「金融数学」や「金融工学」に関する研究
- 顧客データの新たな評価手法の開発
- ソフトウェア開発(科学・技術の発展に寄与する可能性のあるもの。ドキュメント作成、ユーザーサポート、デジタルコンテンツなどは含まれません。)

#### 研究としないもの(例)

- マーケティング調査、消費者アンケートなど営業活動を目的とした調査・分析
- 財務分析、在庫管理など、経営管理を目的とした調査・分析
- QC活動、ISO9001(品質管理)、ISO14001(環境管理)などを目的とした調査・分析
- 政策立案の一環として行なわれる調査・分析(学術的な行政研究・政策研究は「研究」です。)
- 特許の出願及び訴訟に関する事務手続き
- 一般を対象とした研修・訓練等の業務、など

### ○「研究者」について

研究者とは、研究活動に従事する者のうち、大学(短期大学を除く)の課程を修了した者、またはこれと同等以上の専門的知識を有する者で、特定の研究テーマを持って研究を行っている者(外部に本務を持つ研究者(兼務者)を除く)をいいます。



ここで、「これと同等以上の専門的知識を有する者」とは、高等専門学校、工業高校、短期大学等の卒業  
者で、大学卒業者と同等以上の専門知識を有し、大学卒業者と変わらない業務を行っている者をいいます。  
研究者にはポストドクター（ポstdク）も含まれます。

ポストドクターとは、博士の学位を取得後、助手等の職に就いていない者で、大学、公的機関等で研究を  
行っている者をいいます。（給与やフェローシップの有無は問いません。）博士課程に標準修業年限以上在  
学し、所定の単位を修得の上退学したもの（いわゆる「満期退学者」）を含みます。

## ○「セクター」について

### (1) 民間企業とは、

株式会社（日本たばこ産業株式会社、日本電信電話株式会社、高速道路株式会社などの特殊法人で  
ある会社も含みます）、有限会社、合名会社、合資会社、合同会社、相互会社及び個人で経営する形  
態の企業をいいます。

### (2) 非営利団体とは、

財団法人、社団法人、特定非営利活動法人（NPO）、宗教法人、医療法人、社会福祉法人、生活協同  
組合、農業協同組合、事業協同組合、技術研究組合、及び労働組合、並びに後援会、同窓会をいま  
す。

### (3) 公的機関とは、

国・公立の研究機関（研究所、研究センター、病院付属研究所、試験場、検査場、教育センター、科学  
センター、技術センター、環境センター、森林センター、海洋センターなど）のほか、独立行政法人や特  
殊法人の研究所、及び公庫・公団等をいいます。

### (4) 大学等とは、

国公立の大学（大学院研究科、大学付属病院、付属研究施設を含みます）、短期大学、高等専門学  
校、大学共同利用機関、独立行政法人国立高等専門学校機構、及び学校法人が経営する研究所をい  
います。

(調査票への記入方法)

1. あなたの性別は？  ①男性  ②女性
2. あなたの生年月日は？ ① 1965 年(西暦) ② 01 月  
西暦で記入してください。
3. あなたの出生地はどこですか？ ①国名( 日本 ) ②県名( 岡山 )  
出生地が日本の方は、国名に「日本」、県名には都道府県を記入してください。  
それ以外の方は、別表1の「国名コード一覧表」から選択し、番号を記入してください。
4. あなたの国籍を書いてください。 ①( A16(国名コード) )  
日本の方は「日本」と記入してください。それ以外の方は「国名コード一覧表」を参照して番号を記入してください。
5. お子様はいらっしゃいますか？ ①  有 (有の場合は③～⑤に記入してください。) ②  無  
③ 5歳以下( 1 )人 ④ 6歳から18歳( 0 )人 ⑤ 19歳以上( 0 )人
6. 現在のお仕事についてお伺いします。 **該当箇所をチェックとご記入をお願いします。**

1. 現在の勤務場所	<input type="checkbox"/> ①日本国内 <input type="checkbox"/> ②海外
2. 勤務先はどのセクターですか？	<input type="checkbox"/> ①民間企業 <input type="checkbox"/> ②非営利団体 <input checked="" type="checkbox"/> ③公的機関 <input type="checkbox"/> ④大学等 <input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3. いつから勤務していますか？	① <u>2000</u> 年② <u>04</u> 月 <u>現在の勤務先に着任した年月を記入してください。</u> また、現在の勤務先に学生等(所属先から給与を受けていない状態)から引き続いてスタッフとして採用された場合には、採用された年月を記入してください。
4. 分野(分野コードを参照)	① <u>8</u>
5. 仕事の内容(簡潔にご記入下さい。)	ライフサイエンスの研究に従事
6. 職階(簡潔にご記入下さい)	研究員
7. 職務の任期	<input checked="" type="checkbox"/> ①有 <input type="checkbox"/> ②無 <u>現在の職務が、任期付かパーマメント雇用かについて伺っています。</u>
8. 勤務形態	<input checked="" type="checkbox"/> ①フルタイム <input type="checkbox"/> ②パートタイム
9. ポスドクですか？	<input checked="" type="checkbox"/> ①はい <input type="checkbox"/> ②いいえ フェローシップ <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10. 2007年の年収(税込・見込収入)	約 ①( <u>500</u> )万円 <u>(注)年収とは、主たる雇用者から受け取る給与・賞与をいいます。一時所得や副業収入は含めないで下さい。また、年収はおよその金額を記入していただければ結構です。</u>



問7. 1. 取得した学位についてお伺いします。

分野については、「研究者専門別内訳の内容例示」より番号を選択します。

国名については、別表1の「国名コード一覧表」より番号を回答してください。日本の場合のみ「日本」と回答してください。

また、学位は取得した順に記入してください。

	学士	修士	博士
1. 該当学位をお持ちですか？	<input type="checkbox"/> ⑥はい <input type="checkbox"/> ⑦いいえ	<input type="checkbox"/> ④はい <input type="checkbox"/> ⑤いいえ	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士 <input type="checkbox"/> ③持っていない
2. 入学した年月	① _____ 1985年 ② _____ 4月	③ _____ 1989年 ④ _____ 4月	⑤ _____ 1992年 ⑥ _____ 10月
3. 1 卒業(修了)あるいは博士課程を満期退学した年(西暦)月	① _____ 1989年 ② _____ 3月	③ _____ 1992年 ④ _____ 3月	⑤ _____ 1995年 ⑥ _____ 9月
3. 2 学位を取得した年(西暦)月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月
卒業(修了)年月と学位取得年月が同じ場合は記入しなくて結構です。			
4. 分野(分野コードを参照)	① 17	② 8	③ 22
5. 学位を受けた大学の名称	① 岡山大学	② 京都大学	③ McGill 大学
6. 国名 (海外の場合は、国名コード)	① 日本	② 日本	③ G01

問7. 2 複数の博士号をお持ちの場合は下記の表にもご記入ください。

最初に博士号を取得した以降に、さらに博士号を取得された方は、順に記入してください。

	博士(1)	博士(2)	博士(3)
1. 該当学位をお持ちですか？	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士
2. 入学した年月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月
論文博士の場合は、以下の学位取得年月のみご記入下さい。			
3. 学位を取得した年(西暦)月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月
4. 分野(分野コードを参照)	① _____	① _____	① _____
5. 学位を受けた大学の名称	① _____	① _____	① _____
6. 国名 (海外の場合は、国名コード)	① _____	① _____	① _____

17. 1 キャリアパス(職歴)を直前の勤務先から遡ってご記入ください。なお、平均年収はおよその額をご記入下さい。

	1 (直前の勤務先)	2 (その前の勤務先)	3 (さらにその前)	4 (以下、過去へ)
場所 (海外の場合は国名コードを参照)	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内
	<input checked="" type="checkbox"/> ②海外 ③( G02 )	<input checked="" type="checkbox"/> ②海外 ③( G02 )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )
セクター別	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他
期間(西暦でご記入ください)	⑨ 1999年 ⑩ 04月から ⑪ 2000年 ⑫ 03月まで	⑨ 1996年 ⑩ 04月から ⑪ 1999年 ⑫ 03月まで	⑨ 年 ⑩ 月から ⑪ 年 ⑫ 月まで	⑨ 年 ⑩ 月から ⑪ 年 ⑫ 月まで
分野(分野コード参照)	⑬ 22	⑬ 13	⑬	⑬
仕事の内容	⑭ 研究	⑭ 研究	⑭	⑭
任期	<input checked="" type="checkbox"/> ⑮有 <input type="checkbox"/> ⑯無	<input checked="" type="checkbox"/> ⑮有 <input type="checkbox"/> ⑯無	<input type="checkbox"/> ⑮有 <input type="checkbox"/> ⑯無	<input type="checkbox"/> ⑮有 <input type="checkbox"/> ⑯無
フルタイムかパートタイムか	<input checked="" type="checkbox"/> ⑰フルタイム <input type="checkbox"/> ⑱パートタイム	<input checked="" type="checkbox"/> ⑰フルタイム <input type="checkbox"/> ⑱パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑰フルタイム <input type="checkbox"/> ⑱パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑰フルタイム <input type="checkbox"/> ⑱パートタイム
ポストドクでしたか?	<input type="checkbox"/> ⑲はい フェロースhip <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/> ⑲はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> ⑲はい フェロースhip <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> ⑲はい フェロースhip <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑳いいえ	<input type="checkbox"/> ⑳いいえ	<input type="checkbox"/> ⑳いいえ	<input type="checkbox"/> ⑳いいえ
年平均収入	21( 800)万円	21( 400 )万円	21( )万円	21( )万円

**(注意)異動回数が2回ですから、問17. 2と17. 3に記入する必要はありません。**

**問18に進みます。**

問18から30では「科学技術人材の流動性」についてご意見をお伺いします。

なお、すべての間について個人としてのご見解をお答え下さい。

設問内容についてご判断に迷うときは「0」(わからない)をお選び下さい。

18. あなたは、日本人研究者の流動性(国内の機関間、国内から海外、海外から国内のすべてを含みます)は、5年前に比べて向上していると思いますか？適切と思うものを一つ選び数字に丸印を付けてください。

(例)

(すべての方にお伺いします)	極めて増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少した	わからない
①日本人研究者の流動性は、5年前に比べて？	5	④	3	2	1	0

(中略)

23. あなたは、日本において研究者の流動性が増加すると、どのようなメリットがあると思いますか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

(例)

日本において研究者の流動性が増加したときのメリットは？	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①所属機関は優れた人材を獲得できる	5	④	3	2	1	0
②所属機関は人材のやる気を引き出せる	5	4	3	2	1	①
(以下、省略)	5	4	3	2	1	0

別表1：国名コード一覧表  
 (文部科学省「学校基本調査」と同じコードになっています。)

国名	コード	国名	コード	国名	コード
<b>東南アジア</b>		<b>中近東(続き)</b>		<b>アフリカ(続き)</b>	
ミャンマー	A06	サウジアラビア	C10	セーシェル	D32
タイ	A07	アフガニスタン	C11	トーゴ	D33
マレーシア	A08	アラブ首長国連邦	C12	モーリタニア	D34
シンガポール	A09	イエメン	C13	チャド	D35
インドネシア	A10	カタール	C14	ガンビア	D36
フィリピン	A11	パレスチナ	C15	中央アフリカ	D37
香港	A12	<b>アフリカ</b>		モザンビーク	D38
韓国(・朝鮮)	A13	エジプト	D01	エリトリア	D39
モンゴル	A14	スーダン	D02	ソマリア	D40
ベトナム	A15	リビア	D03	ボツワナ	D41
中国	A16	チュニジア	D04	ブルンジ	D42
カンボジア	A17	アルジェリア	D05	ジブチ	D43
ラオス	A19	マダガスカル	D06	コモロ	D44
ブルネイ	A20	ケニア	D07	レソト	D45
マカオ	A21	タンザニア	D08	赤道ギニア	D46
台湾	A22	コンゴ民主共和国	D09	ニジェール	D47
朝鮮	A23	ナイジェリア	D10	<b>西ヨーロッパ</b>	
東ティモール	A24	ガーナ	D11	アイスランド	E01
<b>西アジア</b>		リベリア	D12	フィンランド	E02
パキスタン	B01	ガボン	D13	スウェーデン	E03
インド	B02	コンゴ共和国	D14	ノルウェー	E04
ネパール	B03	カメルーン	D15	デンマーク	E05
バングラデシュ	B04	ザンビア	D16	アイルランド	E06
スリランカ	B05	コートジボワール	D17	イギリス	E07
ブータン	B18	モロッコ	D18	ベルギー	E08
バーレーン	B19	セネガル	D19	ルクセンブルク	E09
オマーン	B20	エチオピア	D20	オランダ	E10
モルディブ	B21	ギニア	D21	ドイツ	E11
<b>中近東</b>		ウガンダ	D22	フランス	E12
イラン	C01	南アフリカ	D23	スペイン	E13
トルコ	C02	ジンバブエ	D24	ポルトガル	E14
キプロス	C03	モーリシャス	D25	イタリア	E15
シリア	C04	マラウイ	D26	マルタ	E16
レバノン	C05	アンゴラ	D27	ギリシャ	E17
イスラエル	C06	マリ	D28	オーストリア	E18
ヨルダン	C07	ルワンダ	D29	スイス	E19
イラク	C08	シェラネオネ	D30	アンドラ	E21
クウェート	C09	ベナン	D31	リヒテンシュタイン	E22

東ヨーロッパ		南米(続き)		大洋州(続き)	
ポーランド	F21	キューバ	H06	サモア	J10
ハンガリー	F23	ドミニカ共和国	H07	ソロモン	J11
ルーマニア	F25	ホンジュラス	H18	マーシャル	J12
ブルガリア	F26	パナマ	H19	北マリアナ諸島(ロタ島)	J13
ロシア連邦	F27	バミューダ	H20	その他	
アルバニア	F28	ハイチ	H21	無国籍(不明等)	K99
ウクライナ	F29	トリニダード・トバゴ	H22		
エストニア	F30	ジャマイカ	H23		
ウズベキスタン	F31	ベリーズ	H24		
カザフスタン	F32	セントビンセント・グレナディーン諸島	H25		
チェコ	F33	バルバドス	H26		
スロバキア	F34	ドミニカ国	H27		
ラトビア	F35	南米			
クロアチア	F36	ブラジル	I08		
キルギス	F37	パラグアイ	I09		
リトアニア	F38	ウルグアイ	I10		
ベラルーシ	F39	アルゼンチン	I11		
トルクメニスタン	F40	チリ	I12		
グルジア	F41	ボリビア	I13		
アルメニア	F42	ペルー	I14		
スロベニア	F43	エクアドル	I15		
アゼルバイジャン	F44	コロンビア	I16		
マケドニア	F45	ベネズエラ	I17		
タジキスタン	F46	ガイアナ	I23		
モルドバ	F47	スリナム	I24		
ボスニア・ヘルツェゴビナ	F48	大洋州			
セルビア・モンテネグロ	F49	オーストラリア	J01		
北米及び中米		ニュージーランド	J02		
カナダ	G01	パプアニューギニア	J03		
アメリカ	G02	フィジー	J04		
メキシコ	H01	トンガ	J05		
グアテマラ	H02	バヌアツ	J06		
エルサルバドル	H03	パラオ	J07		
ニカラグア	H04	ミクロネシア	J08		
コスタリカ	H05	キリバス	J09		

別表2:分野コードと研究内容  
 (総務省「科学技術研究調査」と同じコードになっています。)

部門別	分野コード		研究内容例示
人文・社会科学部門	人文科学	1 文学	文学、文芸学、言語学、外国文学、児童文学など
		2 その他	史学、地理学、哲学、宗教学、心理学、人文学、文化学、図書館学、文化人類学、人間関係学、行動科学など
	社会科学	3 商学経済	商学、経済学、経営学、会計学、流通学、金融学、財政学、産業学、経営工学、経営情報学、経済情報学、経営システム学など
		4 社会学	社会学、新聞学、広報学、社会福祉学、介護福祉学、観光学など
		5 その他	法学、政治学、行政学、国際関係学、政策科学など
自然科学部門	理学	6 数学物理	数学、数理学、情報数理学、情報科学、計算科学、物理学、物性学、物質理学、天文学、宇宙物理学など
		7 化学	化学、基礎化学、高分子学、生物応用化学など
		8 生物	生物学、生化学、動物学、植物学、生物化学、生物資源学、生命科学、生体機構学、自然環境学など
		9 地学	地質学、鉱物学、地球科学、地理学など
		11 その他	海洋科学、経営理学など
	工学	12 機械船舶航空	機械工学、精密機械工学、交通機械工学、生産工学、機械情報工学、機械電子工学、機械制御工学、ロボティクス学、船舶工学、航空宇宙工学など
		13 電気通信	電気工学、通信工学、電子工学、電子材料工学、電子物理工学、情報処理工学、ソフトウェア学、情報システム工学、電子制御システム工学、メディア通信工学、情報ネットワーク学、光システム工学など

自然科学部門	工学	14	土木建築	土木工学、建築工学、交通工学、都市工学、都市システム工学、建設都市工学、環境建設学、環境デザイン工学、環境計画学など
		15	材料	鉱山学、資源工学、鉱山土木学、金属工学、金属材料学、機械材料工学、材料機能工学、材料加工学、材料工学、素材工学、材料プロセス工学など
		16	繊維	繊維工学、繊維化学、繊維染料学、繊維機械学、有機材料工学、高分子材料工学など
		17	その他	応用化学、応用物理学、写真工学、印刷工学、画像工学、音響設計学、原子力工学、エネルギー工学、経営工学、システムマネジメント工学、社会システム工学、福祉環境工学、環境設計学、工芸学、工業デザイン学など
	農学	18	農林	農学、園芸学、農業生物学、経営農学、農業生産学、植物防疫学、環境緑地学、林学、森林科学、植物資源学など
		19	獣医畜産	獣医学、畜産学、酪農学、畜産経営学、畜産食品工学、畜産生産科学、動物資源科学など
		20	水産	水産学、漁業学、増殖学、水産養殖学、栽培漁業学、水産化学、水産食品学、海洋生物資源学など
		21	その他	農芸化学、園芸化学、醸造学、食品化学、食品栄養学、農業工学、農業土木学、生産環境工学、環境保護学、環境資源科学、農林生産学、農業経済学、食品流通学など
	保健	22	医学歯学	医学、歯学
		23	薬学	薬学、薬剤学、衛生薬学、製薬学など
		24	その他	看護学、保健衛生学、医療工学、臨床検査技術学、理学療法学、臨床心理学、栄養学、医療経営管理学など

参考資料 3. 調査票

**我が国の科学技術人材の流動性調査**

**調査票**

平成20年2月

文部科学省 科学技術・学術政策局

文部科学省 科学技術政策研究所



## 我が国の科学技術人材の流動性調査

(秘)

文部科学省  
科学技術・学術政策局 調査調整課  
科学技術政策研究所

「調査票記入上のお願い」をご参照しご記入の上、お手数ですが、平成20年3月21(金)までに同封の返信用封筒に入れて返送してください。切手は不要です。

### 問1から問17では、ご記入者の研究経歴等について伺います。

- 問1. あなたの性別は？  ① 男性  ② 女性
- 問2. あなたの生年月月は？ ①\_\_\_\_\_年(西暦) ②\_\_\_\_\_月
- 問3. 出生地はどこですか？ ①国名( ) ②県名( )  
(海外の場合は、国名コードを参照してください。)
- 問4. あなたの国籍を書いてください。 ①( )  
(海外の場合は、国名コードを参照してください)
- 問5. お子様はいらっしゃいますか？  ① 有 (有の場合は③～⑤に記入してください。)  ② 無  
③ 5歳以下( )人 ④ 6歳から18歳( )人 ⑤ 19歳以上( )人

### 問6. 現在の仕事についてお伺いします。

1. 勤務場所	<input type="checkbox"/> ①日本国内 <input type="checkbox"/> ②海外
2. セクター別	<input type="checkbox"/> ①民間企業 <input type="checkbox"/> ②非営利団体 <input type="checkbox"/> ③公的機関 <input type="checkbox"/> ④大学等 <input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3. 現在の勤務先への着任時期	①_____年 ②_____月
4. 分野(分野コードを参照)	①
5. 仕事の内容(簡潔にご記入下さい。)	
6. 職階(簡潔にご記入下さい。)	
7. 職務の任期	<input type="checkbox"/> ①有 <input type="checkbox"/> ②無
8. 勤務形態	<input type="checkbox"/> ①フルタイム <input type="checkbox"/> ②パートタイム
9. ポスドクですか？	<input type="checkbox"/> ①はい <input type="checkbox"/> ②いいえ フェローシップ <input type="checkbox"/> ③有 <input type="checkbox"/> ④無
10. 2007年度の年収(見込・税込収入)	約 ①( )万円

(注) 年収は主たる雇用者からの給与等を記入してください。一時所得や副業収入は含みません。

問7.1 取得した学位についてお伺いします。

	学士	修士	博士
1. 該当学位をお持ちですか？	<input type="checkbox"/> ①はい <input type="checkbox"/> ②いいえ	<input type="checkbox"/> ③はい <input type="checkbox"/> ④いいえ	<input type="checkbox"/> ⑤課程博士 <input type="checkbox"/> ⑥論文博士 <input type="checkbox"/> ⑦持っていない
2. 入学した年月	① _____ 年 ② _____ 月	③ _____ 年 ④ _____ 月	⑤ _____ 年 ⑥ _____ 月
3.1 卒業(修了)あるいは博士課程を満期退学した年(西暦)月	① _____ 年 ② _____ 月	③ _____ 年 ④ _____ 月	⑤ _____ 年 ⑥ _____ 月
3.2 学位を取得した年(西暦)月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月
卒業(終了)年月と学位取得年月が同じ場合は記入しなくて結構です。			
4. 分野(分野コードを参照)	① _____	② _____	③ _____
5. 学位を受けた大学の名称	① _____	② _____	③ _____
6. 国名 (海外の場合は、国名コード)	① _____	② _____	③ _____

問7.2 複数の博士号をお持ちの場合は下記の表にもご記入ください。

	博士(1)	博士(2)	博士(3)
1. 該当学位をお持ちですか？	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士	<input type="checkbox"/> ①課程博士 <input type="checkbox"/> ②論文博士
2. 入学した年月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月
論文博士の場合は③学位取得年月のみご記入下さい。			
3. 学位を取得した年(西暦)月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月	① _____ 年 ② _____ 月
4. 分野(分野コードを参照)	① _____	① _____	① _____
5. 学位を受けた大学の名称	① _____	① _____	① _____
6. 国名 (海外の場合は、国名コード)	① _____	① _____	① _____

問8. あなたは博士号を取得するための研究を実施している期間にどのような経済的支援・収入等を受けましたか？それぞれの項目ごとに1つお選びください。

	経済的支援の種類	主財源	副財源	該当しない
1	大学独自の基金等による奨学金	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
2	大学の所在国の政府からの奨学金	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
3	大学の所在国の個人あるいは団体からの奨学金	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
4	大学の所在国以外の個人、団体、政府機関からの奨学金	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
5	配偶者・パートナー・家族の支援(大学の所在国から)	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
6	配偶者・パートナー・家族の支援(大学の所在国以外から)	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
7	雇用者からの奨学金または支援	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
8	TA(ティーチング・アシスタント)の収入	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
9	RA(リサーチ・アシスタント)の収入	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
10	仕事(フルタイム)の収入	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
11	仕事(パートタイム)の収入	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
12	ローンにより費用を充当	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
13	自分の貯蓄を充当	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
14	その他( )	① <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
15	不明・記憶が定かではない		④ <input type="checkbox"/>	

問9. 研究者という職業を選択した理由についてお答え下さい。

	研究者という職業を選択した理由	回答
1	創造性が高く、イノベティブ	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
2	給料が高い	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
3	昇進の機会が多い	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
4	社会保険制度が充実している	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
5	雇用が安定している	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
6	仕事環境が良い	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
7	自由度が高い	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
8	社会への貢献	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
9	他に職業がなかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
10	論文等著作が出しやすい	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
11	キャリアの中で研究が必要とされている	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
12	その他(具体的に記述してください。)	

問10. 1 セクターとしての大学等での教育経験はありますか(非常勤も含みます)？

(注)小学校、中学校、高等学校、あるいは進学教室や塾等での講師経験は除きます

①はい

②いいえ

問10. 2 (教育経験がある場合)教育経験の期間はどのくらいですか？

①( )年と②( )か月

問11. 過去2年において、査読つき雑誌に投稿し受理された論文の数、特許を申請した数をそれぞれお答えください。なお、研究者としての期間が2年に満たない場合は、研究者になってからの査読つき雑誌に投稿し受理された論文数及び特許申請数をお書きください。

①査読付き論文数( )編 ②特許申請数( )件

次の問12は、「ポストドク」の経験があると答えた方のみお答えください。それ以外の方は問13へ進んでください。

問12. ポストドクになった理由として、その理由に対する回答を○で囲んでください。

	ポストドクを選択した理由	回答
1	博士課程で専攻した研究分野におけるさらなるトレーニング	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
2	博士課程で専攻した研究分野以外の分野におけるトレーニング	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
3	特定の大学や研究機関での研究、あるいは特定の研究者との研究	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
4	一般的に当該分野ではポストドクを経験することが期待されている	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
5	他に職が見つからなかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
6	その他(具体的に記述してください。)	

以下の問13と14は、海外での研究経験がある方のみお答えください。それ以外の方は問15へ進んでください。

問13. もし、あなたが過去に日本を離れ、海外で研究活動を行ったことがある場合、その理由は何でしたか？

	日本を離れて海外で研究活動を行った理由	回答
1	海外で博士号の取得を目指した	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
2	日本で博士号を取得し、さらに研鑽した	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
3	ポストドクが終了した	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
4	日本の機関での雇用契約が終了した	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
5	雇用機関から派遣された	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
6	ポストドクの職が見つかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
7	ヘッドハンティングされた	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
8	さらに給与の高い職業が見つかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
9	論文等の成果を出しやすかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
10	研究のさらなる発展や継続が可能であった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
11	日本には存在しない研究分野で仕事ができる	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
12	自分自身の研究チームの構築が可能であった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
13	新しい研究チームを作れる可能性があった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
14	家族の事情があった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
15	経済的な理由があった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
16	その他(具体的に記述してください。)	

問14. あなたが過去に海外での研究活動を休止(あるいは中止)し日本に帰国している場合、その理由は何ですか？

	海外での研究活動を止め帰国した理由	回答
1	日本で博士号を取得するため	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
2	海外で博士号を取得し終わった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
3	ポスドクの契約が終了した	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
4	雇用期間が終了した	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
5	雇用機関から派遣された	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
6	ポスドクの職が見つかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
7	ヘッドハンティングされた	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
8	さらに給与の高い職業が見つかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
9	日本の方がポストを見つけやすかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
10	論文等の成果を出しやすかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
11	研究のさらなる発展や継続が可能だった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
12	海外には存在しない研究分野で仕事できた	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
13	自分自身の研究チームの構築が可能であった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
14	新しい研究チームを作れる可能性があった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
15	家族の事情があった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
16	経済的あるいは政治的理由があった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
17	その他(具体的に記述してください。)	

問15. 1 あなたは、来年以降の近い将来に日本を離れて海外での研究活動の予定がありますか？

①はい

②いいえ

**以下の問15. 2と16は、上記問15. 1で「①はい」を選ばれた方のみお答え下さい。  
それ以外の方は問17. 1へ進んでください。**

問15. 2 海外での滞在予定期間はどのくらいですか？

①3ヶ月以内

②半年以内

③1年以内

④1年以上3年未満

⑤3年以上

問16. 日本から離れて海外で研究活動を行う理由は何ですか？

	海外での研究活動を止め帰国した理由	回答
1	海外で博士号を取得する	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
2	日本で博士号を取得し、さらに研鑽を積む	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
3	ポストクが終了する	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
4	雇用期間が終了する	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
5	雇用機関から派遣される	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
6	ポストクの職が見つかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
7	ヘッドハンティングされた	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
8	さらに給与の高い職業が見つかった	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
9	海外の方が職を見つけやすい	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
10	論文等の研究成果を出しやすい	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
11	研究のさらなる発展や継続が可能	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
12	日本には存在しない研究分野で仕事ができる	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
13	自分自身の研究チームの構築が可能	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
14	新しい研究チームを作れる可能性	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
15	家族の事情がある	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
16	経済的理由のため	<input type="checkbox"/> ①該当する <input type="checkbox"/> ②該当しない
17	その他(具体的に記述してください。)	



問17. 1 あなたのキャリアパス(職歴)を直前の勤務先から遡ってご記入ください。平均年収(主たる雇用者からの給与で、一時所得等は含まれません。)はおよその額をご記入下さい。

	1 (直前の勤務先)	2 (その前の勤務先)	3 (さらにその前)	4 (以下、過去へ)
勤務地 (③は国名コード)	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内
	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )
セクター別	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他
勤務期間(西暦)	⑨ _____年 ⑩ _____月から ⑪ _____年 ⑫ _____月まで	⑨ _____年 ⑩ _____月から ⑪ _____年 ⑫ _____月まで	⑨ _____年 ⑩ _____月から ⑪ _____年 ⑫ _____月まで	⑨ _____年 ⑩ _____月から ⑪ _____年 ⑫ _____月まで
分野(分野コード)	⑬	⑬	⑬	⑬
仕事の内容	⑭	⑭	⑭	⑭
職階	⑮	⑮	⑮	⑮
任期	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無
勤務形態	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム
ポスドクでしたか?	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェローシップ <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェローシップ <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェローシップ <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェローシップ <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無
	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ
平均年収	23( )万円	23( )万円	23( )万円	23( )万円

**異動回数が4回以下の方は問18に進んでください。問17. 2と問17. 3は記入の必要はありません。**

問17. 2キャリアパス(続き) 異動回数が5回未満の方は記入の必要はありません。

	5	6	7	8
勤務地 (③は国名コード)	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内
	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )
セクター別	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他
勤務期間(西暦)	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで
分野(分野コード)	⑬	⑬	⑬	⑬
仕事の内容	⑭	⑭	⑭	⑭
職階	⑮	⑮	⑮	⑮
任期	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無
勤務形態	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム
ポスドクでしたか?	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無
	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ
平均年収	23( )万円	23( )万円	23( )万円	23( )万円

異動回数が8回以下の方は問18に進んでください。問17. 3は記入の必要はありません。



問17.3 キャリアパス(続き) 異動回数が9回未満の方は記入の必要はありません。

	9	10	11	12
勤務地 (③は国名コード)	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内	<input type="checkbox"/> ①国内
	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )	<input type="checkbox"/> ②海外 ③( )
セクター別	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	<input type="checkbox"/> ④民間企業 <input type="checkbox"/> ⑤非営利団体 <input type="checkbox"/> ⑥公的機関 <input type="checkbox"/> ⑦大学等 <input type="checkbox"/> ⑧その他
勤務期間(西暦)	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで	⑨_____年 ⑩_____月から ⑪_____年 ⑫_____月まで
分野(分野コード)	⑬	⑬	⑬	⑬
仕事の内容	⑭	⑭	⑭	⑭
職階	⑮	⑮	⑮	⑮
任期	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無	<input type="checkbox"/> ⑯有 <input type="checkbox"/> ⑰無
勤務形態	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム	<input type="checkbox"/> ⑱フルタイム <input type="checkbox"/> ⑲パートタイム
ポスドクでしたか?	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無	<input type="checkbox"/> ⑳はい フェロースhip <input checked="" type="checkbox"/> ㉑有 <input type="checkbox"/> ㉒無
	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ	<input type="checkbox"/> ㉓いいえ
平均年収	23( )万円	23( )万円	23( )万円	23( )万円

ご記入ありがとうございました。引き続き問18に進んでください。

**設問18から30では「科学技術人材の流動性」についてご意見を伺います。**  
**なお、すべての設問について個人としてのご見解をお答え下さい。**  
**設問内容についてご判断に迷うときは、「0」(わからない)をお選び下さい。**

問18. あなたは、日本人研究者の流動性は、国内の機関間、国内から海外、海外から国内を全体的にみて、5年前に比べて増加したと思いますか？適切と思うものを一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします)	極めて増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少した	わからない
①日本人研究者の流動性は、5年前に比べて？	5	4	3	2	1	0

問19. あなたは、日本における流動性は他の先進諸国と比べて高いと思いますか？適切と思うものを一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします)	極めて高い	やや高い	同等である	やや低い	極めて低い	わからない
日本における流動性は他の先進諸国と比べて？						
① 国内の機関間	5	4	3	2	1	0
② 国内から海外	5	4	3	2	1	0
③ 海外から国内	5	4	3	2	1	0

問19の①で、「やや低い」、「極めて低い」を選ばれた方は、問20にもお答え下さい。

問19の②で、「やや低い」、「極めて低い」を選ばれた方は、問21にもお答え下さい。

問19の③で、「やや低い」、「極めて低い」を選ばれた方は、問22にもお答え下さい。

それ以外の方は、問23に進んでください。

問20. 国内の機関間の流動性が他の先進諸国に比べ低い理由は何といますか？

問19の①において「やや低い」「極めて低い」を選択された方のみお答えください。 国内の機関間の流動性が他の先進諸国に比べ低い理由は？	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①所属機関の人事制度が硬直的	1	2	3	4	5	0
②所属機関が優秀な研究者を手放さない	1	2	3	4	5	0
③移籍すると給与が下がる	1	2	3	4	5	0
④研究者が安定を望んでいる	1	2	3	4	5	0
⑤流動性が高いことのデメリットが大きい	1	2	3	4	5	0

問21. 国内から海外への流動性が他の先進諸国に比べ低い理由は何といますか？

問19の②において「やや低い」「極めて低い」を選択された方のみお答えください。 国内から海外への流動性が他の先進諸国に比べ低い理由は？	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①日本の方が海外よりも研究レベルが高い	1	2	3	4	5	0
②日本の方が研究施設や研究設備が充実している	1	2	3	4	5	0
③日本の方がポストをみつけやすい	1	2	3	4	5	0
④日本の方が研究資金が潤沢である	1	2	3	4	5	0
⑤日本の方が生活環境がよい	1	2	3	4	5	0
⑥日本の方が給与水準がよい	1	2	3	4	5	0
⑦他の先進国と地理的に離れている	1	2	3	4	5	0
⑧海外へ移籍した後、日本に帰ってくるポストがあるか不安	1	2	3	4	5	0
⑨海外の研究機関に移籍するためのコネクションがない	1	2	3	4	5	0
⑩海外へ出ることのデメリットの方が大きいので日本で研究していれば十分	1	2	3	4	5	0
⑪優秀な研究者は所属機関が手放さない	1	2	3	4	5	0

問22. 海外から国内への流動性が他の先進諸国に比べ低い理由は何と御座いますか？

<p>問19の③において「やや低い」「極めて低い」を選択された方のみお答えください。</p> <p>海外から国内への流動性が他の先進諸国に比べ低い理由は？</p>	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①海外の方が研究レベルが高い	1	2	3	4	5	0
②海外の方が研究施設や研究設備が充実している	1	2	3	4	5	0
③海外の方がポストを見つけやすい	1	2	3	4	5	0
④海外の方が研究資金が潤沢である	1	2	3	4	5	0
⑤海外の方が生活環境がよい	1	2	3	4	5	0
⑥海外の方が給与水準がよい	1	2	3	4	5	0
⑦他の先進国と地理的に離れている	1	2	3	4	5	0
⑧日本の生活習慣や文化的な違いになじめない	1	2	3	4	5	0
⑨日本ではこどもの教育に不安がある	1	2	3	4	5	0
⑩日本では配偶者の就業場所を見つけることが困難	1	2	3	4	5	0
⑪入国手続きや滞在手続きなど事務作業が煩雑	1	2	3	4	5	0
⑫日本の生活費が高くらしにくい	1	2	3	4	5	0
⑬外国人が日本でポストを見つけることが困難	1	2	3	4	5	0

問23. あなたは、日本において研究者の流動性が増加すると、どのようなメリットがあると思いますか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします) 日本において研究者の流動性が増加したときのメリットは？	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①所属機関は優れた人材を獲得できる	1	2	3	4	5	0
②所属機関は人材のやる気を引き出せる	1	2	3	4	5	0
③所属機関は新しい研究領域を開拓できる	1	2	3	4	5	0
④所属機関は新しい文化を取り入れられる	1	2	3	4	5	0
⑤所属機関は論文等の業績が少ない研究者等の転出を促せる	1	2	3	4	5	0
⑥流動性は研究者本人のキャリアアップにつながる	1	2	3	4	5	0
⑦研究者の給与が上がる	1	2	3	4	5	0
⑧研究者の研究能力が高まる	1	2	3	4	5	0
⑨周囲の研究者に対して刺激を与えることによって、彼らの研究能力が高まる	1	2	3	4	5	0
⑩研究者が異分野との研究者と交流できる	1	2	3	4	5	0
⑪研究者が新しい研究領域を開拓できる	1	2	3	4	5	0
⑫研究者本人が新しい文化を取り入れられる	1	2	3	4	5	0
⑬周囲の研究者が新しい文化を取り入れられる	1	2	3	4	5	0

問24. あなたは、日本において研究者の流動性が増加すると、どのような不都合がおきるとお考えですか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします)	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
日本において研究者の流動性が増加したときの不都合は？						
①所属機関は優れた人材を失い易くなる	5	4	3	2	1	0
②所属機関のノウハウが流出しやすくなる	5	4	3	2	1	0
③長期の研究計画の設定が困難になる	5	4	3	2	1	0
④研究テーマの継続性が失われやすくなる	5	4	3	2	1	0
⑤業績主義が強くなるので、研究テーマが制約され、独創性が発揮できなくなる	5	4	3	2	1	0
⑥長期的な基礎研究の実施が難しくなる	5	4	3	2	1	0
⑦異動によって研究者の収入が減る	5	4	3	2	1	0
⑧研究者が退職金で不利になる	5	4	3	2	1	0
⑨研究者が年金や保険の面で不利になる	5	4	3	2	1	0
⑩研究者が昇任の面で不利になる	5	4	3	2	1	0
⑪日本の研究レベルが低下する	5	4	3	2	1	0

問25. あなたは、日本人研究者の海外への転出が5年前に比べ増加したとお考えですか？適切と思うものを一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします)	非常に増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	非常に減少した	わからない
①日本人研究者の海外への転出は5年前に比べ、	5	4	3	2	1	0



問26. あなたは、日本人研究者が外国の大学や研究機関に転出(期間を定めた海外における研究能力研鑽等も含みます。)する理由をどのように思いますか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

(すべての方にお伺いします) 日本人研究者が外国の大学や研究機関に転出する理由は？	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①海外の方が日本よりも研究レベルが高い	5	4	3	2	1	0
②海外の著名な研究者の下で研究ができる	5	4	3	2	1	0
③研究施設や研究設備が日本より充実している	5	4	3	2	1	0
④日本に比べ海外には多くのポストが見つかる	5	4	3	2	1	0
⑤日本に比べ研究費が潤沢で研究に専念できる	5	4	3	2	1	0
⑥海外の方が日本よりも生活環境が良い	5	4	3	2	1	0
⑦海外の方が日本よりも給与水準が高い	5	4	3	2	1	0
⑧海外では、研究成果と能力に応じて昇進できるシステムがある	5	4	3	2	1	0
⑨専門分野の研究能力と併せ、コミュニケーションや議論のための語学能力を高めることができる	5	4	3	2	1	0
⑩キャリアアップにつながる	5	4	3	2	1	0
⑪研究対象が現地に存在している	5	4	3	2	1	0
⑫海外でキャリアを積むことが日本の研究者コミュニティで評価される	5	4	3	2	1	0

問27. 外国に出た研究者がそのまま移住することもあり、**頭脳流出**(注)と呼ばれています。あなたは、このような頭脳流出(注)した日本人研究者が帰国を希望しない理由は何であると思いますか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

(注)頭脳流出とは、「高度な教育を受けた人々が、よりよい研究環境や労働条件を求めて外国に移住すること」、を言います。

(すべての方にお伺いします)	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
頭脳流出した日本人研究者が帰国を希望しない理由は？						
①日本の予算システムに柔軟性が少ない	5	4	3	2	1	0
②日本では研究を推進するための魅力的な研究施設・研究設備が整っていない	5	4	3	2	1	0
③日本では、 <b>研究の好循環</b> (注)がうまく機能しない	5	4	3	2	1	0
④日本では研究評価が公平でない	5	4	3	2	1	0
⑤日本では研究業績に見合う報酬が得られない	5	4	3	2	1	0
⑥日本では個人の能力に基づく雇用契約がない	5	4	3	2	1	0
⑦研究指導者の指示以外の研究ができない	5	4	3	2	1	0
⑧日本には独創的な研究を受け入れる環境がない	5	4	3	2	1	0
⑨日本では、基礎研究を実用化へつなげる局面で様々な障壁がある	5	4	3	2	1	0
⑩日本の研究組織では専門分野を超えた融合的な研究が行えない	5	4	3	2	1	0
⑪日本の採用制度は、年齢や学歴が重視され、能力と交渉力が重要視されない	5	4	3	2	1	0
⑫日本は師弟関係により人事を決める傾向にある	5	4	3	2	1	0
⑬日本は多様性のある人材配置が難しい	5	4	3	2	1	0
⑭日本よりも海外の生活環境の方が良い	5	4	3	2	1	0

(注)研究の好循環とは、「良い研究成果を出した研究者が、研究費の獲得が容易になり、その資金を継続して研究に投入することで、成果を上げながらステップアップすること」、を言います。



問28. あなたは、日本に滞在する外国人研究者が、5年前に比べ増えたと思いますか？適切と思うものを一つ選んで数字に丸印を付けてください。

(注) 頭脳流出とは、「高度な教育を受けた人々が、より良い研究環境や労働条件を求めて外国に移住すること」、を言います。

(すべての方にお伺いします)	極めて増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	極めて減少した	わからない
①日本に滞在する外国人研究者は、5年前に比べて、	5	4	3	2	1	0

**問28において「やや増加した」または「極めて増加した」に丸印を付けられた方は、問29と問30にもお答えください。それ以外の方はこれで問は終わりです。**

問29. あなたは、外国人研究者が、日本の大学や研究機関を選んで在籍し研究を実施している理由は何とご思いますか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

問28で「やや増加した」または「極めて増加した」に丸印を付けられた方のみお答えください。 外国人研究者が、日本の大学や研究機関を選んで在籍し研究を実施している理由は？	非常に該当する	やや該当する	どちらでもない	あまり該当しない	全く該当しない	わからない
①対象となる研究分野で日本のレベルが高い	5	4	3	2	1	0
②著名な研究者の下で研究ができる	5	4	3	2	1	0
③研究施設や研究設備が充実している	5	4	3	2	1	0
④外国人研究者の受け入れ制度が充実している	5	4	3	2	1	0
⑤日本は研究費が潤沢で研究に専念できる	5	4	3	2	1	0
⑥日本は治安が良く生活しやすい	5	4	3	2	1	0
⑦日本の方が給与が高い	5	4	3	2	1	0
⑧日本の大学や研究機関に適当なポストがある	5	4	3	2	1	0
⑨能力に応じて昇進できるシステムがある	5	4	3	2	1	0
⑩日本の人事評価が公平である。	5	4	3	2	1	0
⑪外国にポストがなく、仕方なく日本に来ている	5	4	3	2	1	0

問30. 日本の大学や研究機関で研究活動を行っていた外国人研究者が、日本を去るとき理由は何かと  
 思いますか？下記項目について、適切と思うものをそれぞれ一つ選び数字に丸印を付けてください。

問28で「やや増加した」または「極めて増加した」に丸印を付けられた方のみお答え ください。  日本の大学や研究機関で研究活動を行っていた外国人研究者が、日本を去るとき の理由は？	非 常 に 該 当 す る	や や 該 当 す る	ど ち ら で も な い	あ ま り 該 当 し な い	全 く 該 当 し な い	わ か ら な い
①出身国や他国で満足できるポストを獲得	5	4	3	2	1	0
②出身国や他国の研究機関や研究者による招聘	5	4	3	2	1	0
③当初より他国での研究活動を希望	5	4	3	2	1	0
④他国の研究施設・研究整備の充実	5	4	3	2	1	0
⑤研究活動でも日本語を使わなければならない	5	4	3	2	1	0
⑥研究業務の事務手続きが煩雑で煩わしい	5	4	3	2	1	0
⑦任期付雇用契約のため将来が不安	5	4	3	2	1	0
⑧競争的研究資金の獲得が困難	5	4	3	2	1	0
⑨日本の生活習慣になじめない	5	4	3	2	1	0
⑩日本ではこどもの教育面で不安がある	5	4	3	2	1	0
⑪配偶者の就業場所を見つけるのが困難	5	4	3	2	1	0
⑫日本人との人間関係を構築するのが困難	5	4	3	2	1	0
⑬滞在許可等の事務手続きが煩雑	5	4	3	2	1	0
⑭生活費が高く暮らしくい	5	4	3	2	1	0
⑮日本では希望するポストに就くことが困難	5	4	3	2	1	0
⑯外国人に対する人事評価が適切でない	5	4	3	2	1	0
⑰もともと一時的な計画での来日だった	5	4	3	2	1	0

設問は以上です。ご多忙のところ回答下さいましてありがとうございました。

返信用封筒に入れてご送付下さい。切手は不要です。